令和2年度

学社融合推進協議会活動報告集

令和3年3月

田辺市教育委員会

はじめに

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、田辺市内の小・中学校は４月１４日から５月３１日まで一斉に休校措置を取りました。これと同様に、それぞれの学社融合推進協議会においても通常開催が困難となり、書面開催に変更したり学校が再開するまで開催を遅らせたりするなど、今までと異なる形態となりました。

また、例年であれば学社融合活動もスムーズに運営されるところではありますが、今年度は大半の活動が中止、若しくは規模縮小を余儀なくされるなど、運営に関しても苦慮する場面が多々見られました。

このような状況の中で、「活動を停滞させないため、どのような方法であれば実施可能であるか。子供たちのために、今何ができるのか。」といったことをそれぞれの学社融合推進協議会が模索し、工夫しながら歩を進めていただいている様子を随所に伺い知ることが出来ました。

例えば、ある中学校と公民館では、密にならないようにするためにＷｅｂ会議システムを導入して防災講演会を開催したり、ある小学校では地域の商店とライブ中継をして町探検学習をしたり、ＩＣＴを柔軟に活用した実践報告がありました。

いくつかの中学校では、生徒が地域を活性化するために行動を起こし、地域の名所旧跡をＷｅｂ配信したり、地元の商店とともに特産物を使った食品開発を行ったり、地域の特色を捉えたキャラクターを作成したり、地域の皆さんと試行錯誤を繰り返しながら協働して取り組んだという報告もありました。

コロナ禍で活動が制限される状況にあっても、学校と地域が協働して前に進もうとする姿に逞しさを感じるとともに、田辺市がこれまで取り組んできた学社融合活動で培った力や繋げる力が、困難という壁を乗り越える推進力になっていると強く実感しました。

また、今年度の田辺市学社融合夏季研修会についても、２８の協議会関係者が４会場に分散し、研修時間も短縮して開催しました。但し、どの協議会においても今後の活動に有効に働くような内容の充実した研修会になるよう、入念に準備を行った上で開催しました。

初めての試みでしたが、出席者からは「コロナ禍でも実施可能な方法を取り入れ、充実した研修会、学びの多い研修会でした。」といった感想をいただきました。開催に際し、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

次年度も、全ての園・学校と公民館・地域が連携・協働して、コロナ禍であっても創意工夫をしながら実施可能な活動を展開し、学社融合推進協議会の一層の充実を図っていただきますことを心から願っております。

令和３年３月

田辺市教育委員会　教育長　　佐　武　正　章

目　　次

［小学校］

田辺第一小学校…… 1
田辺第二小学校…… 3
田辺第三小学校…… 5
芳養小学校…… 7
大坊小学校…… 9
稲成小学校……11
会津小学校……13
新庄小学校……15
新庄第二小学校……17
三栖小学校……19
長野小学校……21
上秋津小学校……23
秋津川小学校……25
上芳養小学校……27
中芳養小学校……29
田辺東部小学校……31
龍神小学校……33
上山路小学校……35
中山路小学校……37
咲楽小学校……39
中辺路小学校……41
近野小学校……43
鮎川小学校……45
三里小学校……47
本宮小学校……49

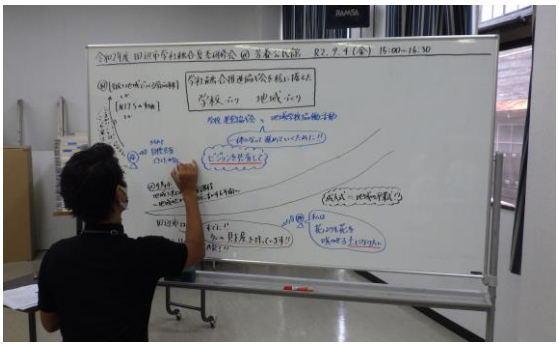
［中学校］

東陽中学校……51
明洋中学校……53
高雄中学校……55
新庄中学校……57
衣笠中学校……59
上秋津中学校……61
秋津川中学校……63
上芳養中学校……65
中芳養中学校……67
龍神中学校……69
中辺路中学校……71
近野中学校……73
大塔中学校……75
本宮中学校……77

［幼稚園］

新庄幼稚園……79
三栖幼稚園……81
上秋津幼稚園……83
中芳養幼稚園……85

[学社融合推進協議会活動報告集]



令和２年９月

学社融合推進協議会　夏季研修会　４会場の様子

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：田辺第一小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立田辺第一小学校	公民館名	中部公民館

学社融合における学校・地域の様子

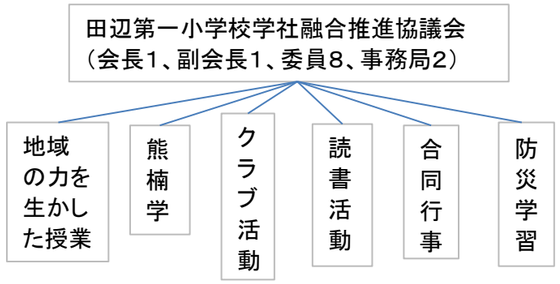
本校の校区は、かつての城下町の名残をとどめ、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、歴史と伝統にあふれる地域である。熱心に学校教育活動を支援してくれる人材にも恵まれており、教科・総合的な学習の時間・クラブ活動などを中心に、地域の教育資源を生かした特色ある取組を行っている。

目標

学校・園・地域

【学校】
・地域の人々との活動を通して伝統芸能や文化にふれることができる。
・専門的で充実した活動によって、達成感や満足感を味わわせ、自主的・実践的な態度を育てる。
・地域の人々や仲間との活動を通して、望ましい人間関係を築くことができる。
【地域】
・地域と子供たちとの交流の中で、互いが学び合っていることを自覚し、大人と子供の双方からつながりを築く。
・学校と地域が連携した活動を展開する中で、子供たちも自分たちが地域の一員である自覚を持たせる。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・熊楠学
（地域学習コーディネーター）
・田辺観光ボランティアガイド
・地域の方々
・保護者

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・地域から学ぶ内容は児童にとって新鮮で未知なことが多く大変有意義である。 ・職員にとっても地域や他の専門分野を知るよい機会となっている。 ・テレビ会議システムの活用など、感染防止に努めながら新しい学習方法に取り組むことができた。	・新型コロナウイルス感染拡大により、従来の学社融合の取組が大きな制約を受け、多くの活動が中止を余儀なくされた。来年度以降も感染対策と学社融合の充実をどう両立していくかが課題である。
公民館（地域）	・本年度は新型コロナウイルスの影響で、例年行っている学社融合の活動は行うことができず、地域の方々が学校と接点を持つ機会が著しく少なかったが、このような状況だからこそ、地域と学校が協力し、知恵を出し合うことで困難な状況を打破し、新たな形の取組を行うことができた。 ・活動を通じて、子供への知識や経験を継承することの素晴らしさや喜びを感じ、また自己への更なる学びとなった。	・来年度も新型コロナウイルスの影響が予測不可であるため、慣例にとらわれることなく、新たな取組を模索する必要がある。 ・現在は授業参加の呼びかけを行うと多くの地域住民が参加してくれているが、ゲストティーチャーを含めた地域住民の高齢化が進んでいることから、新たな指導者や参加者を確保していくことを検討する必要がある。 ・より多くの地域の方に知ってもらえるよう、学習成果の発表方法・機会を工夫していく。

今年度の取組内容

○「リモート町たんけん」（１学期）
　例年、２年生は生活科の学習で町たんけんを実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域に出かけて学習することができなかった。そこで、テレビ会議システム「Zoom（ズーム）」を使って、地域の数軒のお店と学校をつなぎ、校外へ出かけずに学習を行った。公民館主事がリポーター兼カメラマンとして校区内の家具店や美容院等に出向き店内の様子を撮影した。児童は学校からパソコン画面やスクリーン越しにインタビューをした。

【児童の感想】
・町たんけんのオンラインをして、たのしかったです。たのしいものや、もっと見たいものや見たこともないものを見て、たのしかったです。わたしは、町たんけんをしてくれた人にかんしゃしています。早く町たんけんで見たお店に行きたいです。見たお店の人にあいたいです。
・ぼくは、いろいろなお店にしつもんをして、いろいろなことをしることができてリモート(オンライン)をしてよかったです。ぼくは、それぞれのお店にインタビューをして、一日になんにんくるのかもきけたし、ほかにもたくさんのことをしることができました。

○「ブックトーク」（２学期）
　読み聞かせサークル「リーブル」の皆さんによるブックトークを全ての学年で行った。いつもは年間を通して各教室で行っていたが、今年は回数を減らして１回だけの実施となった。広い場所（多目的ホール）で十分な間隔をとり、シールドを用いるなどの感染対策を取りつつ実施した。学年ごとの学習内容を踏まえた本の選定や工夫された紹介により、児童は魅力的な本の世界にひきこまれていった。

○「公民館ロビー展示会」（２学期）
　例年公民館で実施している作品展が中止となったため、中部公民館が独自に小規模な作品展を開催した。地域の人の作品に交じって１年生が作成した作品を展示した。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：田辺第二小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立田辺第二小学校	公民館名	東部、南部公民館

学社融合における学校・地域の様子

本校は「地域活動に参加し、ふるさとを愛する子供を育てる」を教育目標のひとつに掲げ、本校区にある東部公民館と南部公民館との連携を図りながら学社融合の取組を進めてきた。しかし、今年度は、コロナウイルス感染症予防のため、公民館主催文化展示会への作品出品、幼･保･小･中学校及び地域との地震津波避難合同訓練、公民館主催行事（バスピン大会やウォークラリー大会等）などが中止となった。

そのような中ではあるが、各学年、生活科及び総合的な学習の時間に、公民館や地域の方々等のご協力を得ながら、地域に出かけたり、ゲストティーチャーとして来校していただいたりして、地域学習、福祉体験学習、歴史学習等に取り組んできた。

目標		
	学校・園・地域	○自分たちが住む地域の良さを知り、ふるさとを愛する児童を育てる。またその学習の中で調べる力・協力する力・表現する力を身につけさせる。 ○自分たちでは調べられないことをゲストティーチャーに教えていただき、聞く力・まとめる力を育てていく。 ○南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中、沿岸部に位置する本校にとって防災安全学習への取組を充実させることは大変重要である。これらの活動を通して、主体的な判断力と行動力をもつ児童を育てる。 ○子供たちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。（公民館） ○地域の良さを伝えることで、子供たちとの交流を楽しむとともに、自分たちも地域について見直す機会とする。（地域）

校（園）区の推進組織（組織体制図）

田辺第二小学校学社融合推進協議会

⇕

東部・南部公民館　東陽中学校　幼稚園

保育所　育友会

⇕

地域の力を生かした教育活動

支援者及び支援組織

東部公民館
南部公民館
田辺市防災まちづくり課
ファミールヴィラ自治会
交通安全指導委員会東部小隊
闘鶏神社
神楽神社
地域にお住まいの皆様方

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	○コロナ禍のなかではあったが、感染予防を徹底したり、綿密に打ち合わせをしたりすることで、各学年ともに工夫して地域学習に取り組むことができた。 ○子供たちにつけさせたい力（問題解決の力・共に学ぶ力・表現する力）を明確にして、学習や活動をさせることができた。 ○地域の自然や社会【人々・歴史・施設・文化・動植物】と関わる中で、問題を発見し、追求する力や仲間と協力し活動する力等を高めることができた。	◇これまでは、発表会を開いて、学んだことを地域に発信することができていたが、今年度は、地域の方を学校に招くことができなかった。ただし、見学や体験学習でお世話になった施設や地域の方々には、お礼の手紙や新聞、ポスターにまとめたものを届けるようにした。 ◇コロナウイルス感染症予防をしながらの学校生活は、やはり子供にとっても窮屈なものであったと思う。校外に見学に行ったり、体験学習をしたりしているときの子供たちの目はとても輝いていた。１学期に計画していたが実施できなかった学習を補えるとよい。
公民館（地域）	○コロナ禍のなかではあったが「児童の健全育成」をテーマに地区懇談会を開催することができた。そこで、地域ぐるみで子供たちを安全に育てる為にどのような取組を進めていくかを話し合い、情報や課題を共有することができた。 ○３年生は、国語の学習で作成した「なるほど！発見リーフレット」を、図書をお借りした『たなべる』に展示していただいた。地域の方々にも見ていただき、子供たちの自信にもつながったと感じる。今後も地域の教育資源を有効に活用していきたい。	◇地域の防災学習や訓練、または地区懇談会などの参加人数が年々減少してきている。今後も保護者世代の参加を促すように働きかけていきたい。また、学校と地域、子供と地域の人間関係を構築できる機会を増やしていきたい。 ◇登校指導をしてくださっている地域の方への挨拶が不十分であったり、地域の方から危険な遊び等で注意を受けたときに素直に聞けなかったりすることがあった。地域の方々にお世話になっているという感謝の心を育んでいきたい。

今年度の取組内容

屋上避難訓練【全校】

11月に、津波避難訓練を実施した。例年は、幼稚園や中学校等と合同で行っていたが、本年度は、密集を避けるため、自校のみで屋上へ避難した。

花の苗植え【１．２年生】

1、2年生は、生活科の学習の中で、NPO法人花つぼみさんをゲストティーチャーとして迎え、パンジーやビオラ等の花の苗の植え方を教えていただいた。

発見!町の仕事名人【３年生】

3年生は、地域の仕事名人の方々（北本商店、幸屋、三浦畳店、碓井商店、七福堂、アセロラフーズ）を訪れ、仕事の内容や技術、思い等について学んだ。

つなげようみんなの心【４年生】

4年生は、新設された武道館に見学に行き、施設や植芝盛平について学んだ。また、田辺警察署、南方熊楠顕彰館も見学し、まとめて発表することができた。

暮らしを見つめて【５年生】

5年生は、地域の障害者の方や社会福祉協議会の方から、障害者の生活や福祉について学び、みんなにやさしい町作りについて考えを深めることができた。

地域の歴史をさぐろう【６年生】

6年生は文化振興課中川氏を講師に招き、岩陰遺跡や闘鶏神社等、地域の歴史について学んだ。今後は、5年生や保護者に向けて、語り部活動をしていく予定である。

多くのゲストティーチャーの方々にご来校いただく

コロナ禍のなか、例年だと体験学習や見学に訪れていた場所や施設に行くことができないことも多かったが、様々な方にゲストティーチャーとして来校いただいた。具体物を使っての実験や説明をしてくださったり、分かりやすい資料を準備してくださったりしたおかげで、豊かな学びを実現することができた。

学校の様子を公民館報等で地域に発信

運動会や校内音楽会等、毎年多くの地域の方々に参観していただいていた学校行事だが、密集を避けるため、今年は保護者のみの参観とした。（運動会で、児童の見学場所に校舎のベランダを活用したり、学習発表会で、体育館を対角線で区切って発表の舞台と参観席に分けたりしたが、やはり保護者に見ていただくのが限界であった。）公民館報等をとおして、できる限り情報を発信し、学校の様子を伝えられるように心がけた。

地域の方々との心のつながりを大切に

今年度、地域の方々にも参観していただけたのが、校内持久走記録会である。扇ケ浜公園のトリムコースで実施したため、三密を避けることができた。顔を真っ赤にして一生懸命に走る子供たちに大きな声援をいただいた。記録会終了後にコース清掃をしていると、地域に住んでいる方から「いつも、そうやって掃除してくれているんですね。でも白いラインが残っていることがあります」とお声をかけていただいた。その後、来たときよりも美しくを合い言葉に、全職員で清掃を行った。これからも、地域の方々との心のつながりを大切にし、連携して子供たちの学びや愛郷心を育んでいきたい。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：田辺第三小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立田辺第三小学校	公民館名	西部公民館

学社融合における学校・地域の様子

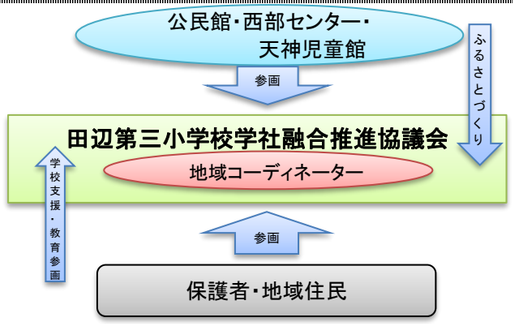
本校は、田辺第三小学校学社融合推進協議会を中心として、西部公民館、西部センター「天神町の教育を進める会」、天神児童館「西部エンパワーメント支援事業」等と協働・連携しながら各種の事業に取り組んでいる。本校区内では、核家族化が進行する中、高齢化や少子化などの問題も含んでおり、地域社会との関わりを推進し、地域の一員であるとの自覚を持つ児童を育成していくことは、大変重要であると共に大きな課題である。そのため、地域を知り、地域に興味・関心を持って活動を行うことを大切にし、地域に出かけ、体験的な活動を通して積極的に地域との交流を図るようにしている。

目標

学校・園・地域

①子供の教育をよりよいものとする。
②地域の教育力を向上させ、郷土愛を育てる。
③学社融合（生涯学習）を推進し、更に充実する。
④「地域の子どもは、地域とともに育てていく。」という意識を更に高める。
⑤学社融合事業をさらに地域に浸透させていく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

- 西部公民館
- 西部地区自主防災連絡協議会
- 西部町内会連絡協議会
- 西部老人クラブ連合会
- 校区協議会
- 天神児童館
- 西部子どもエンパワーメント支援事業
- 西部センター
- 民生委員
- スポーツ推進委員

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	昨年度まで、学習支援ボランティアの方々と交流し、いっしょに活動することや、寄り添って学習する活動が定着してきていたが、本年度は新型コロナへの対応から、条件的に実施できる活動のみとなった。活動では、経験や専門性を生かしたアドバイスをしてもらうことで、意欲的に取り組める児童が増え、学習活動にも深まりが見られている。	新型コロナウイルス感染防止への対応から、実施できる活動が大変少なくなった。 加えて、地域コーディネーター・学習支援ボランティア（OK先生）については、高齢化に伴い配慮が必要となってきている。また、新たな人材の発掘や声かけなど、常にアンテナを高くし、協力を求めていく必要がある。
公民館（地域）	昨年度は、地域の方々の協力により各種の事業を実践することができたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、多くの事業が実施できなかった。 実践した事業においては、限られた時間の中で子供たちと地域の方々が交流を深めることができた。子供たちも意欲的に取組む姿が見られ、大変有意義なものとなった。	新型コロナウイルスの終息が予測できない中、来年度も事業の実施に際して様々な制限がある中で、実施可能な事業を見極め実践していくことが必要である。 また、事業に協力していただいている人材の高齢化や健康上の問題により継続が困難な事業もある中で、再度人材リストの精査や新たな人材の発掘が課題である。

今年度の取組内容

実施日	活動名	活動内容	学年
5月20日	第1回田辺第三小学校学社融合推進協議会（書面決済）	本年度の活動計画	
7月16日	第1回俳句をつくろう	地域の方に教えていただき、夏の季語をつかい俳句を実際に作る。	4年
10月13日	天神児童館見学	お世話になる天神児童館を訪問し、使い方などを知る。	1年
10月27日	町探検	自分たちに関わりのある場所を訪問し、見学する。	2年
10月29日	天神崎の生き物観察	天神崎の生き物について、現地で観察し説明を受ける。	3年
11月6日	地域学習「熊野古道」	出立王子、潮垢離浜跡、牛の鼻、一里塚、芳養王子を見学する。	6年
11月27日	西部花いっぱい運動花植え	御所谷坂学校法面下花壇へ花を植える。	5年
12月15日	第2回俳句をつくろう	地域の方に教えていただき、冬の季語をつかい俳句を実際に作る。	4年
12月22日	第2回田辺第三小学校学社融合推進協議会（書面決裁）	1・2学期の取組と児童の様子	
実施予定	防災学習	各地区に分かれ、地震・津波に対する危険箇所を教えていただく。	6年
実施予定	町探検「やすらぎ荘」訪問	町探検の一環として、「やすらぎ荘」を訪問し、親交を深める。	2年
実施予定	天神崎学習	ナショナルトラストの観点から天神崎について学習する。	5年
実施予定	児童館探検	天神児童館をより深く知るために、児童館を訪問する。	2年
実施予定	第3回俳句をつくろう	地域の方に教えていただき、春の季語をつかい俳句を実際に作る。	4年
実施予定	第3回　田辺第三小学校学社融合推進協議会	本年度の成果と来年度に向けて	

天神児童館見学（1年）

町探検（2年）

天神崎の生き物観察（3年）

俳句をつくろう（4年）

西部花いっぱい運動花植え（5年）

地域学習「熊野古道」（6年）

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：芳養小学校学社融合推進協議会

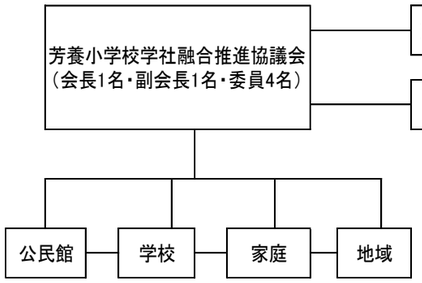
学校・園名	田辺市立芳養小学校	公民館名	芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

芳養小学校では、「芳養共育コミュニティ本部」を学社融合の基盤とし、児童の健全育成を図る取組を行っている。その内容は、地域と学校が連携したもの、育友会・家庭と学校が連携したもの、公民館と学校が連携したもの、地域の教育力を生かした授業、芳養ふれあい教室などとなっており、いずれも話し合いを大切にしながら、学校・地域・家庭・公民館が一体となって進めている。また、「芳養地域人材バンク」を活用することで、地域の教育力を授業に生かしている。「芳養地域人材バンク」とは、芳養公民館と学校が共に募集をしているもので、登録していただいた方には、スクールパートナーとして生活科や国語科、書写、総合的な学習の時間などの授業に参加していただいている。

目標	学校・園・地域	・学校・家庭・地域の連携と教育力の向上を図るとともに、児童の健全育成を目指す。 ・保護者や地域の方々との触れ合いを通して、児童のコミュニケーション能力を育むとともに、地域を大切にする心を育てる。 ・地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで教育内容の充実を図るとともに、地域活性へと繋げる。 ・地域の方々が学校や子どもたちの様子を知ることで、今後の地域づくりに生かす。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

「芳養共育コミュニティ本部」
・芳養公民館
・芳養地域人材バンク登録者
・育友会
・地域の人々

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・スクールパートナーの活用によって授業への興味関心が高まっている。また、専門的な指導の機会を得るとともに、地域の方々とのコミュニケーションを学ぶよい機会となっている。 ・授業の感想文を見ると、協力者の皆さんへの感謝の言葉がたくさんつづられている。地域の方々に支えられていることが実感できる取組となっている。	・新型コロナウイルス感染防止により、ヒマワリの種植え、よもぎだんご作り、おいもの蒸しパン作り、ひじきご飯作り、梅ジュース作りなど、食事や人と密接にかかわる活動は実施できなかった。今後も状況を見ながら検討を要する。 ・また、放課後のふれあい教室では、協力者の高齢化によって、活動を休止しているものも出てきている。公民館と協力しながら、次の人材確保を進めていくことが課題である。
公民館（地域）	・学校の様々な活動に、地域の方々が積極的に協力してくださっている。このことは、学校と地域が一体となって、子供たちを育てるという意識を持ってもらうことにつながっている。 ・様々な取組を通して、地域の方々は子供たちや学校の様子を知ることができていることや、地域の協力者の方々同士の交流も深まっている。	・学校の授業やふれあい教室における活動について、地域の方々や保護者の方々に対して、さらに周知し、今後も多くの方々に協力をしていただけるように取り組んでいきたい。

今年度の取組内容

芳養地域人材バンクのスクールパートナーの方々による授業協力が進んだ。

・今年は1年生の俳句の授業に、スクールパートナーの協力をお願いした。指導の甲斐あって、市民俳句大会において優秀な成績を収めることができた。

・3年生の書き方では、毛筆の指導にもスクールパートナーの協力をお願いした。ふれあい教室にも来ていただいている方で、何度かお越しいただいた。

・低学年の昔の遊び体験にも地域のお年寄りの方々にお越しいただき、お手玉やめんこ、コマ回しやけん玉などの指導をお願いした。

・芳養浦音頭を運動会で踊るために、地域の婦人会の皆さんにお越しいただき、芳養浦音頭の指導を行っていただいた。今年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、例年であれば1回で行う指導を、中学年と高学年の2回に分けて指導していただいた。また、新しい音源を探していただき、踊りの歌詞も明瞭になって踊りやすくなった。

・5年生へ、地域の熊野古道の王子跡である大神社やお地蔵さんにまつわる昔話を聞かせてくださった。

・園芸委員会では、育てた花を地域の郵便局や公民館、3つの保育所、児童館などに届ける活動を行った。

・育友会主催のウォークラリー大会では、コース上の地域の清掃活動を親子のチームで行った。

・地域の方からいただいた花の苗を、園芸委員会で校内の花壇やプランターに植える作業を行った。

・読み聞かせのスクールパートナーの方々に朝学などの時間にお越しいただき、低・中学年を中心に読み聞かせを実施していただいた。

芳養駅の壁面をお借りして、学校の様子を掲示している。学期に2回程度、学年交代で絵画や習字の作品などを掲示している。

ふれあい教室の協力者の皆さんで、開催教室周辺の大掃除をしてくださった。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：大坊小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立大坊小学校	公民館名	芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

本校区は大坊・団栗の２地区に大別され、その住民の多くは柑橘・梅栽培を中心とした専業農家である。平成３１年３月、地域の長年の願いであった新校舎が完成し、喜びと感謝の中に新施設での学校生活がスタートした。同時に「学社融合推進協議会」の３つの専門部会がそれぞれの取組を計画・実践する中で、地域は学校を核としてこれまで以上に深い繋がりができてきている。

目標　**学校・園・地域**

大坊小学校学社融合推進協議会は「地域とともにある学校」を目指し、「学校は地域の未来」となれるよう、各専門部会を核とし実践的な取組や活動を進めていく。

具体的目標
- 目標１：地域人材を生かした「学校力の向上」
- 目標２：地域人材を生かした「学校環境の向上」
- 目標３：小学校を活用した「地域力の向上」

校（園）区の推進組織（組織体制図）

学社融合推進協議会親部
- **学習支援部**
  目標１：地域人材を生かした「学校力の向上」
  取組の柱　①学習支援　②家庭教育の支援
- **環境整備部**
  目標２：地域人材を生かした「学校環境の向上」
  取組の柱　①環境整備　②登下校の安全対策
- **地域活性化部**
  目標３：小学校を活用した「地域力の向上」
  取組の柱　①学校行事への参画　②学校施設の地域への開放

支援者及び支援組織
- 大坊小学校育友会
- 大坊小中学校校区協議会
- 大坊区
- 団栗区
- 地域老人会（白楽会）
- 両区青年団
- 大坊女性会
- 大坊実行組合

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・本地区の学社融合推進協議会において、学校、保護者、地域の三者が一体となって学校運営の目指す方向を協議していけたことは大きな成果であった。 ・今年度はコロナ感染症の中、大勢で何かをすることはできなかった、各部会ごとで計画したことをできる範囲で行えた。コロナが収まった後、していきたいことを色々と考える１年とした。 ・授業や学校行事に参画して頂ける地域の方々が新たに増え、人材活用のネットワークが広がった。 ・運動会や畝作りに青年団が参加してくれ「何でもします。」という力強い言葉をいただき嬉しかった。	・取組を日常的に行っていくことを毎年見直し、発展させていくことが大切だと考えている。 ・今年度は会議があまりとれなかったが、来年度は年間３回以上の会議を持ちPDCAサイクルを生かしたい。 ・スムーズな運営を行うため全職員が専門部会を担当している。計画したことを実行していくために地域の方と連絡をしっかりとっていくことが必要である。
公民館（地域）	・地域の方が公民館報を通して、児童や学校の様子を知り、地域が一体となって子供を育てるという意識が高まった。 ・学校と地域の交流だけではなく、地域の方同士の交流が深まり、自身が生まれ育ったり縁あって入居してきた地域に対しての愛着をさらに持つことができた。	・学校と地域がさらに連携し、地域の方や保護者の方とのつながりを深め、多くの方々に行事や活動に協力してもらえる体制を維持していきたい。

今年度の取組内容

①学社融合推進協議会（親部の会）

コロナウイルス感染症の影響で３ヶ月遅れの会議でした。学校長から協議会の説明と昨年度の活動報告をした後、今年度の活動方針を話し合いました。

②学社融合推進協議会　専門部会→親部の会

学習支援部・環境整備部・地域活性化部の３部会それぞれ担当委員を中心に今年度の具体的な計画を話し合いました。
- 学習支援部・・・読書啓発について
- 環境整備部・・・学習園の整備、本のしおり作り
- 地域活性化部・・かごバッグ教室

コロナが収まったらやってみたいことが色々出されました。

③地域人材による学習支援

【絵手紙クラブ】
大坊にお住まいの栗原和子さんに教えていただきました。コスモスを題材に描きました。毎年恒例なので高学年は慣れた筆さばきで、味のある作品を作り上げていました。

【フラワーアレンジメント】
団栗地区にお住まいの中本浩子さんに教えていただく予定です。

【書道教室】
大坊出身の濱本初代さんに書き初め会に向けて２回教えていただきました。

④ふるさと学習支援

１１月２０日の学習発表会

【低学年】「レッツゴー探検！大坊地区」
宮﨑量大さんと一緒に大坊をまわり、大きな岩山の名前や他地区の境目を教えていただきました。また、毎年お祭りで踊る「ありたおどり」を宮﨑佐和恵さんと山﨑米光さんに教えていただきました。

【中学年】「みかん栽培について」
学校の近くの岸本一宏さんのみかん畑を観察させていただきインタビューにも答えていただきました。
「僕もやってみたくなりました。」と学習後に感想を述べていた児童もいました。

【高学年】「大坊小学校の歴史」
祇園神社から始まった学校が新校舎になるまでのことを田川の坂本秀夫さんと大坊の火縄傳治さんから教えていただきました。
子供たちは、お二人の子供たちへの想いを感じて発表しました。
～保護者の感想～
※どの学年の発表も私の知らないことがたくさんあって、勉強になりました。子供たちだけでなく私たち親も地域のことを語り継げるようにしたいなと思いました。

⑤畑の畝作り

環境整備部と青年団の方が、校舎跡地にある畑の畝作りをしてくれました。ごつごつした石がいっぱいあったところがふかふかの畑に変身しました。タマネギを植え、春の収穫を楽しみにしています。

⑥勤労体験学習～家庭との連携～

６月と１２月の農繁期の土日を使って勤労体験学習を家庭で取り組んでもらっています。梅やみかんのお手伝いをよくしています。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：稲成小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立稲成小学校	公民館名	稲成公民館

学社融合における学校・地域の様子

伝統的に学校と地域との交流が盛んであるが、共育コミュニティ本部事業の指定を受け、学校・地域・家庭が一丸となって本校の教育活動を推進してきた。この事業に取り組んだことで、地域の学校教育に関する理解や関心が一層高まり、事業終了後も授業支援や各種のボランティア活動にも積極的な支援をしてくれている。

目標

学校・園・地域

〈学校の目標〉
①学習支援ボランティアを学校教育に定着させ、地域と共に学校教育を充実する。
②図書ボランティア活動を活発にし、児童の読書意欲を喚起するとともに図書室を地域コミュニティの場として活用する。
③交通安全ボランティアを募り、より安全な登下校指導体制を構築する。

〈地域の目標〉
①学校教育に関わることで、地域の子供たちとの良好な信頼関係を結ぶ。
②ふるさと学習を支援することで、地域の歴史や文化を語り継ぐ。
③地域別の「共育ミニ集会」に参加することで、地域コミュニティ充実の機会とする。

校（園）の推進組織（組織体制図）

稲成学社融合推進協議会 ⇔ 校　長
↑　↓
田辺市教育委員会

育友会　公民館
稲成・むつみ町内会
稲成愛郷会
稲小いわき会

学習支援ボランティア
図書ボランティア
交通安全ボランティア
環境整備ボランティア

支援者及び支援組織

・稲成校区協議会
・稲成公民館運営協力委員会
・稲成町内会
・むつみ町内会
・稲成愛郷会
・稲小いわき会
・稲成小学校育友会
・民生児童委員会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	本年度はコロナウイルス感染症感染防止のため、公民館と合同で活動を行うことができなかったが、館長さん、主事さんを初めとして、公民館や町内会側からの自主的な申し出があり、次のような行事でご協力いただいた。 ・運動会 学校単独開催となったが、例年の町民運動会開催時の通り、駐車場の整理をしてくださった。保護者の負担が大きく軽減された。 ・ふるさと祭り 例年秋に開催する学校、地域の合同主催の行事である。本年度は学校単独で日曜参観日として実施したが、例年通り、高雄中学校吹奏楽部をお招きし、美しい音楽を鑑賞することができた。楽器の運搬等は町内会が担当してくださった。	・感染症感染防止のため、例年通り、地域や公民館との交流を持つきっかけ（三密の回避、交流の開始時期　等）の見極めが難しく、協力依頼をしにくい面があった。 ・様々な制限がある中で、リスクを回避しながら継続的・持続的な取組を模索することが必要である。 ・従来、地域の皆様や公民館には大変お世話になることが多いが、特に本年度は、地域や公民館に対して学校側から貢献できることがほとんどなく、大変心残りである。
公民館（地域）	学校とのかかわりを持つことが大変難しかったが、町内会とも協議し、出来る範囲でこれまでの諸行事の継続に努めた。上記の運動会や日曜参観日では、小学校と交流の機会が持てた。	運動会やふるさと祭り以外の諸行事やこれまで続けてきた交流（※）についても、取組のあり方を模索したが、断念せざるを得なかったのは心残りである。 今後も情勢を見ながら、小学校との連携を深めていく。 （※）地域の歴史についての授業 共育ミニ集会 地域の文化の継承（獅子舞・笛） 田植え その他

今年度の取組内容

◇９月１５日（火）第一回稲成学社融合推進協議会
新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、例年よりも遅い時期の開催となった。
６名の委員さんが出席した。協議会の内容は以下のとおりである。
〇委嘱状交付
〇学校より協議会の趣旨及び本年度の基本方針の説明
〇承認
〇役員選出
〇授業参観
〇協議・意見交流
〇その他

◇９月２７日（日）稲成小学校運動会
本年度は学校単独主催で午前中の開催となった。
町内会・公民館は種目等への参加は見送ったが、
従来通り育友会とともに駐車場整理等を行った。

◇１１月１５日（日）学習発表会（日曜参観）
例年、町内会と学校が共催で「ふるさと祭り」を開催しているが、本年度は学校単独主催で学習発表会（日曜参観）を行った。授業開始前に高雄中学校吹奏楽部のミニ演奏会を開催したが、本年も町内会、公民館が楽器運搬を担当した。例年、体育館での開催となるが、コロナウイルス感染症感染を考慮し運動場で行った。いつもとは違う雰囲気で参加者にも好評であった。

◇２月２日（火）第二回稲成学社融合推進協議会
本年度は２回だけの開催となるが、十分協議をし、次年度の取組につなぎたいと考える。
協議会の内容は以下のとおりである。
〇授業参観
〇本年度の取組報告
〇協議・意見交流
〇承認
〇次年度の委員選考について
〇次年度の取組について
〇その他

※　年度当初より公民館館長や公民館主事と学校とで連絡を取り合い、町内会行事、公民館行事、学校行事　その他について情報交換の機会をもってきている。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：会津小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立会津小学校	公民館名	万呂公民館・秋津公民館

学社融合における学校・地域の様子

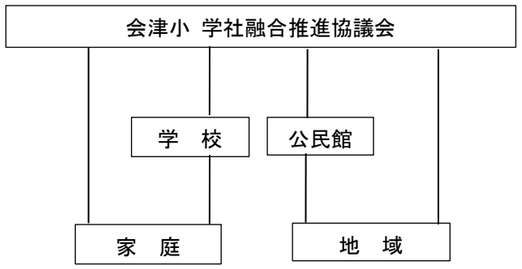
本校では、毎年「会津さわやかコンサート」や「合同作品展」「獅子舞鑑賞」「昔の遊び体験」など、保護者や校区協議会、公民館、敬老会等、地域の各種団体との連携・協力を得ながら様々な教育活動に取り組んでいるが、今年度においては新型コロナウイルスの影響もあり上記の行事の開催を見合わせた。現在４７３名の児童が通学しており、校区協議会シニアパトロールの登下校の見守り活動や、（今年度未実施だが）公民館での「町民運動会」「盆踊り」、町内会の「防災訓練」、地域の「ラジオ体操」など、地域で積極的に子供たちを見守り、育む活動が展開されている。また、総合型地域スポーツクラブ「会津スポーツクラブ」の活動は、所属している子供たちにスポーツに親しむ多くの機会を提供してくれているとともに、多くの子供たちにスポーツに対する興味・関心を高める役割を担ってくれている。

目標

学校・園・地域

【学校】
　様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して
・地域の伝統や文化とその地域に住まう人々を大切にし、感謝する心を養う。
・言葉や行動によって進んで表現しようとする意欲を養う。
・発表や作品の観賞を通して相手の気持ちや思いを感じられる心を育てる。
【地域】
・公民館活動を通じて学習した成果発表の場を提供する。
・地域の人々や子供たちに見ていただくことで、達成感を得ていただき、今後も活動を継続する意欲を養っていただく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

会津小育友会
会津小校区協議会
秋津公民館
万呂公民館
会津スポーツクラブ

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	本来の活動ができない中ではあったが、地域学習やいのちの学習、福祉学習等を通じていろんな人の話を聞いたり交流したりすることができた。	目標に掲げている『様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して』にあたる活動（地域の文化に触れたり敬老者を含む地域の方々との交流等）が今年度はほとんどできなかったので、つながりが多少薄れたように感じる。 来年度は、新型コロナウィルスの状況を考慮しながらできることからやっていきたい。
公民館（地域）	学校の育友会広報誌「あいづ」を地域に配布したり公民館報を学校に渡すなどして、少しでもつながりを持つことができた。	少しでも交流ができればといろいろと模索したが、積極的に動くことがしづらく、思うような活動につながらなかった。来年度は、少しずつできる範囲で交流していく必要がある。

今年度の取組内容

○地域学習
・第３学年総合的な学習「大すきわたしたちの町」
　【１０月２３日(金)】
　地域を知り、地域のためにできることを考えるうえで、地域にお住まいの方からお話を聞いた。

○福祉学習
・第４学年総合的な学習「めざせ！住みよい町づくり」
　【１０月２３日(金)・２６日(月)】
　だれもが住みよい町とはどういうことかを考え実践できるようになるために、視覚障害や聴覚障害の方からお話を聞いて、よりよい町について考えることができた。
・第５学年総合的な学習「ともに生きる」
　【１１月２７日(金)】
　肢体に障害がある人と接したり、疑似体験をするなど交流活動を通じて生活での関わりを見つめ直すことができた。

○いのちの学習
・第４学年保健「思春期にあらわれる変化」
　【１２月４日(金)・１４日(月)】
　ゲストティーチャーとして助産師さんに来ていただき、思春期における体や心の成長についてお話をしていただいた。
・第２学年学活「おへそってなあに」
　【１２月１４日(月)】
　ゲストティーチャーとして助産師さんに来ていただき、ヒトの体の仕組み(主におへそ)についてお話をしていただいた。

【地域学習】

【福祉学習】

【いのちの学習】

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立新庄小学校	公民館名	新庄公民館

学社融合における学校・地域の様子

新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、平成３０年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取組も進めています。

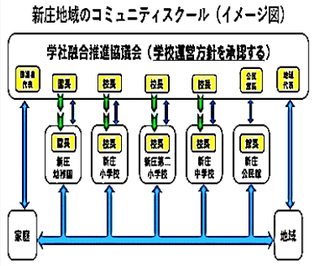
目標

学校・園・地域

田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則
第２条（目的）　協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。

本校における学社融合の目標
　地域の祭りや行事等への参加と、地域の伝統産業の調べ学習、地域の福祉施設との交流等を通して、伝統文化を継承するとともに、地域を愛する心を育てる。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

学社融合推進協議会
- ○　幼稚園・小中学校育友会
- ○　学校支援者・地域代表者
- ○　地域関係団体
- ○　公民館運営委員会
- ○　新庄地区校区協議会
- ○　新庄共育コミュニティ本部
  その他関係機関
- ○　新庄地区老人会
- ○　真寿会
- ○　ふたば福祉会
- ○　南紀のぞみ会
- ○　社会福祉協議会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	○今年は活動形式ではなく、講義形式の内容が中心だったが、子供たちにとっては、地域の方から直接、専門的な知識等にふれることができたため、学習をより深めることができた。 ○例年より実施回数は減ったが、地域の方々との交流を通して、学校や子供たちの様子を知ってもらうことができた。	新型コロナウイルス感染予防のため今年度は多くの取組が中止・規模縮小となった。そのため十分な取組が出来たとは言いがたい。来年度も同じような状況が続く可能性があるので、例年通りの取組ではなく、活動内容の精選を行い、コロナ禍でも実施できる取組内容に変更していく必要があると感じた。
公民館（地域）	・例年のような活動が難しい一年であったものの、子供たちは地域の方との交流を持つことができ、地域についての関心を少しでも高められた。	・学校・地域・公民館のそれぞれが様々な取組を中止し、互いの交流が少なくなってしまった。そのような中でも互いに取り組みたいことや共通の目標を定めて、可能なことを考えていく必要があると感じた。

今年度の取組内容

「福祉体験学習」

○視覚聴覚障害者理解学習　4年生（2学期）
＊福祉の話などを通して、障害者の気持ちを理解し、バリアフリーな社会に向けて自分たちにできることを話し合う。（例年実施しているアイマスク体験は中止）

○肢体不自由者理解学習　5年生（2学期）
＊障害者の方の気持ちや思いを理解し，バリアフリーな社会が大切であることに気付く。

○高齢者・障害者理解学習　6年生（２学期）
＊今まで社会に貢献してきた高齢者に対して尊敬や感謝の気持ちを持たせ、温かい心で接する態度を養う。また、知的障害者に対する理解を深め、温かい心で接する態度を養う。

「公民館・地域・サークル活動などと連携した各学年の取り組み」

○ぎおんさん　3年生（1学期）（ぎおんさんが中止のため校内作品展に作品を展示した）
＊地域の方に「ぎおんさん」のいわれや作品のつくり方を教えてもらう。
（今年度は昨年度の様子をビデオ視聴する形で実施した。）

○グラウンドゴルフ体験　4年生（3学期）
＊サークルの方と一緒に運動し、体を動かす楽しさと共に活動することの喜びを知る。

○箏・尺八体験　5年生（3学期）
＊サークルの方に演奏を聴かせてもらい、伝統文化のよさを学ぶ。

○地震津波の話　6年生（2学期）
＊地域の方から地震や津波の体験談を聞かせてもらい、命を守る方法と心構えを学ぶ。

【新型コロナウイルス感染予防のため今年度は多くの取組が中止・規模縮小となった。】

4年生　視覚聴覚障害者理解学

5年生　肢体不自由者理解学

6年生　高齢者･障害者理解学

6年生　地震津波の話

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立新庄第二小学校	公民館名	新庄公民館

学社融合における学校・地域の様子

幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営となるように努めている。開かれた学校を目指し、学校教育方針や具体的な教育活動などを地域に公開している。授業をはじめとする教育活動に外部の人材が効率的、効果的に参画していただけるように、地域・保護者・各種団体と連携を図りながら取組を進めている。

目標

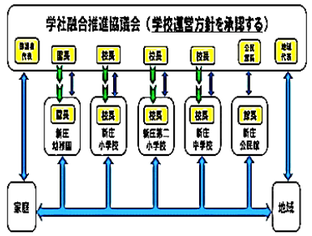
学校・園・地域

田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則
第2条（目的）　協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。

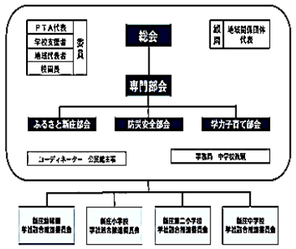
新庄第二小学校教育目標
自ら学び、人に優しく自分にきびしく、心豊かにたくましく生きる児童の育成をはかる。

支援者及び支援組織

新庄地域のコミュニティスクール（イメージ図）



新庄地域学社融合推進協議会組織図



学社融合推進協議会
- ○　幼稚園・小中学校育友会
- ○　学校支援者・地域代表者
- ○　地域関係団体
- ○　公民館運営委員会
- ○　新庄地区校区協議会

新庄第二小学校学社融合推進委員会
- ○　育友会本部役員
- ○　主任児童委員
- ○　元学校評議員
- ○　校長・教頭・学社融合担当

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・総合の時間の地域との交流により、地域の歴史や自然、伝統的な行事をより身近に感じることができた。 ・専門的な知識や技術をもっておられる地域の講師先生に教えていただくことで、より理解が深まり、ふるさとを愛する心情を育てることにつながった。	・地域の方の力を学校教育活動により生かせるように、ゲストティーチャーやボランティアの人材確保に努める。 ・学社融合推進協議会の場を通して、地域の教材化や教育力の活用を推進していく。
公民館（地域）	・様々な活動が制限された中であったが、地域の方との交流を通して児童に自分たちが住む地域のことを知ってもらうことができた。	・学校で行っている学習や、子供たちに教えたいことに合わせて、地域から適した人材を紹介できるようなネットワークを築いていく。 ・学校、地域のそれぞれの活動をお互いに知り、共通の目標に向けてできることを考えていく。

今年度の取組内容

〔年間を通して〕

全学年　　読み聞かせ活動　図書ボランティア

今年度は、11月6日、12月11日に読み聞かせ活動を行った。図書ボランティアの方には、新しい本のシーリング作業や、図書室の整理をしていただいた。

〔各学年の取り組み〕

１学期　7月7日　３年生　総合　　「ぎおんさんの作品作り」
公民館・地域の講師先生を招いて

３年生では、新庄地域に伝わる「ぎおんさん」と呼ばれている伝統行事について学習した。「ぎおんさんの夜見世」では、野菜や花、木の葉などで作った出し物を軒下や玄関先に並べる。今年度は、伝統行事自体は開催されなかったが、地域に伝わる文化を体験するために、公民館・地域の講師先生を招いて作品の作り方を教えていただいた。

２学期　10月2日　６年生　総合　　「神島について」

６年生では、天然記念物の「神島」について学習した。地域の講師先生と一緒に神島に上陸し、神島の自然や歴史のこと、神島と南方熊楠との関わりについて教えていただいた。子供たちは、貴重な自然が守られてきた島でありながら、海洋ごみがたくさん漂流・漂着しているという問題があることを知り、上陸した際には、講師先生とともにゴミ拾いも行った。

３学期　４年生　福祉学習
「パピーウォーカーについて」
「盲導犬について」
田辺市社会福祉協議会・公民館

５年生　音楽
「昔の楽器に親しもう・琴・尺八体験」
公民館

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：三栖地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立三栖小学校	公民館名	三栖公民館

学社融合における学校・地域の様子

本校区は、梅を中心とする農村地域である。しかしながら、宅地造成や集合住宅の建設が進み、近年は専業農家数が減少傾向にある。また、他の地域からの転入数も多くなってきている。このような状況の影響により、昔と比べ、人と人との繋がり方が難しくなってきている。子供たちは、温厚で誠実な性格の子が多い。本校PTA組織は「育宝会」と名付けられており、子供は地域の宝という意識が地域全体にある。地域は学校に協力的で、運動会等の学校行事やクラブ活動、教科学習でも各種団体に協力をいただきながら取り組んでいる。

目標		
	学校・園・地域	・地域の人々の知識や経験を生かし、積極的に他者に関わろうとする態度を育てる。 ・体験を通して、コミュニケーションを図るとともに、自他に関心を持つ。 ・地域の人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員として自覚をもたせ、ふるさとを愛する心を育てる。 ・子供と地域への愛着、地域貢献の心を育む。 ・地域住民が子供たちとのふれあいから、子供たちの様子を知り、教育活動への関心を高める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

- 会長（公民館長）
  - 副会長（町内会長）
    - 委員：・地域関係者 ・保護者 ・校園長
    - 事務局：・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職

支援者及び支援組織

・三栖公民館文化委員
・クラブ活動外部講師
・交通安全指導員
・交通安全協会
・衣笠中学校
・三栖幼稚園
・保護者

成果と課題（学校・公民館からの視点）

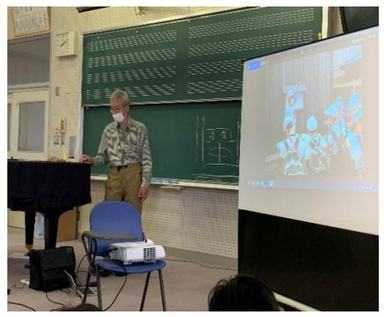
	成果	課題
学校	（史跡巡り） ・公民館の文化委員の方々から説明を聞くことで、三栖風土記には載っていないエピソードなど詳細について知ることができた。 ・地域の歴史、文化を知ることで、地域への愛着や誇りを持つことができた。 ・まとめにむけての取組への意識が高まり、子供たちの「まとめる力」の向上につながった。 （史跡巡り、クラブ活動　等） ・専門的な知識等にふれ、学習を深めることができた。 ・地域の方々とふれあうことにより、地域の一員としての意識が高まった。 ・地域の方々の活動を知って、地域への関心が増した。	（史跡巡り） ・史跡巡りをするまでの事前学習及び事後学習においても、より多くの場面で地域の様々な方々と交流できるような活動計画を立てていければと考えている。 ・文化委員の方々に他の学年の学習にも参加していただき、広く交流できればと考える。 ・他学年の児童にも史跡について学習したことを伝えられる場の設定を工夫できればと考える。 （史跡巡り、クラブ活動　等） ・学習活動を通じ、地域の一員として、地域に貢献していくという心を育むとともに、学習内容を自らより深めていくなど、学習意欲の向上につなげていく。
公民館（地域）	・活動を通じ、改めて地域を知る機会となった。 ・子供たちとのふれあいの機会になるとともに、学校の様子を知ることができた。 ・知識や技術を伝えることで、子供たちの学習を深めることができた。	・学校と地域、子供と地域の人間関係を構築するために、様々な機会を作り、継続的に子供たちと関わっていく。また、その中で協力していただける地域の人材を発掘し、活動の充実を図っていきたい。 ・地域として、子供たちの育ちについて意識を共有し、積極的に学習活動に関わっていける体制をつくっていきたい。また、様々な機会を捉え、協力いただける地域の人材を発掘し、さらに充実した活動を展開していきたい。

今年度の取組内容

◎三栖の史跡巡り（第５学年）

活動のねらい
・地域を歩き、そこにある史跡を見たり、それにまつわる説明を聞いたりすることで三栖地域の歴史への理解を深め、今後の学びに生かすことができるようにする。
・地域の方から直接お話しを聞く中で、交流を深め、地域の方々の見識にふれることで、地域に対する愛着と誇りを持たせる。
・発表会を設定し「語り部」をする中で、さらに理解を深めるとともに、下級生・保護者・地域の方々にも三栖の史跡や歴史を伝え広める。

日時
１１月２０日（金）１０：２５～１２：００
（雨天中止のため、文化委員の方に出前授業をしていただいた）
参加者・・・公民館文化委員（３名）
三栖公民館主事（１名）
５年生児童（６２名）



◎クラブ活動
茶道、絵手紙、手芸、バスケットピンポン、タグラグビークラブで地域の方々が外部講師として来てくださった。

活動のねらい
・望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一員として協力してよりよいクラブづくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育てる。
・地域の人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員として自覚をもたせる。
・地域の人々の知識や経験を生かし、学習を深める。

日時
第１回　５月２７日（水）１４：３０～１５：１５
（休校により中止）
第２回　６月２４日（水）１４：３０～１５：１５
（感染症対策として中止）
第３回　１０月２８日（水）１４：３０～１５：１５
第４回　１１月２５日（水）１４：３０～１５：１５
第５回　１月２７日（水）１４：３０～１５：１５
第６回　２月２４日（水）１４：３０～１５：１５

茶道クラブ

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：長野小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立長野小学校	公民館名	長野公民館

学社融合における学校・地域の様子

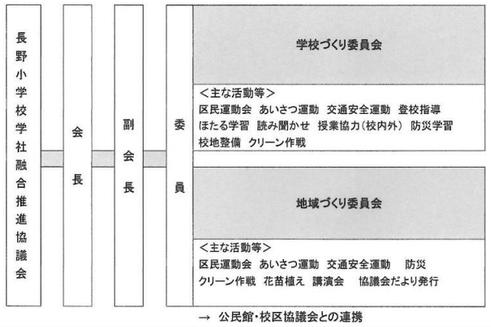
自然豊かな地域で，長野区では梅やみかん作り，伏菟野区では米作りやきくらげ生産に携わっている家が多い。地域の方々は協力的でいつも児童を温かく見守ってくれている。公民館や郷明会等の諸団体、地域の方々の協力を得て、児童は地域の自然、産業、歴史や伝統文化等を学び、地域の良さについて知ることができる。コロナ禍の中、今年度は行事や活動が縮小されているが、例年は学校行事にも地域から多く参加いただくことで地域の方々同士の交流する機会にもなっている。

目標

学校・園・地域

地域と共にある学校づくり
～学校・家庭・地域のみんなで自立・共生・健康をめざして～
学校・家庭・地域の三者の力を集め、「自立」「共生」「健康」という長野小学校の教育目標を地域住民の目標としつつ、三者が知恵を出し合い、当面する教育諸課題克服のための諸取組を模索し、展開していく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

長野公民館　長野郷明会
長野校区協議会　長野町内会
ＪＡ紀南長野店　光福寺
不動寺　各区老人会
長野小学校育友会
長野・伏菟野地域の方々

成果と課題（学校・公民館からの視点）

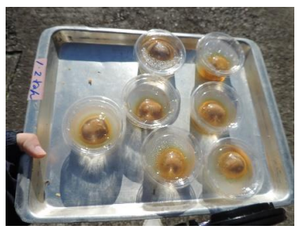
	成果	課題
学校	・今年度は地域の方々に学校へ足を運んでいいただく機会は少なくなったが、校内整備作業や運動会開催、ほたる学習などを通して、児童は地域の方々にいつも温かく見守られていることを実感することができた。 ・今年度は一度のみのホタル学習ではあったが、郷明会の方々の地域を愛する気持ちに触れることにより、児童は地域への関心を持ち、自然豊かな地域の良さについて学ぶ機会を得ることができた。	・今年度は地域の方々と交流する機会が少なくなってしまったが、来年度は地域学習や体験活動の範囲を広げ、児童の目がより地域に向くよう進めていきたい。 ・児童数減少が進む中ではあるが、地域からの学びを基に、児童にさらに地域を学びたいという意欲を持たせたい。 ・地域を学ぶだけではなく、地域に住む一員としてできることを児童なりに考えさせ、行動・発信できるように進めたい。
公民館（地域）	・今年度は公民館行事の中で児童と触れ合うことはできなかったものの、運動会や学習発表会、ホタル学習などを通して、児童の学習活動やその成果を知ることができ、児童とともに地域について学ぶことができた。また、改めて地域の課題を見つめ直すとともに、今後の活動への意欲にもつながった。	・地域全体が、子供・学校への関心が高く、教育環境は充実したものとなっている。今後もこうした活動、環境を引き継いでいけるよう、更なる地域人材の発掘、育成が必要である。

今年度の取組内容

【校内整備作業実施】（８月２２日）
保護者や地域の方々にご協力いただき、運動場の整備、学校周辺の樹木の剪定、校舎内の整備等の作業を行った。１時間半余りの作業であったが、４４名もの参加をいただき、校舎内外の整備をしていただいた。

【長野小学校運動会開催】（９月２７日）
例年、地域と共に開催される区民運動会であるが、今年度は地域の方々の理解と協力を得て、規模を縮小して学校中心の競技種目で開催した。運動会では手指の消毒やソーシャルディスタンス等を呼びかけ、参加者にも配慮いただいた。午前中のみの開催であったが、児童は力いっぱい競技・演技し、参観者からは温かい拍手を何度もいただいた。

【ホタル学習の実施】（１２月２日）
例年、長野郷明会の協力を得て取り組んでいるホタル学習であるが、今年度は１１月まで実施できず、１２月に郷明会の協力を得て、ホタルの幼虫が食べるカワニナに与えるえさ「カワニナボール」を作った。当日は、数名の地域の方にもご参加いただいた。でき上がった「カワニナボール」は学年ごとに長野川に入れ、「来年の夏に、ホタルがたくさん飛びますように。」と願った。



【地域学習の実施】
１０月、低学年は「まちたんけん」、３年生は「地域の梅作り」、高学年は「長野の歴史」を地域に出向いて学んだ。マスク着用、３密回避等に配慮しながら地域の方々からお話をうかがうことができた。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：上秋津地域学社融合推進協議会

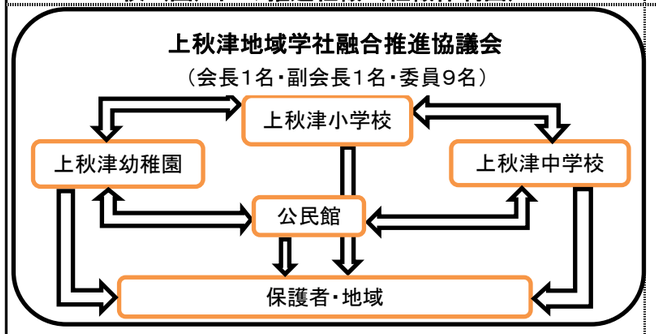
学校・園名	田辺市立上秋津小学校	公民館名	上秋津公民館

学社融合における学校・地域の様子

当地域は、田辺市の中でも梅・柑橘類を中心とした農業の盛んな地域である。そこで、本校では長年にわたり、地域の方々の協力を得て体験学習に取り組んできた。平成３０年度までは「共育コミュニティ」の研究指定校として、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。昨年度からは幼稚園、小・中学校が公民館と連携し「上秋津学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の方々の意見を取り入れた学校運営を進めている。

目標		
	学校・園・地域	・地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、体験活動を通して地域の良さを知り、ふるさとを大切にする心を育てる。 ・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育を進める。 ・幼・小・中・公民館が連携して地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・農業体験学習支援委員会（ＪＡ紀南、ＪＡ紀南青年部、上秋津公民館、老人会、西牟婁振興局農業水産振興課、育友会）
・上秋津町内会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・農業体験学習を通して、地域で働く方々の努力や工夫を直に知り、上秋津のよさについて詳しく知るよい機会となった。 ・農業体験学習を通して地域に親しみをもち、自分たちの住む地域の文化や仕事についてより詳しく知ることができた。 ・教師も上秋津の文化活動にふれることにより、絵画等の指導のヒントになった。	・ゲストティーチャーの方と担任が、細やかな点まで打ち合わせをする必要がある。その事前打ち合わせの時間や、植物を育成するための土作り等の時間をどう捻出するかが課題となっている。 ・絵画や写真等地域の文化を提供してくださる方が、固定化しつつある。公民館と連携しながら、新たな地域の文化活動を発掘していきたい。
公民館（地域）	・農業体験学習では、地域の地場産業である梅や柑橘の収穫を子供たちに体験させることができた。 ・上秋津の良さを改めて再確認でき、大人も子供もふるさとを誇りに思えるような取組とすることができた。	・梅や柑橘の収穫体験の時期は、繁忙期であるため、小学校と連携してお互い負担のないよう取組を継続していく必要がある。 ・学校の担当者が替わったときも、公民館を通して各種団体と連携を取れるようにしておく。また、新たな人材があれば、広く紹介していけるようにしたい。

今年度の取組内容

①農業体験学習

１～３年生は、野菜や花の栽培体験を学校園で行っている。
４年生は、地域の方の田んぼをお借りして米作り体験を行っている。
５・６年生は、年間を通して上秋津の農業の中心となっているみかん・梅の学習を行っている。
どの学年においても、農家の方々の努力や工夫を知り、収穫の喜びを味わうことを通して、自分たちの住むふるさと上秋津を誇りに思える心情を育てる取組を行っている。

３年生花植え

５年生みかん収穫

４年生稲刈り

６年生梅取り

②身近な地域の文化に接する

「和歌山の妖怪展」や「ピンボケクラブ写真展」、校内絵画作品展と共に「ひまわり絵画サークル作品展」を開催することによって、子供たちに地域の方々の文化的な活動を鑑賞する機会を設けている。
出品していただいたお礼として、作品を鑑賞した子供たちの感想を届けることで、作者との交流がより深まるようにしている。

和歌山の妖怪展

ピンボケクラブ写真展

ひまわりサークル絵画展

長年にわたり農業体験学習を実践し、地域と学校が連携した活動が行われてきているが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、例年のような交流ができにくい状況であった。しかし、マスクの着用、活動前後の消毒、ソーシャルディスタンスの保持等を徹底しながら、可能な限り地域の方々との交流を進めた。梅やみかんの学習については、例年であれば数回農園へ訪問させていただくところを１回だけとし、１～３年生の野菜の栽培体験では、高齢者の方々をゲストティーチャーとしてお呼びしない等、例年のような学社融合の取組ができたわけではないが、少しの機会であっても農業に対する知識を深め、農家の方々の努力や工夫、収穫の喜び等について知る大切な時間にすることができた。

また、地域の様々な文化にふれる機会を持つことは、子供たちが多様な物の見方を養うよい機会になるため、コロナ禍ではあったが感染症予防に留意しながら展示会を開かせていただいた。子供たちの書いた感想が作者の励みにもつながっていることを聞き、見るだけでなく、発信することで交流がより深まることを体験することができている。

今後も感染症の予防を徹底し、幼・小・中・公民館・地域との連携・協力を図りながら、学社融合の取組を継続していきたい。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：秋津川地域学社融合推進協議会

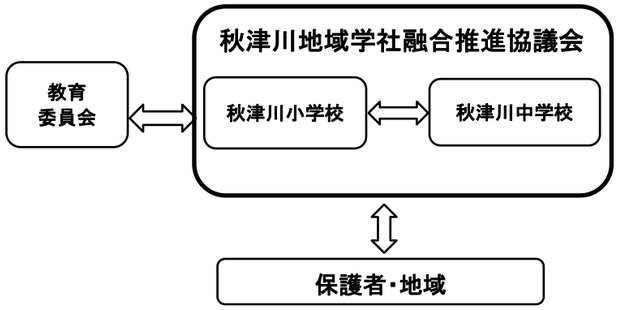
学校・園名	田辺市立秋津川小学校	公民館名	秋津川公民館

学社融合における学校・地域の様子

本校は年々児童数が減少し、本年度は16名が在籍している。地域の方々は協力的で、子供たちと関わる事を楽しみにしてくださり学校行事には積極的に参加してくださっている。公民館や秋津川振興会等の諸団体、地域の方々の協力を得る事で地域の産業や伝統文化等を学び、地域の良さを知り、地域を大切にする心が育っている。また、秋津川中学校とは、児童・生徒及び職員の交流もあり、運動会や避難訓練をはじめ中学生が小学生の学習をサポートするピアサポート等様々な行事・活動で小中連携を図っている。保育所との連携も行い、授業参観の機会を持つなどの交流を深めている。

目標	学校・園・地域	
		・地域の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを再確認し、地域や学校を大切にする心を育てる。 ・地域の方との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。 ・子供たちに地域の方達との交流の中で、伝統文化等の様々な知識を教えていただき地域への愛郷心を養う。 ・子供たちと接する機会の少ない地域の方達に、公民館主催のイベントを通して交流を持っていただき、地域の活性化を図る。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

秋津川公民館
秋津川町内会
秋津川振興会
秋津川春秋会（老人会）
JA紀南秋津川店
JA女性会
秋津川婦人会
秋津川中学校
秋津川保育所

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・本年度は,新型コロナウイルス感染拡大防止のため秋津川町内における多くの行事が中止となった。そのような状況ではあるが学校と地域の連携を保つため、感染拡大防止に細心の注意を払い、運動会に代わる体育参観日、秋小発表会等の行事を行うことができた。 ・中学校・保育所との連携については、感染拡大防止に細心の注意を払いながら例年通りに進めることができた。	・地域の方に、学社融合推進協議会の活動を更に知っていただけるような活動や手立てを考え実行していきたい。 ・地域の一員であるという自覚と誇りを持ち、地域の後継者として活躍できるように促していきたい。 ・学校の取組や活動を地域の方に知っていただく機会を増やし、学校の活動に協力していただける方を募っていきたい。
公民館（地域）	・令和２年度は、敬老会をはじめ多くの地域行事が中止となり、地域と子供たちが交流する機会は少なかった。しかし、秋小発表会で披露するために「おるり音頭」を教わるなど、地域の文化を知ることで、子供たちが地域へ興味を持つきっかけとなった。 ・例年と比較すると、感染症対策などで制限された発表会ではあったが、地域の人たちや中学生が観ている前で発表することで、子供たちの自信につながった。	・地域の活動が再開した際に、地域と子供たちの交流がスムーズに行われるよう、学社融合推進協議会を中心に地域と学校が連携できる体制を持続していく。 ・学校と地域全体が協力し、事業や取組を無理なく継続していけるよう展開していきたい。 ・状況に応じた地域と子供たちの交流方法を考え、実践していきたい。

今年度の取組内容

・11月27日（金）　秋小発表会で3年生～6年生が地域に伝わる「おるり音頭」の発表を行いました。中学生や地域・保護者に披露することが出来ました。
　踊りは赤松公民館館長に指導いただき、音頭を藤谷氏、太鼓を谷口氏にお願いしました。今年度は、敬老会で披露することが出来ず残念でしたが、伝統芸能を継承することが出来ました。

・ミシンボランティア　今年度も5年生の家庭科「ミシン」でナップサックを製作する授業に4名の地域の方にお手伝いいただきました。丁寧に「ミシン」の使い方などを教えてくださいました。

・10月21日（水）　保育所・小学校・中学校合同地震想定避難訓練を行いました。
　今年は田辺警察署から2名の警察官に参加していただき、津波の心構えについても学習しました。

・11月6日（金）　今年は5・6年生と中学生で地域清掃を行いました。
竹藪方面と谷川方面の二手に分かれ、清掃を行いました。来年度は、春秋会の方々とも協力して行いたいと思います。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：上芳養地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立上芳養小学校	公民館名	上芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に大切に見守られながら学校生活を送っている。
小学校・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得ながら、教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子供を育てる」という意識が高く、学校の教育活動には協力的である。
公民館は子供対象の行事の実施や住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催し地域の交流を図っている。

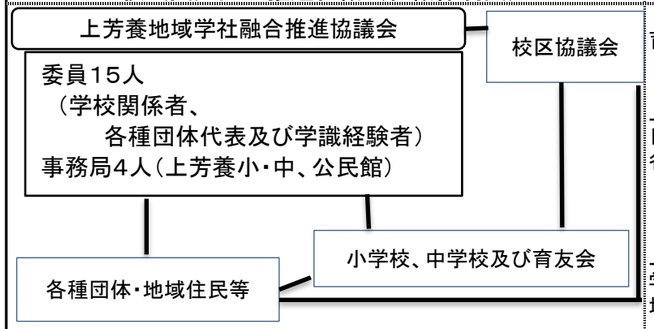
目標

学校・園・地域

学校
〇地域の自然や人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。
〇地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていこうとする児童生徒を育成する。
〇地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。

地域（公民館）
〇児童生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちの地域理解を深める。
〇学校と地域との連携を密にして子供たちの健全育成を図る。
〇地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へと繋げる。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

育友会
　上芳養小学校育友会
　上芳養中学校育友会
上芳養公民館
日向保育所
各種団体
　・上芳養町内会
　・交通安全協会上芳養分会
　・上芳養消防団
上芳養校区協議会
学識経験者
地域の事業所・地域の先生

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・できる範囲で地域の方から学ぶ機会を設定したが、その際、学校の教育活動を知っていただくことができた。 ・梅学習をはじめ地域の方に関わっていただく活動を年間計画に系統的に位置付けた。地域の方は非常に協力的で、多くのことを学ぶことができた。また、芸術的な校内環境が整えられ、落ち着いた環境で豊かな学びの時間を過ごすことができている。	・コロナ禍のなか、学習発表会や参観日、運動会等、地域の方に案内を出すことができず、限られた参加体制であった。今後は、参加できる方法を探り、可能な範囲で地域へ発信したい。 ・地域や社会に貢献できる人材育成の視点から、公民館をはじめ地域の各種団体とより連携を深める必要がある。 ・地域行事の縮小・中止がやむを得ない状態ではあったが、より地域と関われるように参加を促していきたい。
公民館（地域）	・地域の主幹産業等について、実際に体験する機会を持ち、また、多くのお話を伺うことで新しい発見が生まれ、理解をより深めることができた。 ・各取組を通じて、児童と地域の方々との世代間交流ができている。また、自分たちの地域の良さ・魅力をさらに知ることができる貴重な時間・経験になっている。	・今後、地域間の関わりが薄くなってしまうことを防ぐため、さらなる活動の充実を図っていきたい。 ・さまざまな学習を通じて、子供たちが興味・関心を持ち、少しでも多くの知識を身に付けることができるよう協力していく。

今年度の取組内容

地域で学ぶ！地域を学ぶ！地域から学ぶ！

〈梅学習〉
【3年】6月　梅座学　JA職員より梅についてのお話を伺う。
　　梅採り　地域の方の畑で体験をする。
　　梅ジュース作り

【4年】3学期　着花率調べ　JA職員の指導のもと、地域の方の畑で観察・調査をする。

【5年】6月　梅座学　JA職員より着果率、流通等のお話を伺う。
　　梅拾い・梅漬け体験
　8月　梅天日干し作業　地域の方の指導のもと実施する。
　3学期　中芳養梅加工場見学　梅干しパック詰め
　　パンフレット作り予定

【6年】3学期　梅座学　地域の方より世界農業遺産等についてお話を伺う。
　　座学　ジビエへの取組についてお話を伺う。
【5．6年】12月　地域学習　地域の方、近畿農政局よりこれからの農業についてお話を伺う。
　　業者の方より、ドローンの活用方法のお話を伺い、操作の体験をさせてもらう。

〈地域の先生〉

【3年】地域の方による「昔のくらし」のお話

【6年】『生け花教室』（毎週水曜日）

【3～6年】『書道教室』

〈公民館活動〉

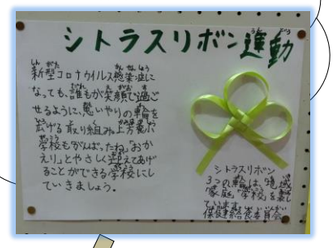
『乗馬体験』（11月）

『焦がし絵教室』（12月）

ひろげよう！

12月より4～6年生の保健・給食委員会を中心とした『シトラスリボン運動』※への取組を「学校」から「家庭」へ「地域」へと発信している。

【保健・給食委員会】
ポスターの作成



【地域】
公民館・保育所・中学校・郵便局へポスター掲示の依頼。

【学校・家庭】
全校集会やおたよりで呼びかける。
シトラスリボンを身につける。

※新型コロナウイルス感染症になっても、だれもが笑顔で過ごせるよう呼びかけている取組。愛媛県が発祥で、リボンの3つの輪は、「地域」「家庭」「学校や職場」を表し、思いやりの輪を広げることが目的。シトラスリボンは、それぞれが、ランドセルや筆箱、上着等につけることで、「コロナ」にかかっても差別せず、受け入れることを意思表示している。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：中芳養地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立中芳養小学校	公民館名	中芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

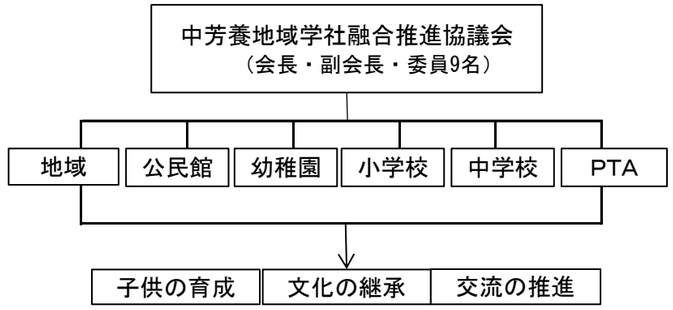
本校は、田辺市街地周辺の梅・柑橘類の栽培を主とする農村地帯にある。本校の児童は明るく、上級生が下級生の世話を進んで行い、地域住民も学校の教育活動に協力的で、みんなで子供たちを見守ろうとする優しい雰囲気の中で教育活動を行っている。平成２８年度までの「共育コミュニティ本部事業」の三つの柱「子供の育成」「文化の継承」「交流の推進」を大切にしながら、地域の教育資源を活かした教育活動の充実に努めている。

目標

学校・園・地域

・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。
・幼稚園や小中学校の取組や行事を地域全体が協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

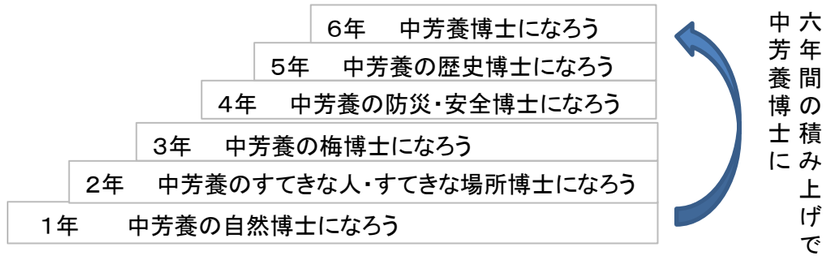
・中芳養公民館
・中芳養幼稚園
・中芳養中学校
・JA紀南芳養谷支所
・中芳養町内会
・中芳養地区老人会
・中芳養地区消防団
・中芳養小学校PTA
・地域の農家
・地域の寺院・神社

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・地域の自然や防災、産業、歴史等をテーマとした学習を年間計画に基づいて展開することによって、学校と地域の連携を深め、愛郷心を育むことができた。 ・子供たちは、調査、体験、資料の整理、発表する活動を通して、課題探求力、表現力、仲間と協力する態度などを身につけることができた。 ・地域を教材化することでふるさとの良さや課題に気づき、地域の将来性についても考えることができるようになっている。	・従来の活動を評価しつつ、さらに充実した活動になるよう、活動記録を残し、内容やカリキュラムの見直しをしていくことが必要である。 ・人的活用においては、一定の方に偏りがちになっている。新たな人を探すためには、公民館との連携が必要。 ・学社融合の取組をより多くの人に知ってもらうため、学校便りでの発信を続けていく。 ・活動のみにならぬよう、ねらいとつけたい力を明確に設定し、他教科との関連を図りながら学力向上に努めていく。□
公民館（地域）	・子供たちは自分たちの地域について学び、知ることで、地域とのつながりを深めることができた。 ・ふるさとを愛し、大切にするという意識を持つことができた。 ・学習を通じて、多くの人と関わる機会が増え、コミュニケーションの場にもなっている。	・今後とも、子供たちが自主的・具体的に学習を進めていくことができるような環境づくりを整えていく。 ・子供たちと地域の方々のつながりをより深め、これからも関係が続いていけるような取組に発展させていきたい。また、多くの方々に協力してもらえるよう努めていきたい。

今年度の取組内容

年間を通したふるさと学習



各学年の取組より

神社で自然みつけをしよう（1年）
季節ごとに違う草花や虫の様子について地域の人と観察し、自然への関心意欲を高めた。

町たんけんにでかけよう（2年）
地域にあるお店や事業所などを訪問した。仕事の様子や工夫について学ぶことによって、地域に関心を持ち、人との交流を深めた。

梅干し作りにチャレンジ（3年）
JA芳養谷支所の協力を得て、収穫や梅干し作り体験、流通の仕組みなどについての梅学習に取り組んだ。

防災マップ作り（4年）
校区内にある危険場所について実地調査をし、防災マップにまとめた。学習の成果を地域・保護者に向けて発表をした。

歴史的建造物を訪ねよう（5年）
地域の信仰の拠りどころである芳養八幡神社の歴史や神事などの行事について教えてもらい、理解を深めた。

今までの成果を継承しつつ、今年度も多くの方の協力をいただきながら取組をすすめることができた。自然豊かな地域性を生かした実物に触れる体験活動、地域の人との密着した関わりによる活動によって、豊かな学びの実現につながっている。来年度も地域とのつながりをより多く持てるよう、新しい活動内容を模索中である。

その他の取組より

中芳養幼稚園との
なかよし交流

JA女性部さんと
お芋のおやつづくり

中芳養クリーンアップ作戦

今年度は、例年催されている中芳養夏祭り、敬老祝賀会、中芳養合同作品展などの公民館・町内会の行事が中止になり、地域行事への参加や交流はできなかった。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：田辺東部小学校学社融合推進協議会

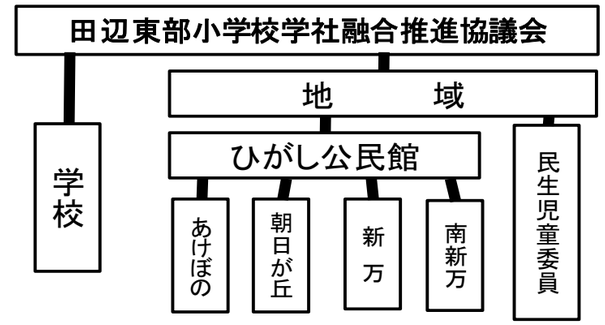
学校・園名	田辺市立田辺東部小学校	公民館名	ひがし公民館

学社融合における学校・地域の様子

平成７年に「ひがしコミュニティセンター」が建設されてから、学校と地域公民館が連携した取組の充実を図っている。今年で１３回目を迎える予定であった「ひがしふれあい秋祭り」は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から実施することができなかった。例年であれば、４町内会・地域の各種団体・学校・公民館が合同で、幅広い世代の方々がふれあえるきっかけを作り、地域住民の交流を図るとともに、地域の連帯感を深めることができる取組として実施している。今後は新しい形での実施の形態を考えていく必要があることを、ひがしふれあい秋祭り実行委員会でも確認したところである。

目標	学校・園・地域	
		○和歌山県の魅力を調べ、自分たちの県の良さを再認識し、地域に誇りと愛着を持つ。 ○子供たちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。 ○地域の良さを伝えることによって、自分たちも地域について再認識する機会とする。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

◎ひがしコミュニティセンター
◎ひがし公民館
◎地域にお住まいの方々

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	○語り部学習はできなかったが、修学旅行を兼ねた、和歌山県の魅力発見の取組は、地域の特色や歴史・施設・住民の願い等を調べ、クラスの相互発表を通して、自分たちの住んでいるふるさとに誇りと愛着を持たせるよい機会となった。 ○地域や公民館の方々との話し合いを行う中で、６年生へのひがしふれあい秋祭り代替イベントを考案し、公民館との連携を図ることができた。	○新型コロナウイルス感染症防止の観点からひがしふれあい秋祭り等のイベントが中止となり、地域との連携の機会を十分に作ることができなかった。 ○語り部学習を、和歌山県の魅力発見の取組に変更したことで、ねらいについては変わらないが、地域の方々との交流の機会を作ることができなかった。 ○学んだことを、地域に発信する場が設定できなかったため、新聞や掲示での発信となった。 コロナ禍の中で地域と学校が連携して、さらによりよい地域にしたいという思いを共有する方法を探る必要がある。
公民館（地域）	○和歌山県の再発見について、分散参観日の機会に地域に公開し、児童が調べた内容を参観していただくことができた。 ○ひがしふれあい実行委員会での話し合いの中で、どのような形で実施できるかなどの意見を交流し、今後の取り組み方について貴重な機会となった。 ○ひがしふれあい秋祭りの代替イベントとして、６年生への舞台発表やクイズ大会など、公民館と学校との交流ができた。	○今後も、公民館と学校が連携を密にして計画的に活動を進めていくことが大切であるが、新しい生活様式の中で、取り組み方や方法について検討していかなければならない。

今年度の取組内容

◎毎年行っている語り部学習については、今年度の修学旅行先が和歌山県紀南地方に変更したことを受けて、和歌山県の魅力を調べる活動を行った。学校・公民館・地域が連携した取組を進めることはできなかったが、県の様子について児童なりに詳しく知る機会となった。今年度も形は異なるが、和歌山県の魅力を再発見することで、児童に故郷を愛する心の芽を育み、また、地域に目を向け、貢献する活動に取り組もうとする意欲を喚起することができた。内容や方法を工夫しながら、次年度以降も県や地域学習に取り組んでいきたいと考えている。

◎学社融合推進協議会の取組としては、学期に１度協議会委員の皆さんに授業の様子を見ていただき、学校の様子について話し合う機会を持っている。また、昨年度に引き続き、学級園の手入れがなかなか十分にできないことをお話しすると、昨年度の学社融合推進協議会の委員さんが、時間を見つけては学校に足を運び、学習園の手入れをしてくださり大変ありがたかった。

◎今年度中止となった「ひがしふれあい秋祭り」の代替イベントとして、６年生を対象に舞台発表やクイズ大会等をひがしふれあい秋祭り実行委員会が企画してくださり、地域の方々が参観される中で、楽しいひとときを過ごすことができた。また、第２回学社融合推進協議会を同じ日に計画し、代替イベントを参観いただいた。

和歌山県の魅力発見（6年生がまとめた新聞）

ひがしふれあい秋祭りの代替イベントの様子

学習園の畝づくり、草刈り等のご協力

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：龍神小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立龍神小学校	公民館名	龍神公民館　龍神分館

学社融合における学校・地域の様子

龍人学の礎である「龍神の元気の素は人にあり」を旗印にして学社融合を推進することで、龍神小学校区の人を元気にすることを目標に取り組んでいる。
保護者や地域の方々は、学校の教育活動に大変協力的である。

目標	学校・園・地域	・学校を地域に開き、学習や行事等に参加してもらうことで児童の様子や教育課程の実施状況について理解してもらう。 ・地域の素材や優れた人材を活用し、生きた教育活動を展開する。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

龍神小学校学社融合推進協議会
会長―副会長―委員（6名）

公民館　PTA　行政局　教育事務所

支援者及び支援組織

田辺市役所　龍神行政局
田辺市立龍神小学校PTA
田辺市龍神公民館龍神分館
田辺市教育委員会　龍神教育事務所

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	学校行事を行う際には、新型コロナウイルス感染症への予防対策を徹底できるよう、地域の方にお願いをし、呼びかけた。今できることをするため、例年行ってきたものを少しずつ形を変えながら実施することができた。それが地域の方々にも喜んでいただける機会となった。また、子供たちも、見ていただけることや教えていただけることを励みに学習に取り組むことができた。	新型コロナウイルス感染症拡大により、毎年行っている防災キャンプを実施できなかった。計画段階で、時期やできること、できないことを見極めていく必要があった。来年度は、時期やできることをしっかりと見極め、この状況下だからできる教室を実施していく必要がある。
公民館（地域）	諸活動が子供たちと地域の方々のふれあいの場となった。コロナ禍で、外に出ることが少なくなっているご高齢の方からは、子供たちの頑張る姿を見ることや声を聞くことで「元気をもらえた」という喜びの声が聞かれた。	防災学習など今年できなかったことを、積極的に地域の方々の力を借り、機会を捉えながら行えるように計画を立てて実行していきたい。

今年度の取組内容

今年度は以下の活動に取り組んだ。

・敬老の日の手紙（９月）
保護者の協力を得て、近所に住まわれている高齢者を事前に把握し、配布分担をした。敬老の日の前にそれぞれの児童が分担されたお宅を訪問して手紙を届けた。

【手紙を届ける様子】

【お渡しした手紙（低学年）】

・運動会（１０月４日）
校報を通じて地域の方に参加を呼びかけた。新型コロナウイルス感染症対策に協力をお願いし、応援をしたり、じゃんけん大会などの種目に参加したりしていただいた。

【じゃんけん大会の様子】

・学習発表会（１２月３日）
校報を通じて地域の方に参観を呼びかけた。新型コロナウイルス感染症に配慮し、例年行っている歌や劇は行わず、音読発表や学習発表を行った。また、運動会では披露できなかった龍神太鼓を披露した。

【龍神太鼓演奏の様子】

・花の苗の育成　地域の方にプレゼント（７月・１２月）
３・４年生が中心となって花の苗を育てた。７月にはその苗を地域の方のお宅を訪問して届けた。また、保護者に協力していただき、プランターを夏休みに持ち帰って育てた。
１２月には、学習発表会に訪れた保護者や地域の方にプレゼントとして用意し、持って帰っていただいた。

【苗をプレゼントする様子】

・防災リーフレットづくり
６年生に防災について考える時間を設けた。地震時だけでなく土砂災害時における避難等の対策を、行政局の方の力を借りて調べた。
その後、調べたことをまとめてリーフレットに仕上げた。

【質問をFAXで送る様子】

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：上山路小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立上山路小学校	公民館名	龍神公民館 殿原分館・東西分館・宮代分館

学社融合における学校・地域の様子

本校は殿原小学校、東小学校、宮代小学校が統合して１２年目を迎えた。この間、３地域の願いや想いを大切にしながら様々な取組を行ってきた。平成２６年には田辺市学社融合の研究発表大会も行った。地域の方々は「自分たちの学校」という思いを強く持ってくれており、何事にも協力的である。地域社会の一員としての自覚をもち、地域を愛し、地域に貢献できる児童の育成をめざし、体験的な活動等積極的に地域との交流を図るようにしている。

目標	学校・園・地域	・「地域とともにある学校」づくりを推進する。 ・学校・家庭・地域の連携を強化し、子供たちの健全育成を進める。 ・地域を知り、昔からの知恵に学び、ふるさとを大切に思う児童の育成。 ・地域と保護者児童の交流の場を設け、お互いを知ることで地域の活性化を図る。

校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織
学社融合推進協議会 ― 学校 学校地域連絡協議会	・丹生ノ川区、殿原区 ・上宮代区、下宮代区 ・東区、西区 ・丹生ノ川果無クラブ ・殿原老人クラブ ・ピンコロ会 ・上宮代ふれあいクラブ ・せいじゅ学級 ・あけぼの学級 ・殿原婦人会 ・宮代婦人会 ・東西婦人会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・学社融合推進協議会、学校地域連絡協議会の協力を得て活動の計画を立てることができた。 ・子供、保護者、高齢者の３世代交流の機会が持てた。 ・花いっぱいの学校にしたいという愛校心が高まった。 ・勤労意欲の喚起につながった。 ・教科や総合的な学習、特別活動などで身につけたコミュニケーション能力を生かす場となった。	・職員の入れ替わりがあるので、取組を組織的、計画的に行わなければならない。故に、資料や手順の整理保管が必要である。 ・コロナ禍でも実行できるように、行事の工夫や計画の見直しが必要である。 ・コミュニケーション能力については、さらなる向上が必要である。時、場、相手によってコミュニケーションの取り方が違うことなどを指導する必要がある。 ・活動を通して、学んだことを学校生活に生かしていく態度を育てたい。
公民館（地域）	・学校と地域、地域の人と人の結びつきを深めることができた。 ・取組を行うために関係団体と話し合いを持った。それが、公民館活動の活性化につながった。 ・児童の顔と名前を覚えることができた。	・高齢化による担い手の減少。 ・保護者のさらなる参画。 ・自ら進んで地域の方々とコミュニケーションをとろうとする児童を育てたい。 ・地域の一員としてふるさとの将来や自分の将来を考えられる児童を育てたい。

今年度の取組内容

・春の花植え（種まき）　４月２８日
　新型コロナウイルス感染症予防のため、地域のゲストティーチャーと教職員で種まきを行う。

・春の花植え（ポットあげ）　６月２日
　地域のゲストティーチャーと３・４・５年で花の苗をポットに植え替える。

・春の花植え　６月２９日
　地域のゲストティーチャーと３・４・５年でポット苗を花壇とプランターに植え替える。

・春の花植え（花配布）　８月４日
　新型コロナウイルス感染症予防のため、教職員のみでプランターの花を地域の３郵便局に進呈する。

・第１回学社融合推進協議会　８月２７日
　今年度の学校教育方針や活動方針等について協議を行う。

・第１回学校地域連絡協議会　８月３１日
　今年度の活動計画等について協議を行う。

・藍染　９月７日
　１年と特別支援学級が地域のゲストティーチャーに藍染を教えていただく。

・運動会　１０月４日
　検温、健康チェック、マスクの着用、手指の消毒、観客席の距離確保等新型コロナウイルス感染症対策を徹底することで、参加者の制限は行わなかった。
　種目についても工夫し、午前中の開催とした。例年並みの参加者となった。

・リース作り　１１月６日
　３・４年とその保護者が地域のゲストティーチャーにリース作りを教えていただく。

・秋の花植え（種まき）　１０月２８日
　地域のゲストティーチャーと１・６年で花の種まきを行う。

・秋の花植え（ポットあげ）　１２月２１日
　地域のゲストティーチャーと１・６年で花の苗をポットに植え替える。

※今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、予定していた地域人材の活用や地域の方々との交流等の活動がほとんど実施することができなかった。
交流相手は高齢者が多いということもあり、安全対策をとった結果とはいえ、今後は常時実施できるようさらに工夫改善を図っていく。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：中山路小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立中山路小学校	公民館名	龍神公民館中山路分館

学社融合における学校・地域の様子

本校では平成11年より龍人学（ふるさと教育）として、地域に根ざした教育活動を広く行い、その基盤を生かした実践と共に「地域の学校」としての活動を展開してきた。保護者および地域住民等の学校運営への参画や学校運営への支援・協力を推進しながら、学校が持つ役割や責任を自覚し、家庭・地域・関係機関との連携の在り方を相互補完型から協働機能型へとその発展をめざしてきたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、十分な取組ができていないのが現状である。

目標		
	学校・園・地域	・学校・保護者・地域の連携を密にし、相互にその教育力を活用し合い、協力して学校運営の改善や児童の健全育成、地域の教育力向上に努める。 ・地域の方々との交流を通して人とのつながりを深め、児童のコミュニケーション能力の育成を図る。 ・地域学習や地域の方々との交流を通して、地域の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛し地域に誇りを持つ子を育てる。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

保育園・中学校・公民館・福祉施設

↓

中山路小学校学社融合推進協議会【体育部会・文化部会】
（会長・副会長・委員・事務局）

↓

保護者・地域住民

支援者及び支援組織

・中山路小学校ＰＴＡ
・龍神公民館中山路分館
・３地区
・２地区シルバー会
・柳瀬保育園
・龍神中学校
・龍トピア・龍の里
・龍神教育事務所
・学識経験者

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・学校では教えることができない専門性の高い内容を地域講師から学ぶことができた。教員の負担軽減にもつながった。 ・交流学習会は、児童のコミュニケーション力を鍛える場となった。 ・地域教材を生かした学習や保護者・地域の方との交流学習会は、児童の学ぶ意欲を高めてくれるものとなった。 ・計画段階から主体的に参加してもらえるように学社融合推進協議会に文化部・体育部の２つの組織を作った。体育部では、コロナ禍における運動会のもち方についてPTAを交えて話し合うことができた。 ・学社融合推進協議会向けの参観授業日を新たに設けることができた。	・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、学校への来校や行事参加について広く地域・保護者に呼びかけることができなかった。 ・学社融合推進協議会の文化部を有効に活用し、今年度はできなかった伝統あるせんだん餅つき交流会の計画を立てる。 ・交流学習会は、学年部ごとに児童につけたい力を明確にした要項を作成し、早い目に計画を行う。地域講師とは事前に綿密な打ち合わせを行う。 ・日常的な挨拶や返事など、児童のコミュニケーション力を継続的に鍛えていく。 ・新たな魅力ある地域教材を発掘していく。
地域（公民館）	・地域について学ぶことで、自分たちの住む地域を知り、地域の良さに気づくことができた。 ・例年より規模縮小であったが、交流学習会は保護者・地域の方同士のコミュニケーションの場となった。 ・保護者や地域の方が子供と向き合って共に活動したり、地域教材で学んだ学習の成果発表を聞いたりすることで、大人も地域の良さを再発見する機会となった。	・地域に対しての愛着や関心をもち、地域の一員としての自覚を促せるようにしていく。 ・人口減少や高齢化の現状を踏まえ、学社融合の取組でのつながりを大切にし、地域の活性化につなげていく。 ・高齢者のさらなる高齢化が進んでいる中で新たな人材の発掘、育成が必要である。

今年度の取組内容

【交流学習会】

低学年

★昔の遊びを楽しもう。

参加者　：　1，2年生児童・保護者、地域の方々
日　時　：　令和2年　10月　29日(木)　13：00～13：45
場　所　：　中山路小学校　体育館
ねらい　：　保護者や地域の方々と一緒に楽しく昔の遊び（こま・おはじき・めんこ・お手玉・紙風船など）を体験し、ふれあうことで人とのつながりをもつことができる。

（児童の感想より）
わたしがむかしの遊びで一番楽しかったのは、中田さんとまなごさんが教えてくれたけん玉です。はじめはちょっとしかできなかったけど、教えてもらって上手にできたからです。うれしかったし、楽しかったです。

中学年

★グラウンドゴルフを楽しもう。

参加者　：　3，4年生児童・保護者、地域の方々
日　時　：　令和2年　10月　29日(木)　14：00～14：45
場　所　：　中山路小学校　運動場
ねらい　：　保護者や地域の方々とスポーツを通して親睦を深め、コミュニケーション能力の育成を図ることができる。

（児童の感想より）
ゴールに入れるのがむずかしかったです。でも練習していたら、だんだんなれてきました。力かげんを苦労しました。ホールインワンを出せなかったので、もっと練習したいです。地いきの人といっしょにグラウンドゴルフができて、楽しかったです。

高学年

★和楽器演奏に挑戦！

参加者　：　5，6年生児童・保護者、地域の方々
日　時　：　令和2年　10月　29日(木)　15：00～15：45
場　所　：　中山路小学校　体育館
ねらい　：　三味線の演奏練習を通して、日本の文化的音楽である和楽器に親しむことができる。
交流を通して、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。

（児童の感想より）
はじめに「りゅうりゅう音頭」を聞かせてもらと、音がきれいですごいなと思いました。「楽譜を見るより左手に集中したらいいよ。」と教えてくださったのでそこを意識すると、5年生の時の感覚を思い出し、ひけました。わたしは和楽器が好きなので、体験することができて嬉しかったです。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：咲楽小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立咲楽小学校	公民館名	龍神公民館福井分館・甲斐ノ川分館

学社融合における学校・地域の様子

地域の学校や教育に対する関心は高い。ほとんどの家庭がＰＴＡ準会員として協力してくれており、運動会や学習発表会等にも大勢の参加がある。学校便りを楽しみにしてくださっている方も多いので毎月全戸に配布している。本校では創立時から、各地区長、老人会長、女性会代表や公民館、ＰＴＡ、学校職員等で組織する学校地域連携推進会議が学校と地域を結ぶ中心的な役割を果たしてきた。地域の祭礼では、児童も事前に笛や太鼓、獅子舞等を習い、祭りに積極的に参加するとともに、会場には児童会で作ったゴミ箱を設置するなど、学校と地域との結びつきは強く、地域ぐるみで子供を育てていこうという土壌がある。

目標	学校・園・地域	○咲楽小学校と学区民が連携を図り、地域全体で子供の健やかな成長を担う環境づくりに寄与する。 ・咲楽小学校の教育発展のため広く意見を聞き、学校運営に反映できるように努める。 ・学校を開き、地域住民との連携を図って行く中で、学校教育方針の周知に努める。 【咲楽小学校地域連携推進会議《規約第３条》等より】

校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織
咲楽小学校 ⇔ 学社融合推進協議会 ・会長・副会長・委員（学校長含む） ⇕ 学校地域連携推進会議 ・老人会（４地区）・区長会（４地区） ・女性会（福井、甲斐ノ川） ・公民館（２分館、福寿学級） ・咲楽小ＰＴＡ（会長、副会長）　等 ⇔	・咲楽小ＰＴＡ ・校区会（４地区） ・龍神教育事務所 ・市教研龍神ブロック ・柳瀬保育園 ・学識経験者 等

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・昔の遊び、苗植え等、地域の方々の支援を必要とする学習や活動を通して、学社融合の大切さを再認識した。 ・大勢の方に学校に来てもらい、学校や児童の様子を知っていただくことができた。地域との一体感が得られた。 ・今年度は、感染症の予防をしながらの取組であったが、ほぼ例年と変わらない取組ができた。	・学校開放週間中の行事は、可能な限り同日開催を増やす。 ・やはり公開授業を参観してくださる方が少ない。授業を観てくださる方を増やす工夫をする必要がある。 ・高齢者が多いので、取組や参加態勢について工夫をする必要がある。
公民館（地域）	・教えたり共に活動したりすることが、大人の側にとっても楽しみであり、学校と地域が繋る良い機会にもなっている。 ・学社融合推進協議会や学校地域連携推進会議が積極的に活動してくれるので、地域との繋がりが安定したものになってきている。 ・今年度は、感染症の予防をしながらの取組であったが、ほぼ予定した活動を行うことができた。	・年を追うごとに参加者が少しずつ増えているので喜ばしいことだが、同じような顔ぶれになりがちである。参加者の幅を広げる工夫を考えたい。

今年度の取組内容

◇11月16日～20日「学校に行こう」（学校開放週間）
　学校の様子を知ってもらい、地域の方から学んだり地域の方と共に学んだりする活動を通して地域住民との交流を深めるため、「学校に行こう！（学校開放週間）」を設定した。校区全戸に「学校開放月間全体行事予定案内」を、さらに保護者には各行事前に案内チラシをそれぞれ配布すると共に、保護者と老人会には重ねて出席を呼びかけた。当日は、多数の保護者や地域住民の参加があった。

①収穫祭　１７日(火)
　全校で育てたさつまいもを１０月に収穫した。１７日当日、学級毎に収穫した芋を焼き芋にできるように準備をし、校長が準備した炭火に入れて焼き芋にした。
　芋が焼けるまでの間、５･６年生が中心となりレクレーションを行った。また、鈴木直孝さんの指導の元、自分たちで育てたもち米で赤飯を調理員さんに作って貰い給食の時間に食べた。お世話になった地域の方にも食べていただいた。例年は、お餅を作り保護者や地域の方に来ていただいてみんなで収穫を祝うが、今年は感染症予防のため内容を変更しての取組であった。今年の取組の焼き芋も赤飯も好評であった

②給食試食会　１８日(水)
　前もって希望者を募り、普段児童が食べている給食を試食し担当者と意見交流を行った。感染症対策として、それぞれ距離を十分取れる場所を会場とした。参加者は、例年とほぼ同じような人数であった

③公開授業　１８日(水)
　各学級で国語、算数、理科、社会、生活科、体育、音楽、道徳等の授業を公開し保護者や地域の方々に参観していただいた。保護者の参観が少ないのが、例年の課題である。今年は、１年の保護者の参観が例年に比べて増したが、全体的に保護者の参観が少なく今後の取組の課題である。

④花の苗植え　１９日(木)
　地域の方の指導により、全校児童で学校の花壇やプランターに苗の植え替え作業を行った。地域の老人会の皆さんは、学校に来るこのような機会を大変楽しみにしてくれている。進んで作業に取り組み、楽しみながら児童と交流する姿を毎年観ることができる行事の一つでもある。

⑤木工教室　２０日(金)
　３～６年生児童の活動。講師を招き、小枝を切ってブローチを作った。「森の学習」も行った。保護者や地域の方々も参加して、児童と一緒に学習したり作業等を行ったりした。今年の木は、学校から見える所で育っていた木の枝であったため、児童はより興味深い学習をすることができた。

⑥昔の遊び体験　２０日(金)
　１～２年生児童の活動。地域の方や福井分館長さん等に、竹とんぼの製作と遊び方(使い方）について教えていただいた。

◇学社融合推進協議会・学校地域連携推進会議・咲楽小学校が中心となって企画及び活動を行った主な行事

①保護者学級：和歌山県発達障害者支援センターポラリスセンター長（辻　幸代先生）
　学習発表会のあと、地域・保護者・教員が参加して講演を聞き研修を行った。児童の実態に応じた児童支援の在り方について、また、それぞれの違いを正しく受け止めた子育てへの道しるべとなる内容の話で大変参考になる内容でもあった。

②通学路危険箇所確認　8月末日　安全対策部会（学校地域連携推進会議）による、通学路における危険箇所の確認作業。

③福井公民館で行っている絵画教室の作品の入れ替え作業を行った。学校の玄関ホールに展示している。新しい作品ができあがると、その都度展示の入れ替えをしてくださっている。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：中辺路地域学社融合推進協議会

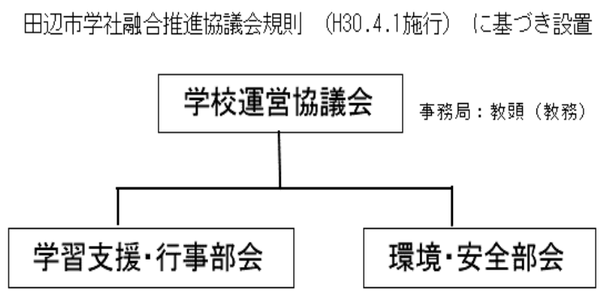
学校・園名	田辺市立中辺路小学校	公民館名	中辺路公民館

学社融合における学校・地域の様子

新型コロナウィルス感染症の影響を受けながらも、地域の方々や保護者に見守られて子供たちは明るく健康的な学校生活を送っている。地域の方々に訪れていただける行事を可能な限り実施して、子供たちが頑張っている姿を見てもらえるように、また、共に活動したり現地に出むいて指導していただいたりする中でふれあいや協働の機会を持てるように努めている。公民館・社会福祉協議会・老人会等の関係機関に、様々な協力をいただきながら取組を進めている。

目標	学校・園・地域	
		子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教育改革、地方創生等の動向からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘される中、学校や地域が抱える課題を解決するとともに、地域を担う人材を育成するため、これまでの「学社融合の取組」を生かして、学校と地域が当事者意識をもって子供の成長を支えていく学校づくりを進める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・公民館
・町内会
・老人会
・社会福祉協議会
・読み聞かせサークル ひまわり
・田辺市消防団中辺路支団
・岩見淳三（プロギタリスト）
・下校見守り隊
・JA女性会
・校区内在住の方々

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・新型コロナウィルス感染症の影響で実施を見送ったり内容の変更や規模の縮小をしたりしたものもあったが、感染リスクを最小限に低減するための対策をとりながら取組を進めることができた。 ・個人及び組織の協力・支援により、これまでになかった新たな取組を加えることもできた。 ・地域の方々とともに活動する中で、教職員の指導だけでは実現が難しい学びを体験させることができ、地域の方々との信頼関係づくりにもつながった。	・夏期休業中に予定していた育友会奉仕作業については、中止せざるを得なかった。できなかった校内整備をその後の期間で補っていく必要が生じた。 ・運動会、学習発表会、保護者学級などについては、例年と異なる形で実施した。来年度以降の実施については、状況に応じた見直しを行っていきたい。
公民館（地域）	・中止や変更を余儀なくされたものもあったが、学校と連携をとりながら、また、工夫を凝らしながら取組を進めてこられた。 ・学習活動に協力することで、学校の取組を理解し、心豊かな子供たちの育成に関わることができた。また、子供たちに地域のよさを知ってもらうことができた。 ・臨時休業中に、小学校職員を対象とした地域理解についての研修会を行った。職員の見識を高めることを通じて、児童の学習活動の充実に貢献することができた。	・来年度以降の取組については、状況の変化を見守りながら総合的な判断のもとで実施形態を考えていきたい。 ・地域の支援者の高齢化が進む中で、今後も様々な事業を継続させるためには、新たな支援者のさらなる発掘が必要である。

今年度の取組内容

【バケツ稲づくり】（５～９月）

昨年度までは校区内の水田で稲作体験をしていたが、校内で活動ができる形態にした。臨時休業中に籾を配布し、各家庭で児童に芽出しをさせた。その後の作業は、稲作農家の方を招いて指導を受けながら継続して取り組み、収穫した米は調理実習で食した。

【収穫祭】（11月16日）

学校園で栽培したサツマイモを６年生が中心になって焼き芋にして、収穫の喜びを分かち合った。人数を限定して地域の方々を招き、１～３年生はチューリップ植えを、４・５年生はグラウンドゴルフを共に行った。社会福祉協議会にもご協力いただいた。

【子ども環境探偵団】（11月6･24日）

公民館主催。６年生は「潮見峠越ウォーク」で、校区内にある世界遺産熊野古道を歩いた。４年生は「南方熊楠と中辺路」というテーマで、近野小児童と中辺路町内を巡った。いずれもゲストティーチャーが随行し、専門的な解説を聞くことができた。

【新たなゲストティーチャーによる学習】（11月17･25･26日）

３・４年生は、田辺市消防団中辺路支団を招いて社会科の学習を行った。３・５年生は、地域の方を招いて書写(毛筆)の学習を行った。いずれも昨年度までは活用できていなかった団体・人材を、新たに活用することができた。今後も継続して協力をお願いしたい。

【福祉学習】（12月4･7･8日）

社会福祉協議会の協力のもと、３年生は聴覚障害、４年生は視覚障害、５年生は肢体障害、６年生は高齢者福祉について学習を行った。いずれもゲストティーチャーを招いてお話を聞いたり体験的な活動を取り入れたりして、理解を深めることができていた。

【岩見淳三コンサート】（12月23日）

岩見淳三氏を招いてコンサートを行った。氏は校区出身のプロギタリストで、校歌の作曲者でもある。ジャズシンガーである奥様と地元在住のご息女がボーカルを務め、児童は楽しいひと時を過ごした。例年は広く聴衆を招いたが、今回は児童のみを対象とした。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：近野地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立近野小学校	公民館名	中辺路公民館近野分館

学社融合における学校・地域の様子

本校は、世界遺産である熊野古道「中辺路」沿いに位置している。熊野古道の複数のルートの中でも「中辺路」は、平安時代より上皇や貴族から民まで様々な人々が参詣を繰り返した参詣道として知られている。そして、現在も本地域には、平安の昔を偲び古道を探索する人々が、日本だけではなくヨーロッパを中心に世界各国から訪れている。そのような歴史や伝統・自然環境にも恵まれた本地域には、古来より「誰でも受け入れる」という懐の深さがある。さらに、地域には人々のために我が身をけずるような先人が幾人も輩出された歴史もあり、従来よりお互いのことを思いやって行動するという風土が地域内に根付いている。

本校はそのような地域にあり、これまでの地域の教育力を活用したさまざまな取組により、多くの教育的効果をあげることができている。

目標

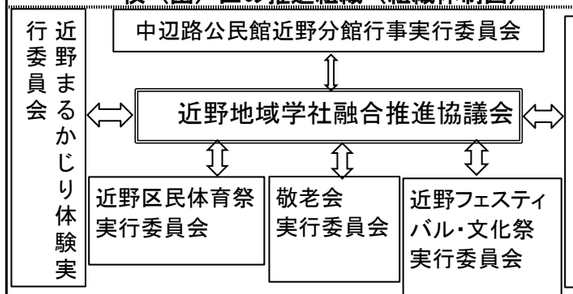
学校・園・地域

学校を含めた地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康の増進、高齢者福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取組を行う。

【学校】
・地域での活動を通して地域を知る。
・共同作業を通して協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学び、地域住民とともに伝統・文化を大切にし、尊敬する気持ちを育てる。
・地域の一員として地域の行事に参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。

【地域】
・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。
・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・森氏・前氏・岡上氏
・九乗氏・岡上氏・大野氏
・尾中氏・久保氏・伊藤氏
・森氏・前氏・高田氏・田中氏
・古久保氏・井上氏・柳川氏
・中辺路公民館近野分館行事実行委員会
・近野まるかじり体験実行委員会
・森林組合　・近野振興会
・獅子舞団　・ＪＡ女性会
・熊野百間渓谷自然学校　等

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・取組の中で地域の特色を再発見するとともに、自分たちの暮らしが地域の人々の努力や工夫によって支えられていることに気付き、地域の方々への尊敬と感謝の気持ちをより高める機会となった。 ・ 地域の方々の温かな人間性にふれる中で、子供同士も互いに思いやりの気持ちをもって接したり、それぞれのよさを生かし合ったりする場面が増えている。	・教職員が異動しても、新たなメンバーでねらい等を引き継いでいくとともに、地域の方々とのつながりも継承していくことが重要である。 ・地域の願いの具現化に向けて主体的に取り組むため課題意識をもち、協働しながら主体的に取り組む学習活動を今後も展開することにより、地域にも貢献できる学校となるよう取組を進めていく。
公民館（地域）	・地域の歴史や文化、自然等に関わる学習を継続することによって、ふるさと近野を誇りに思う気持ちや郷土愛が育まれている。 ・地域の教育力を活かした取組が、世代を超えた心の交流、ひいては地域の活性化にもつながっている。	・本地域においても人口減少や高齢化の状況がみられる。今後とも学社融合の取組が継続、発展していけるよう、今あるつながりや組織の継承を大切にしたい。

今年度の取組内容

地域の方々とふれあいながら　地域の豊かな文化・伝統・自然に学ぶ

地域の歴史～南方熊楠が歩いた熊野の軌跡をたどる～

南方熊楠を魅了したといわれる熊野の森林に入り、偉大な学者の世界にふれた。

中辺路子ども環境探偵団『南方熊楠と中辺路』 4年生（10･11月）

中辺路での熊楠の足取りを専門家とともに実際に探索することによって、熊楠が守ろうとしたことや学問探究の姿勢を身近に感じ取ることができた。熊楠が伐採から守ったといわれる樹齢800年の「野中の一方杉」のもと、粘菌採取にも挑戦した。

地域の伝統文化～名匠の工房にて和の文化を体感する～

桶を使う人のために緻密な工程で仕上げる名匠の真心にもふれ、心打たれた。

近野じまん発見！『木がもたらす恵み』 3･4年生（9～11月）

環境保護の観点から、木の製品のよさについて、プラスチック製品と比較しながら調べた。県の名匠でもある地域の方に、木桶は100年以上も使用でき、壊れても土にかえること、食品の味に深みがでることなどの木の恵みについて教えていただいた。

地域の自然と産業　～地理的環境の特色と産業との関わりについての理解を深める～

森林組合の方々と林業の現場にも赴き、地域産業の重要性について学んだ。

地域の産業『中辺路の林業』 5･6年生（9～11月）

地域の林業の歴史によって森林が保たれてきたことや地域では無花粉杉の植林の推奨など新たな課題に対応していることを学んだ。また、森林が山崩れ防止等の防災の基盤となっていることや、森林が生み出す美しい景観が国内外から高い評価を得ることにより、国際的な観光地となっていることなどを改めて確認する機会となった。

一人一人が探究的に学ぶ。この日は森林組合の方に質問をし、答えていただいた。

地域の自然～自然の恵みや自然との関わりについて学ぶ～

葛で布が美しく染めあがり歓声があがった。

人の温かさにふれながら様々な発見をした。

伝説発祥地の川で、地域の人とふれあう。

近野たんけん『近野のたからもの』 1･2年生（7～11月）

近野の植物を使って染めものをした。絵の具にはない自然で柔らかな色合いが子供たちの関心をさらに高めたようで、夢中になって布や紙を染めていた。また、興味をもった『熊野の河童伝説』から学びを広げ、地域に残る言い伝えや伝説に由来する場所を探検し、様々な発見をした。

自然の恵みを体感！『木工教室』 3～6年生（9･10月）

地域の方がくださった熊野の材木で、一人一人がその用途を考えながら木工を行った。地域の方の毎年の指導のおかげで、のこぎりや金づちなどの道具を上手に扱うことができていた。エコロジーについても考えるよい機会となった。

熊野杉の芳しい香りの中、枝打ちされた枝を活用した木工をおこなった。

小中学校合同文化祭～地域・隣接校に学びを開く～

子供たちにとって一人では難しかったことも、地域の方から学んだり、友達と力を合わせたりすることで学習が深まるということを実感できる機会となった。

小中学校合同文化祭で学習の成果を伝え合う 全校（11月）

地域の方々から学んだ地域の特色を、小中学校合同文化祭で地域に向けて発信した。文化祭では、小学1年生から中学3年生までの9年間の系統だった取組を地域に発信するとともに、小中学生が互いの学習の成果を共有し学びを深めることができた。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：大塔地域学社融合推進協議会

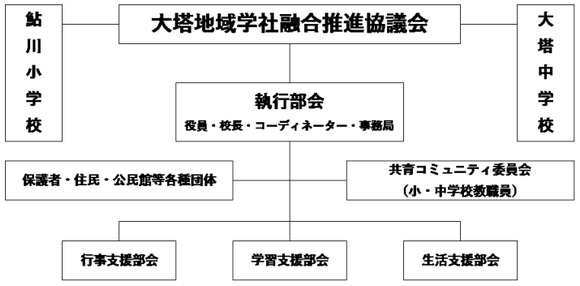
学校・園名	田辺市立鮎川小学校	公民館名	大塔公民館

学社融合における学校・地域の様子

本校は、平成２７年に三川小学校、平成３０年に富里小学校と統合し、大塔地域に１校の小学校となった。旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景から、保護者及び地域住民は学校教育に協力的であり、地域全体で、子供たちを温かく見守り、育てていこうという意識が高い。「大塔地域学社融合推進協議会」では、行事支援部会、学習支援部会、生活支援部会の３つの実働部会があり、小中学校と家庭と地域が連携・協働し「高めよう、ふるさと大塔。みんなの力で！」をテーマに取組を進めている。

目標	学校・園・地域	○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。 ○鮎川小学校と大塔中学校の９年間を見通した学校運営を行う。 ○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。 ○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

○大塔公民館、各分館
○田辺市自治会連絡協議会大塔支部
○大塔女性会
○大塔老人クラブ
○社会教育委員会
○子どもクラブ
○放課後ふれあいスクール
○民生児童委員
○田辺市保護司会大塔支部
○社会福祉協議会
○田辺市消防署大塔分署
○青少年健全育成市民会議
大塔地区協議会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	○新型コロナウイルス感染症予防に努めながら、できることから少しずつ取組を行ってきた。例えば、地域の方に講師を務めていただいてのさつまいもの苗植えでは、密を避けるため、Ａ・Ｂグループに分かれた分散登校の時に行った。制限がある中、いつもと方法を変えるなどして、実施することができた。 ○各学年で「大塔ＣＳに支援してもらいたいこと」を出し合った。公民館を通してゲストティーチャーを紹介していただいたり、ふるさと学習の見学場所を探していただいたりして、効果的な学習をすることができ、地域と学校を結ぶ活動となった。	△計画していた活動ができなかったものがある。小学校、中学校が協力して行うものでは、児童生徒が地域に出かけて清掃を行う大塔リフレッシュ大作戦、高学年が中学生と一緒に学ぶ選択交流学習、地域に出かけ学習する各学年のふるさと学習である。ＩＣＴの活用、学習内容や場所の工夫をするなどして、今後取り組める内容や方法を考えていく。 △幅広い分野、多様な年齢層の地域の方から学ぶ機会を作っていきたい。
公民館（地域）	○新型コロナウイルスの影響で、学校が休校になるなどして、計画していた事業等が十分に実施されなかった。 【行事支援部】 ・地域行事等への児童・生徒・家庭の参加を進める→地域の行事そのものの中止が相次ぎ、参加できなかった。ただ、ふれあいスクールは、学校が再開してから密を避ける等の工夫をしながら、月毎の回数を増やすなどし、地域住民のボランティアの手助けをいただきながら、ほぼ、計画通りに実施した。 【学習支援部】 ・学校図書館の運営ボランティア→学校再開に伴い、学校司書と連携を図りながら、活動を行うことができた。 ・授業をサポートしてくれる人材の確保→学校と地域の先生のコーディネートを行い、学校授業をサポートした。 【生活支援部】 ・登下校時の見守り→学校再開後は各地域の見守り隊の方により、見守り活動を積極的に展開した。	※学校の休校が続き、十分に事業が実施できず、残念であった。 ・今後も活動を実施していくため、新規人材の発掘・育成が必要である。 ・GIGAスクール構想とも相まって、図書ボランティア等活動を行うために、ハード（蔵書・貸出し等の管理など）の整備も必要である。 ・登下校時等の見守りについては、実施地区を広げ児童生徒のより一層の安全確保を図りたい。 ・コロナ等による事業の中止・規模縮小等については、開催が実施できる様、工夫が必要となる。

今年度の取組内容

【行事支援部会】

☆ふれあいスクール・・・公民館が主となって地域の方や保護者と一緒に準備し、放課後の児童の安心・安全な居場所づくりや健全育成の場となっている。参加の児童が多く、毎回、活動をとても楽しみにしている。（12月までの活動を紹介）

・ 7月22日（水）スライムを作ろう（1年生15名）
・ 7月29日（水）パレットスライムを作ってみよう（2年生16名）
・10月 7日（水）ハロウィンバスケットを作ろう（1年生14名）
・10月14日（水）ハロウィンバスケットを作ろう（2年生13名）
・10月21日（水）科学実験をしよう（4年生10名）
・10月28日（水）ミサンガを作ろう（5年生15名）
・11月 4日（水）刺繍枠で花飾りを作ろう（3年生8名）
・11月11日（水）お星さまのガーランドを作ろう（6年生4名）
・11月18日（水）頭の体操をしよう（1年生10名）
・11月25日（水）パステルアートを楽しもう（5年生8名）
・12月 2日（水）クリスマス工作をしよう（2年生12名）
・12月 9日（水）スノードームを作ろう（3年生14名）
・12月16日（水）スノードームを作ろう（4年生14名）

☆川のパトロール・・・今年度は、授業でのプール水泳がなかったため、中学校、保育園、PTA、公民館、駐在所と協力して、8月7日（金）、11日（火）に3グループに分かれ、鮎川・富里の川をパトロールした。午後4時から回り、安全に帰るよう遊泳者に声かけをした。
（青少年健全育成市民会議 大塔地区協議会とタイアップ）

【学習支援部会】

☆図書ボランティア・・・今年度は、10月より昼休みに、地域の図書ボランティアさんが、本の貸し出しや整理に来てくださっている。図書を通じて地域の方とふれあう機会となっている。

☆読み聞かせ・・・今年度は、11月より業前に、書画カメラ・プロジェクターを使用し、ソーシャルディスタンスを保ちながらボランティアサークルひまわりさんによる読み聞かせを行っている。授業前にほっこりと笑顔になる児童の様子が何度も見られた。

☆ゲストティーチャー
地域の先生（ちい先生）として、低学年のさつまいもの栽培、収穫、焼き芋会で、老人会の方にお世話をしていただいた。
1年生は、チューリップの球根植えを女性会の方に教えていただきながら行った。どちらも優しく指導してくださり、地域の方とふれあう場となっている。

☆ふれあいスクール（1年生）

【生活支援部会】

☆あいさつ運動
毎月1日、15日は、PTAや地域と協力して登校時のあいさつ運動（交通指導）を行っている。

☆登校の見守り
毎朝、地域や教育事務所の方が登校を見守ってくれている。
特に交通量の多い下附、宇立は、地域のセーフティガードの方が当番で見守ってくれている。

☆学校の施設・整備
・ランチルームと給食センターの間の雨漏れの補修
・グラウンド側側溝斜面の補修

☆読み聞かせ

☆生活科2年生サツマイモの苗植え

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：本宮地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立三里小学校	公民館名	本宮公民館

学社融合における学校・地域の様子

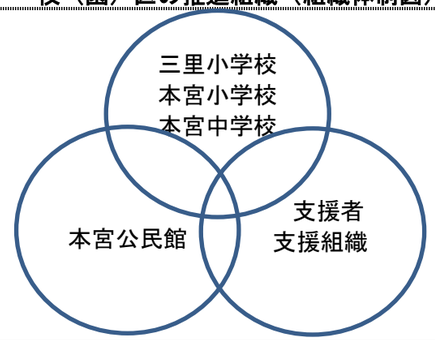
共育コニュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着している。
平成23年度から「音無の里共育コニュニティー事業」として小中３校と全地域が一体となった本宮独自の「学社融合」の取組を行っており現在も継続している。

目標

学校・園・地域

平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足したことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な３項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として実施していく。
また、学校支援地域本部事業として取り組んできた、郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの内容を協議会の委員さんをはじめとする支援者・支援組織の皆様からの意見をいただきながら内容を見つめ直していく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

育友会
熊野本宮語り部の会
本宮プロバスクラブ
田辺市女性会連絡協議会本宮支部
本宮町自治会連絡協議会
本宮町林業研究グループ
学校ボランティア
世界遺産熊野本宮館

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・新型コロナウィルス感染症の感染予防のため、学社融合の機会が大幅に減ってしまったが、ゲストティーチャーを招くなどの新しい形や、新しい人材の発掘ができた。 ・三里運動会は、コロナの影響で半日開催となった。開催種目も限られている中、小学校・地域・保育園が協力して開催できたことは、学校にとっても地域の方々にとっても、コミュニケーションがとれたのでよかった。 ・中学年では、本宮小学校との合同での学社融合行事が多かったが、本校単独で活動するほうが効果的な行事があることが分かった。	・コロナの影響で、低学年の体験活動（お茶摘み体験、乗り物体験など）がほとんどできなかったし、高学年は、語り部活動に影響が出てきた。コロナと共存しながら活動できるように方法を考えたり、人材を発掘したりする必要がある。 ・子供たちのコミュニケーション能力をもっと高くすることによって、地域の方やゲストティーチャーとより深くかかわることができるようにする。
公民館（地域）	・新型コロナウイルス感染症により、活動自体を制限せざるを得ない状況になったが、規制が段階的に緩和されてから支援活動の取組を行うことができた。 ・学校教育に参画することでサークル活動等で取得した知識や経験を生かせる場ができ、指導する喜びや生きがいを感じられる機会が生まれた。 ・子供たちと接することにより、子供たちから元気をもらい、子供たちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。	・学校教育に参画していただける方の発掘と今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていきたい。 ・学習パートナーの高齢化に伴い、新たな人材を探す必要がある。そのために、地域住民に学校教育に参画していただけるよう啓発活動を工夫していく。

今年度の取組内容

◎三里運動会
コロナの影響で半日に縮小した。
三里地域全体の運動会という位置付けから、事前に２回、地域や保育園と運動会実行委員会を開催し、半日開催と決定した。その場で実施種目や当日の役割分担など話し合った。種目は、ソーシャルディスタンスが確保でき、長時間の練習が必要ないもの、運動会への参加者は制限しないことと決めた。ただし、校内に入るには検温と健康調査、手指の消毒をすることと見学するときはソーシャルディスタンスをしっかりととるようにした。（一般見学場所を昨年よりも広くした）
例年よりも地域からの参加者が少なかったが、それでも、たくさんの方々が親子競技（大玉転がしリレー・親子でドキドキレインボータワー・親子リレー）・育友会種目（おたのしみ競技）や公民館種目（リムまわし・ビン釣り競争・団体リレー）に参加してくれて、運動会がとても盛り上がることができた。「地域と共につくる心温まる運動会」ができたし、子供たちにとっては三里地区の皆さんと親睦を図ることができた。運動会に参加していただいた地域の皆さんからは、「運動会に行けてよかった。」や「楽しかった。」という感想をいただいた。今回の取組で、コロナウィルス感染症と共存した運動会の持ち方の一例を示せたと思う。

◎ゲストティーチャーを招いての学習
３・４・５年の社会科学習では、コロナの影響で実際に現場に行って見学できなかった分、ゲストティーチャーを招いての授業を数回行った。今年度ゲストティーチャーに来ていただいて学習したことは、３・４年生で「水道の仕組み」・「ごみのゆくえ」・「三里地区の水害と避難」・「津波について～稲むらの火の読み聞かせ～」・「田辺市の文化財」・「警察官のしごと」、５年生では、「自動車会社のしごと」である。これらのゲストティーチャーの選定は、ほとんどが公民館主事の協力を得て決定した。
ゲストティーチャーを招いて学習することは、教科書の学習だけでは知り得なかったことを、実際にその仕事に携わって方から聞いたり本物の見たりすることで、より効果的な学習ができたように思う。また、「水害」学習では、自分に身近なことを教材にして学べたこともよかった。
来年度も、見学に行くことだけではなく、ゲストティーチャーと密接に連携し効果的な授業ができるようにしていきたい。

◎花のプレゼント大作戦（地域の老人会との花植え）
地域の方々に花をプレゼントをして感謝の気持ちを伝えること、ふるさとに親しみを持ち、豊かな心情を育むことを目的としてこの取組を行っている。
本宮社会福祉協議会や花つぼみの会の協力のもと、本宮町内の老人会の皆様と一緒に花を植えた。このことは、子供たちにとって高齢者の方々とコミュニケーションをとることができた。
花のプレゼントは、学校のある九鬼地区の方々と学社融合でお世話になった方々に渡し、感謝の意を伝えた。全児童手分けして花を配ったのだが、このことは児童にとって、お花を通してコミュニケーションをとることで、地域の方々が学校を思う気持ちを感じ取ることができるいい機会となった。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：本宮地域学社融合推進協議会

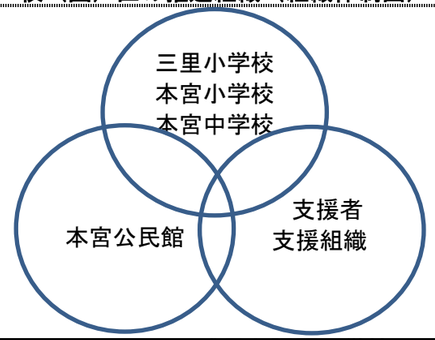
学校・園名	田辺市立本宮小学校	公民館名	本宮公民館

学社融合における学校・地域の様子

共育コニュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着している。
平成23年度から「音無の里共育コニュニティー事業」として小中３校と全地域が一体となった本宮独自の「学社融合」の取組を行っており現在も継続している。

目標		
	学校・園・地域	平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足したことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な３項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として実施していく。 また、学校支援地域本部事業として取り組んできた、郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの内容を協議会の委員さんをはじめとする支援者・支援組織の皆様からの意見をいただきながら内容を見つめ直していく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

育友会
熊野本宮語り部の会
本宮プロバスクラブ
田辺市女性会連絡協議会本宮支部
本宮町自治会連絡協議会
本宮町林業研究グループ
学校ボランティア
世界遺産熊野本宮館

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・新型コロナウイルス感染症により、１学期は地域の方々と共に行う活動を実施することが難しかった。しかし、２学期からは、語り部活動、クラブ活動、手話教室など地域の方々に学習パートナーとして学習に参画していただく活動を開始することができた。学習パートナーの高い専門性により、児童の興味関心が高まり、学習活動が充実した。 ・学社融合推進協議会委員に研究授業や参観授業時に来校いただき、各学年の児童の様子を参観してもらうことができた。 ・地域や一般の方々を対象にして古道ジュニア語り部活動を行うことができた。熊野古道のすばらしさを紹介しようと意欲的に取り組むことができた。	・運動会での本宮伝統芸能の披露、お世話になった学習パートナーの方々を招待する焼き芋パーティーや招待給食の開催、日曜参観でのクラブ活動・読み聞かせの実施等、これまで自分たちの活動を保護者・地域の方々に発信し交流していた機会が持てなかった。この点を補う工夫を行っていきたい。 ・高齢化により学習パートナーを辞退される方もおり、新たな人材確保が必要である。学社融合推進協議会の協力を得ながら進めていきたい。
公民館（地域）	・新型コロナウイルス感染症により、活動自体を制限せざるを得ない状況になったが、規制が段階的に緩和されてから支援活動の取組を行うことができた。 ・学校教育に参画することでサークル活動等で取得した知識や経験を生かせる場ができ、指導する喜びや生きがいを感じられる機会が生まれた。 ・子供たちと接することにより、子供たちから元気をもらい、子どもたちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。	・学校教育に参画していただける方の発掘と今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていきたい。 ・学習パートナーの高齢化に伴い、新たな人材を探す必要がある。そのために、地域住民に学校教育に参画していただけるよう啓発活動を工夫していく。

今年度の取組内容

「語り部活動」

１　語り部活動について

６年生が５年生に、昨年度の語りの内容を伝えた。過去の台本を読み合い、疑問点や詳しく調べたいことを出し合った。

２　熊野古道の魅力とは

熊野古道の語り部をされている関さんから本宮の魅力、熊野古道の魅力についてお話を聞かせていただいた。

３　世界遺産センター見学

世界や日本の世界遺産についてのお話や本宮にある世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について詳しく聞かせていただいた。熊野古道は未来の人々に引き継いでいかなければならないすばらしい自然であるということを知ることができた。

４　語り練習

各自、紹介する場所の調べ学習を行い、自分の思いや考えを新たに加えた自分の語りを作り練習を繰り返した。語り部である関さんにアドバイスいただいたり、６年生が５年生に寸劇の見本を見せたりすることで、聞き手に伝わる語りを意識することができた。
語り部のリハーサルでは、実際に現地に行き、語り部の関さんに指導いただきながら語りの練習を行った。紹介する場所の案内だけでなく、語り部は、道中の安全のため、足元への注意などの声かけを行うことが大切であると学んだ。

５　語り部集会

朝の集会で、語りの一部を全校児童に紹介した。
声の大きさを意識して発表を行うことができた。
また、毎年５・６年生が取り組んでいる語り部活動について、
全校児童が具体的なイメージを持つことができるよい機会となった。

６　語り部本番

保護者や地域の方を招いて語り部活動を行った。道中の声かけや名所の紹介などを通して、本宮の魅力、熊野古道の魅力を知ってもらうことができた。
①準備体操と世界遺産について
・スタート地点では、これから熊野古道を歩くための準備体操と、世界遺産についての説明を行った。
②湯峰温泉について
・湯峰温泉は、江戸時代の温泉番付で行司に位置する温泉であったことや世界遺産であるつぼ湯、９０度のお湯が沸き出る湯筒などについて紹介した。
③湯峰王子について
・湯登り神事や上皇・法皇の参拝道などについて紹介した。
④鼻かけ地蔵について
・鼻かけ地蔵に伝わる逸話を寸劇で表現した。
⑤月見ヶ丘神社について
・皮がないヒノキがあり、本宮大社の屋根に桧皮が使われていることなどを紹介した。
⑥大斎原・本宮について
・明治２２年の水害があるまで本宮大社はここ大斎原にあったこと、熊野古道の終着の地であり旅立の地とも呼ばれることなどを紹介した。最後に自分たちが感じている本宮の魅力を語り地域の方に発信することができた。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：東陽中学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立東陽中学校	公民館名	東部・中部・南部・ひがし公民館

学社融合における学校・地域の様子

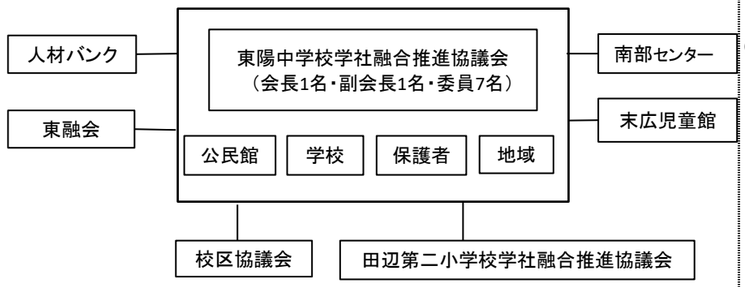
公民館施設を併設した中学校として、公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取組を実施している。「東融会」（東部・中部・南部・ひがしの各公民館主事と連携を図り、東陽中学校区の学社融合を推進するための会）を通じて管内公民館と情報を交換し、共有している。地域の方々も公民館の働きかけに協力的で、東部・南部公民館を通して学校支援サポーターを募集し、学校の教育活動に協力をいただく等、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができている。防災学習や避難訓練なども地域の方々と一体となって行ってきた。公民館の掲示版にはそうした学社融合行事の様子や教科の作品等を掲示し、公民館を訪れる地域の方々に広く紹介している。また、地域にある田辺第一、田辺第二、田辺東部各小学校との連携を深めた学社融合の取組も推進してきた。学社融合推進協議会では、今までの取組を引き継ぎ、現在の東陽の地域の実情に合った取組の方向を探りながら議論を進めている。

目標

学校・園・地域

・公民館施設を併設した学校として、地域の教育力を生かした学校支援サポーター等を活用した学社融合の取組を推進する。
・校区の小学校と連携を深め、児童と生徒が交流できる企画を進める。
・学校と地域が共に取り組み、学び合う機会を増やし、「社会に開かれた教育課程」を推進する。
・幅広く地域の方に呼びかけ、学社融合活動に携わっていただく。
・生徒たちと共に、当地域の課題である「防災」について学んだり、活動したりする機会を持つ。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

○人材バンク
（学校支援サポーター）
・図書・バラ園整備
・調理実習
・各種授業講師

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	今年度はコロナウィルスによる影響で、学社融合に関する多くの行事が中止となってしまった。その為、成果といっても今年度の活動のみによる新たな成果はあまりない状態である。強いて挙げるとすれば、このような事態の中でも今までの積み上げがあるため、コロナが収束すればすぐにでも今までと同じだけの取組が再開できる体制がとれている、ということであろうか。それは地域の方々についても、生徒・学校側の意識についても両方言えることである。	昨年までの学社融合の取組は、ほとんどがより多くの生徒と地域の方々が物理的にも触れ合える形を基本としていた。その為、このコロナ事態がまだまだ継続すると予想したときに、今までのような形での学社融合の取組を続けていくことには無理がある。これからは物理的な交流以外の学社融合の形も考えていかなければならない時期に来ているのだろう。具体的には、映像や通信を通した交流等が考えられるが、インフラの整備や公民館・地域との体制作りも含め今後取り組まなければならない課題は多い。
公民館（地域）	公民館からの視点でも、今年度はコロナウィルスの影響によって多くの行事が中止となってしまった。しかし、今までやってきたことをゆっくり見直すことができたので、収束してからの活動が大変楽しみでもある。 また、夏ごろに「公民館だより」にてバラ園の整備サポーターを募集したところ、新たに４名の地域の方々にご協力いただけることになり、これからのバラ園が大変楽しみである。	これからは、オンラインでの取組なども視野に入れていかなければならないと感じている。学校と地域、共にインフラに強くなっていかなければいけない。 また、もう少し地域との交流や学習の場、近くの小学校と関わることができる機会なども公民館側から提供していきたいと考えている。

今年度の取組内容

【バラ園整備ボランティア活動】
５月の活動は中止、３学期分の活動についても現時点では未定である。ただ、生徒の参加はないが、バラ園整備サポーターの地域の方々と公民館、教職員による整備作業を８月以降複数回行っている。

【小中連携】
小学生の「中学校体験学習」については例年通りの内容で小学６年生の授業体験とクラブ見学を行い、来年度入学に向けて小中の連携を図った。

【防災学習】
今年度は、前兵庫県立舞子高等学校校長の谷川彰一氏をお招きしての講話と協働学習による防災学習会になった。例年のような「地域の方と共に考える防災学習会」は行えなかったが、生徒たちにとっては地域の中で自分たちが担える役割や、地域とのつながりについて考える良い機会となった。

【公民館との連携】
公民館の人材バンク（学校支援サポーター）の中で、屋外で生徒との直接の接触のない「バラ園整備」については新たに参加してくださる方も増え、早朝の時間帯に何度も活動していただいた。

【学社融合推進協議会】
年３回の協議を予定していたが、第１回（５月）については書面による決裁を行い、第２回（１１月）、第３回（２月予定）については実際の会合を持った。学校、校区の実情等について具体的かつ真摯な討議を行い、コロナ状況下での様々な活動の見直し等についても議論を進めている。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：明洋中学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立明洋中学校	公民館名	中部・西部・芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

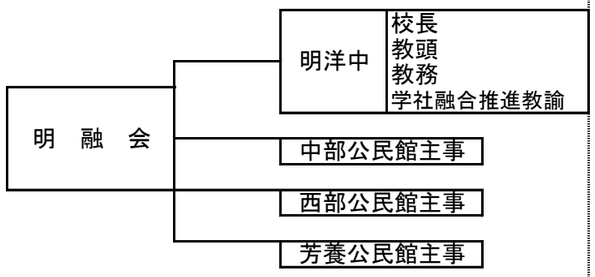
◎本校での学社融合の取組は、公民館主事と学社融合推進教員で組織する明融会を中心に進めており、大きく分けて２パターンある。１つは、学校に講師等を招いて行う授業や活動、もう１つは、地域に本校の生徒が出向いて行う活動である。
１）地域から講師を招いて授業や活動（生け花教室・郷土料理授業・浴衣着付け教室・茶道教室・紀州てまりなど）。ここ数年は夏休み中に地域の方々の協力のもと補習授業なども行っている。
２）地域に出向いての活動（吹奏楽部の芳養潮騒祭り演奏会（４月）こいのぼりの会演奏会（５月）保育所演奏会（８月）天神児童館祭り演奏会（１１月）定期演奏会[プロムナードコンサート]（１１月）など）。他にも、天神児童館が主催する道普請に、野球部・剣道部・体操部が参加したり、花植えボランティアにテニス部・吹奏楽部が参加したりと、地域の行事にクラブ単位で積極的に参加している。また、授業に関しても１年生は地域での保育実習、２年生では、地域の事業所での職場体験など、様々な機会をとらえ地域に出向いての取組を行っている。

目標

学校・園・地域

＜学校＞
◎地域の方々との交流を深めることにより、自分たちも地域の一員であるということを自覚し、故郷を愛する気持ちを育成する。
◎地域での活動を通して、多くの方々と関わることによりコミュニケーション能力を育成する。
◎地域での発表の場を設け、地域に貢献する態度を育てる。
＜地域＞
◎地域住民との関わりを通して、子供たちのコミュニケーション能力の向上と、伝統　文化や技術の取得を図る。
◎学校授業への適切な地域人材の提供により、子供たちの愛郷心を育みながら、健全な育成を目指す。
◎子供たちとの関わりの中で、地域住民に学校の取組を知ってもらい、子供たちに対する意識のさらなる向上を目指す。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

芳養地域人材バンク登録者及び
各地域の方々・公民館

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	◎吹奏楽部の定期コンサート（プロムナードコンサート）は、２３回目を迎えた。また、今年度も平成１１年東日本大震災や紀伊半島大水害、平成１６年熊本地震の被災地の復興のため寄付や地域のイベントや保育所等での演奏会を行ってきたことを評価され、ウィーン・フィル＆サントリー音楽復興記念賞を昨年に引き続き受賞した。 ◎鯵の三枚おろしの学習では、地域の方々が各班に分かれて指導してくれ、安全かつ効果的に学習が行える貴重な経験であったが、講師に来てくれている地域の方が高齢である事と新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から今年度は中止とした。 ◎地域の保育所や幼稚園、小学校との交流は、生徒たちに「お兄さん・お姉さん」であるという自覚を持たせることが出来、生徒たちにとって良い経験となっていたが、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から保育所・幼稚園とも相談し今年度は中止とした。	◎吹奏楽部の定期コンサートは、学校にとっても地域にとっても今や一大イベントになっている。このコンサートを企画運営するのは吹奏楽部の顧問が一手に担っている現状がある。このコンサートを継続していくには、学校・地域あげてのバックアップ体制がないと顧問が変わった時には現在の形で進めて行くのは困難であると感じる。 ◎本校は３つの小学校から進学してくる。また、校区には３つの公民館がある。９年間の視点を持って推進する場合、３つの小学校・公民館と、どのように連携し取り組むかが学社融合を推進する上で毎年の課題であるので３つの公民館主事と引き続き、定期的に情報交換をしていきたい。 ◎家庭学習の定着や学力の向上を図っていくために、家庭との連携、地域との連携が必要になる。学校として地域の教育力を向上させるためにどのような取組が必要か教務主任を中心に、教科部会等を通して検討しなければいけない。
公民館（地域）	◎地域からの講師と生徒との交流を通して、地域に伝わる伝統文化に親しむ機会を作ることや技術を伝えることができなかったので生徒の成長できる機会が失われた。 ◎地域行事の実施の際に生徒が参加してくれることにより、保護者以外の方々にも地域の子供たちの成長を知ってもらう機会を作ることができなかったことが残念である。	◎今後も取組を継続しながら内容の更なる充実を図ること。また、専門的な技術を伝えられる人材の確保に努め、生徒たちとの交流を続けていくこと。 ◎既存の事業の充実を図りつつ、今後も地域と子供たちの関係をより深く繋いでいかなければならない。 ◎現在の体制を維持しつつ、より一層地域と学校の繋がりを深めていきたい。

今年度の取組内容

＜地域から学校へ＞

◎鯵の三枚おろし（芳養公民館）➡新型コロナウィルス感染拡大の為、中止
◎紀州てまり（中部公民館）　➡新型コロナウィルス感染拡大の為、中止
◎茶道教室（西部公民館）　➡新型コロナウィルス感染拡大の為、中止
◎道普請（西部公民館）　➡新型コロナウィルス感染拡大の為、中止
◎生け花教室（中部公民館）１１月１９日（木）実施　➡　今年度は、１回のみの実施
・文化部の２年生に限定して、講師先生の指導を受け、花を生けた。
　その生け花を文化発表会で展示した。

・新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、中部公民館主催の生け花教室のみ実施した。

＜学校から地域へ＞

◎プロムナードコンサート
例年、吹奏楽部が定期演奏会を開いているが、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点と紀南文化会館の入場制限の関係で、今年度は、吹奏楽部ＯＢ、ＯＧ、吹奏楽部の保護者、本校生徒を対象に事前申請をしてもらい入場者が紀南文化会館の入場者制限に達した時点で抽選にて観覧人数を決めていく形で対応した。
◎保育所との交流
毎年、家庭科の授業で１年生が地域の保育所に行き園児たちと交流を図っていたが、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から保育所と相談の上、中止とした。
◎地域の作品展
美術作品、技術作品、家庭科作品、国語作品、音楽作品を公民館主催の作品展に出品していたが、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から公民館主催の作品展自体が中止になったため、本校の文化発表会での作品展示とした。
◎職場体験
例年、２年生が３日間、地域の事業所（４０か所）に２、３人ずつに分かれ、職場体験を行っていたが新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から中止とした。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：高雄中学校学社融合推進協議会

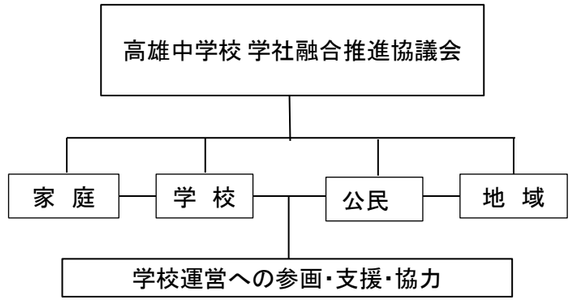
学校・園名	田辺市立高雄中学校	公民館名	中部・南部・稲成・秋津・万呂・ひがし公民館

学社融合における学校・地域の様子

例年、家庭科、社会科、保健体育科などの授業や文化部などの部活動指導、総合的な学習における進路学習など、さまざまな形でゲストティーチャーを快く引き受けていただいている。また、1年生は校外学習、2年生は職場体験学習、３年生は保育実習で地域におもむき、学習させていただいている。本年度は、コロナ対応のために一部しか実施できていない。

目標		
	学校・園・地域	授業や部活動での地域の方とのふれあいを通じて、地域を今まで以上に深く知り、専門性の高い内容に興味関心を抱くことで学習意欲を高め、自分が生まれ育った地域に誇りと愛着を持たせる。 【高雄中学校学社融合推進協議会】 高雄中学校学社融合推進協議会は、保護者及び地域住民等の（以下「保護者等」という。）学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組むものとする。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

公民館
たなべる
昭和幼稚園
いずみ保育所
初山歯科　切目薬局
湊浦漁協女性部（お魚ママさん）
深見助産所
紀南県税事務所
田辺市消防署
城山台給食センター

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・地域の方に学校や生徒たちの様子を分かってもらうことができた。 ・地域の方との関わりを深め、学校に期待されていること、果たす役割が明確になってきた。 ・これまでにない環境で、制限が多い中でも、各活動や行事を絞り開催することができた。 【推進協議会】 ・情報共有や学校、地域の課題の共有ができ、新しい環境で制限が多い中でも協力することができた。	・さまざまな分野のゲストティーチャーを継続的に招いて取組を進めることが課題である。また新たな人材発掘が難しい。 ・さまざまな取組を進めるとき、6つの公民館、地域、幼保と本校の日程調整に苦慮した。 ・新しい環境下でも実施可能な行事の精選が必要。 【推進協議会】 ・委員全員が参加できる日程調整が難しい。
公民館（地域）	・コロナ禍ということが後押しとなり、リモートを活用した講演会を行い、地域と学校において、情報モラル、防災意識・防災力の向上を図ることができた。 【推進協議会】 ・5つの公民館長が委員として地域と学校を繋ぐ強力なパイプ役になっている。 ・協議会において、学校、地域の現状や課題を情報共有することができた。	・本年度は、地域の行事が軒並み中止であったことから、中学生と地域の繋がりが希薄となった。来年度は、コロナ禍においても、つながりを持てるように模索していきたい。 【推進協議会】 ・公民館主催の地域行事等へ、その地域に住む中学生が参加できる機会を増やしたい。

今年度の取組内容

１学期…全学年：性学習（深見助産所助産師）

情報教育（NIT情報技術推進ネットワーク株式会社　篠原嘉一）

学校図書館ボランティアの方に協力いただいての図書館整理

２学期…１、２年：青年海外協力隊の映画鑑賞（クロスロード）

３年：伝統工芸品の製作体験、陶芸や染め物（北陸への修学旅行）

全学年：文化発表会に出品された公民館サークル作品の鑑賞

宮城県とZOOMでつないで防災学習（齋藤幸男　雁部那由多）
※中部公民館とも連携して地域の方にも公演を聞いていただいた

【学社融合推進協議会】

＊４／３０（金）　第１回高雄中学校学社融合推進協議会
・委嘱状の送付
・本協議会の運営方針、趣旨説明
・会長、副会長の決定
・学校経営方針　スクールプランの説明
・本年度の活動スケジュール等の説明
・手作りマスク作成の協力依頼
（たきの里、赤十字婦人部田辺支部　他）

＊６／２５（木）　第２回高雄中学校学社融合推進協議会
・各公民館、学校、地域の情報交換
・学校図書館ボランティア
・情報モラル教室を学校育友会と合同開催
・水曜日の放課後の活用について
・３年生の郡総体について
・高雄スタンダードについて

＊８／２７（木）　第３回高雄中学校学社融合推進協議会
・各公民館、学校、地域の情報交換
・体育大会の持ち方について
・自動販売機の設置について

＊１０／１６（木）　第４回高雄中学校学社融合推進協議会
・授業参観について
・給食試食会について
・文化発表会の持ち方と各公民館サークルからの作品展示について

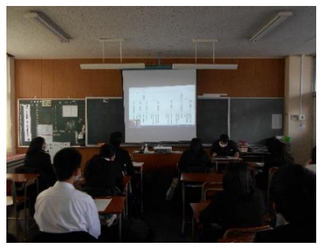
＊１２／１７（木）　第５回高雄中学校学社融合推進協議会
・文化発表会の様子を動画で視聴することについて
・学校評価について
・通学路の安全について

＊２／２５（木）　第６回高雄中学校学社融合推進協議会
・学校関係者評価の実施について
・今年度の活動のまとめ
・令和３年度の計画等

性学習

和紙作り体験

そば作り体験


防災学習

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立新庄中学校	公民館名	新庄公民館

学社融合における学校・地域の様子

新庄地域では、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。

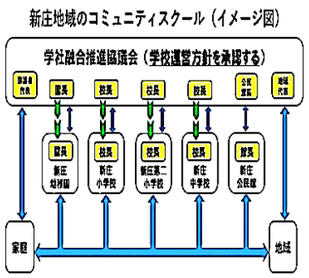
目標

学校・園・地域

田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則
第２条（目的）　協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。

新庄中学校
・子供たちの成長を地域ぐるみで見守り、育てていく。
・学校を核とした子供の地域参画を進め、未来の町づくりに貢献していく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

学社融合推進協議会
- ○　幼稚園・小中学校育友会
- ○　学校支援者・地域代表者
- ○　地域関係団体
- ○　公民館運営委員会
- ○　新庄地区校区協議会

新庄中学校
- ・新庄杜氏唄保存会様
- ・新庄漁業協同組合様
- ・和歌山県南紀熊野ジオパークガイド田辺ジオパーク研究会様

成果と課題（学校・公民館からの視点）

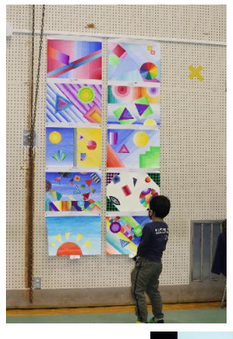
	成果	課題
学校	コロナ禍のため、今年は地域の方に学校行事に参加してもらう機会はなかったが、生徒の俳句作品や行事の生徒の感想を「新庄だより」に多く載せることで、地域の方に学校の活動を知ってもらった。 地域のことを調べ、理解を深めることで、子供たちの地域に関わる意識が高まった。 学校外の方に対して、日常的に挨拶ができる態度が育っている。 生徒は、積極的に地域と関わった防災学習ができないかを考えられるようになってきている。	今後は、専門的な技術、知識を持っている地域の方ともっとつながり、子供たちに発展的な世界を見せていきたい。 関わりをもつことだけに満足するのではなく、継続的に関わりを持ち、よりよい子供の成長につながる工夫などを考えることが必要である。 中学校卒業後に、地域との関わりが希薄になってしまうので、将来にわたって地域と関わる気持ち、態度を育てていきたい。
公民館（地域）	今年は、地域の方が学校へ行く機会がなかったものの、新庄公民館だよりをとおして学校の取組を地域の方に発信した。	学校を中心として、学校と地域が共通の目標に向かってどのような連携が出来るかを考えていく。特に、本年のような状況の中であっても、学校と地域が繋がれるような工夫をしていきたい。

今年度の取組内容

■1年生
○地域学習
「農業班」「地質班」「漁業班」「自然」「歴史」「祭り」の６班に分かれ、地域についての学習に取り組んだ。「地質班」では、地域の方にガイドしてもらい新庄区域のフィールドワークを実施した。「祭り班」では、新庄の祭りについて、地域の方からお話をいただいた。６班ともに、学んだことを文化祭で発表した。

■２年生
○キャリア教育
キャリア教育の一環として、２月の「お弁当販売」に向けて、弁慶市の市場調査、地域の特産物について学んでいる。

■３年生
○「新庄地震学」
１・２年生の学習の集大成として、「外国語班」「理科班」「音楽班」「社会保体班」「技術家庭班」の５班に分かれ、フィールドワークを実施した。「英語班」で作成した「コミュニケーションカード」を、市民総合センターの日本語教室や駅前の観光センターに置いてもらうように依頼した。
社会班では、「防災まちづくり課」の方々から話を聞いたり、生徒が考えた提案を伝えたりした。これらを、１１月に行った文化祭で発表した。



学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：衣笠中学校学社融合推進協議会

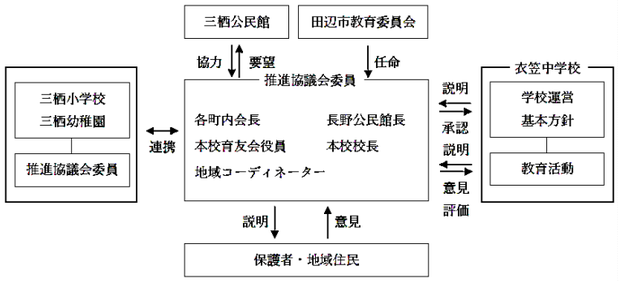
学校・園名	田辺市立衣笠中学校	公民館名	万呂公民館・三栖公民館

学社融合における学校・地域の様子

本校では、1年生で地域の主産業である梅産業の学習、２年生で進路学習（職場体験）、３年生では幼稚園や小学生との交流、全学年を通して防災学習や福祉学習に取り組んでいる。それらの活動に三栖公民館、幼稚園、小学校などの関係機関やJA紀南三栖支所をはじめとした地域事業所、地域住民の方々と連携して取り組んできた。しかし、本年度は新型コロナウイルス対応のため、ほとんどの行事が中止となっている。

目標	学校・園・地域	
		・地域の人々や自然との触れ合いを大切にし、地域に対する愛着を育む。 ・地域社会の一員としての自覚を持たせ、地域に参画する態度を育む。 ・地域の多くの方々との交流から、多角的な視点と豊かな人間性を育む。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

ＪＡ三栖等地域団体、市内企業、保護者、育友会、地域住民、三栖公民館、万呂公民館、長野公民館、田辺市梅振興課

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・新型コロナウイルス感染防止のため、例年通りの活動をほとんど実施することができなかったが、限られた範囲で関係機関や地域住民の方々と連携することができ、学校単独では難しい活動を生徒に体験させることができた。また、これまでの活動を見直し、新たな取組にチャレンジするきっかけとすることができた。	・新型コロナウイルス感染防止のため、例年通りの活動をほとんど実施できなかったことが大きな課題である。国や県の動向、また地域の状況をみながら、子供たちの安全を優先した上でできる活動を検討していく必要がある。
公民館（地域）	・新型コロナウイルスのため、例年通りの活動は実施できず、制限された活動となったが、地域の方が育てたカボチャを使って、生徒がランタンを製作するなど、間接的な交流で連携することができた。 　また、少人数ではあったがパーテーションの組み立て方を教える等、防災学習を通して交流できた。	・新型コロナウイルス感染防止のため、梅学習や文化展への出展等、例年通りの活動をほとんど実施できなかったことが大きな課題である。国や県の動向、また地域の状況をみながら、子供たちの安全を優先した上でできる活動を検討していく必要がある。

今年度の取組内容

○万呂公民館と連携して、地域の方が栽培したカボチャを用いて、ハロウィンのランタン製作を、１年生の有志を募って実施した。
○１年生では「地域学習」として、地域の史跡、名所を訪問、または電話等で調べ学習を行い、各班でポスターにまとめる活動を実施した。
○２年生では、「地域の魅力を探訪し、紹介する」という取組を行い、「観光」「特産物」「自然の景観」「インスタ映えスポット」「Ｂ級グルメ」「三栖・万呂地区の名所」などのテーマでグループを作り、現地取材やインターネットを使った調べ学習、ジオラマ作成等を実施した。また、SDGｓ公認ファシリテーターを招聘した授業や、地域企業による出前授業を実施することで、できなかった職場体験授業に代わるキャリア教育につなげることができた。
○３年生ではコロナ禍もあり、三栖公民館と連携し、少人数で防災学習を実施した。また、地域に出かけ、災害時の内容を聞き取る学習も行った。
○コロナ禍の中で、生徒同士の交流は難しいが、幼稚園からの提案で、小学校、中学校に幼稚園から年賀状を送り、返事を書いたり、プレゼントを作って交流する取組が予定されている。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書 **協議会名：上秋津地域学社融合推進協議会**

学校・園名	**田辺市立上秋津中学校**	**公民館名**	**上秋津公民館**

学社融合における学校・地域の様子

平成２８年度から３０年度までの、幼稚園・小学校・中学校・公民館と連携した「上秋津地域共育コミュニティ本部事業」の取組を継承している。幼稚園から小学校、中学校に至る１１年間の教育活動を目標にした、地域とともにある実践活動を目指している。
従来から上秋津では、地域が子供たちを育てる取組が進められており、上秋津地域学社融合推進協議会はその活動をさらに発展させるため、幼小中の連携強化に重点を置いている。

目標	**学校・園・地域**	・農業体験を中心とした活動を行い、ふるさとを大切にする心を育てる。 ・地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。 ・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育をすすめる。 ・幼・小・中の連携を図る。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

上秋津地域学社融合推進協議会
（公民館・上秋津幼稚園・上秋津小学校・上秋津中学校・ＰＴＡ・町内会等）

役員･事務局
※役員＝会長・副会長・役員

ふるさとを誇りに思う ／ 学力の向上を図る ／ 人を大切にする

支援者及び支援組織

上秋津町内会　上秋津公民館
ＪＡ紀南上秋津
ＪＡ青年部
幼稚園PTA　小学校育友会
中学校PTA　民生児童委員
公民館サークル
秋津野ガルテン
介護老人保健施設あきつの
等

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	**課題**
学校	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度は例年行っているほとんどの取組が実施されなかったり、規模を縮小しての実施になったりと十分に地域と交流することができなかった。その中で、夏に公民館主催の「上秋津お気に入りの風景」写真展には中学生が多くの作品を応募することができた。また、学校の取組の様子を地域に知らせる場が少なくなってしまう中、学社融合推進協議会は学校の様子を地域に知ってもらう貴重な会となった。	本年度、コロナ禍においてほとんどの取組が実施できていないが、コロナ禍が収束すれば昨年度の取組を復活、継続させていきたい。また、コロナ禍においても、開催方法を工夫したり、ICTを活用したりするなどして、できる範囲で地域との交流をより活発にしていきたい。
公民館（地域）	新型コロナウイルスのため、子供たちと地域との交流が少なくなってしまったが、農業体験学習では上秋津の地場産業を学び、また、「上秋津お気に入りの風景」写真展では、上秋津の良さを再確認することができた。また、子供たちがどのような視点で上秋津を見ているのかがわかった。	学校と地域の課題解決に向け、相互に協力できる体制を継続させ、持続可能な取組を進めていきたい。 子供たちと地域との交流を通じて、地域の一員であるという自覚を育んでいきたい。

今年度の取組内容

今年度は、新型コロナ感染拡大防止対策のため、多くの行事を中止したり、規模を縮小したりと例年通りの取組は実施できていませんが、その中で実施できた行事や取組をいくつか報告します。

体育大会

今年度はコロナ感染拡大防止のため、保護者のみを招き、種目を精選し半日で実施しました。コロナ感染拡大防止対策としては、短時間で行うこと、生徒同士の接触がない種目を行うこと、来場者の感染防止対策を徹底することなどを行いました。
来場者に対しては、体調チェックシートの提出、アルコール消毒の実施、マスクの着用等をお願いしました。また、来場者は必ず受付を通るように誘導するとともに、立て看板等で感染防止対策を呼びかけました。
当日は天候により予定を変更して午後から実施しましたが、PTA の役員の方々の協力もあり、スムーズに運営することができました。

第56回　上秋津中学校体育大会　プログラム
スローガン　『力　戦　奮　闘』
【開会式】
1. 入場行進　2. 学校長挨拶　3. 生徒会挨拶　4. 選手宣誓　5. ラジオ体操（採）
午前中のみ＜8:45～12:00頃＞

	第1クール	
1	入場行進・開会式	採
2	長縄跳び1. 2. 3年	全
3	女子選抜リレー	リ
4	男子選抜リレー	リ
	休　憩(手洗い)	
	第2クール	
5	綱引き	全
6	スウェーデンリレー	リ
7	女子　しっぽ取り	全
8	男子　しっぽ取り	全
	休　憩(手洗い)	

	第3クール	
9	集団行動演技	全
10	生徒会種目	生徒会
11	女子全員リレー	全リ
12	男子全員リレー	全リ
13	フォークダンス（マイムマイム）	採
14	フォークダンス（I Really like You）	採

【閉会式】
1. 集合　2. 成績発表　3. 生徒会挨拶　4. 講評　5. 閉会宣言

受付の様子

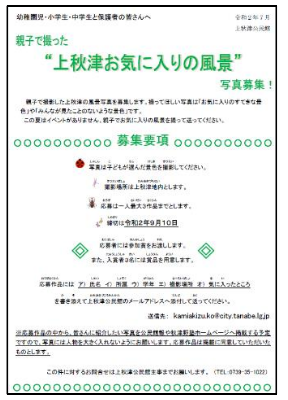
アルコール消毒
体調チェックシートの提出
マスク着用の確認

高齢者施設『あきつの』へジャンボ暑中見舞い・ジャンボ年賀状

例年、生徒会福祉委員会のメンバーが地域にある高齢者施設『あきつの』を訪問し高齢者の方々との交流をしていましたが、新型コロナウイルスの影響でできませんでした。しかし、何かできないかと福祉委員会で話し合いをし、代わりにジャンボ暑中見舞いとジャンボ年賀状を各学年で作りました。また、前期・後期の委員長・副委員長が代表して施設に届けました。

「上秋津お気に入りの風景」写真展

今年度は上秋津の夏祭りが中止されましたが、代わりに上秋津公民館が「上秋津お気に入りの風景」写真展を開いてくれました。本校では夏休みの宿題の１つとして取り組むよう呼びかけ、多くの生徒が作品を応募することができました。


幼稚園児・小学生・中学生と保護者の皆さんへ
令和２年７月
上秋津公民館
親子で撮った
"上秋津お気に入りの風景"
写真募集！
募集要項
締切は令和2年9月10日
送信先：kamiakizu.ko@city.tanabe.lg.jp
(TEL:0739-35-1022)

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：秋津川地域学社融合推進協議会

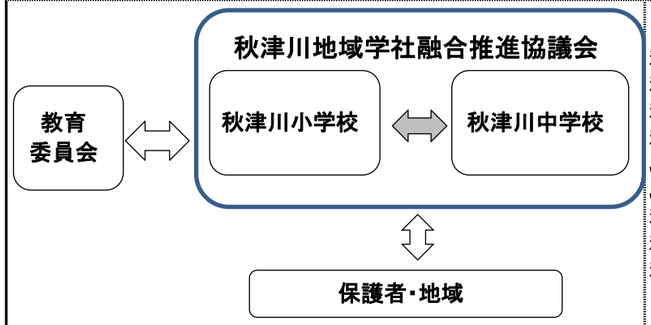
学校・園名	田辺市立秋津川中学校	公民館名	秋津川公民館

学社融合における学校・地域の様子

秋津川中学校では、ほとんどの生徒が保育所から小・中学校と一緒に生活し、生徒同士の人間関係がよい。また、保護者も長い年月を一緒に活動しているため、連帯意識が強く、地域の人々も子供たちを見守り育んでいこうとする意識が強い。学社融合の取組から、計画的に子供たちが地域の方々と触れ合うことで、生徒は視野を自分たちから地域へと広げて考えられるようになるとともに、一緒に活動することで、地域全体の活性化に貢献している。また、地域の方々も学校行事や子供たちとの活動を通して、コミュニティーとしてのまとまりが保持され、各種お祭りや行事等、秋津川地域としての文化の形成・継承が行われている。

目標		
	学校・園・地域	・地域の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを再確認し、地域や学校を大切にする心を育てる。 ・地域の方との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。 ・子供たちに地域の人たちとの交流を通して、伝統文化等の様々な知識を教えていただき、地域への愛郷心を養う。 ・普段子供たちと接する機会の少ない保護者以外の人たちに、公民館主催のイベントを通して交流を持っていただくことで、地域の活性化に繋げていく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

秋津川公民館
秋津川町内会
秋津川振興会
秋津川春秋会（老人会）
JA紀南秋津川店
JA女性会
秋津川婦人会
秋津川小学校
秋津川保育所

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・町民運動会やふるさと祭り等の地域行事は全て中止になった。しかし、体育参観日や花いっぱい運動など工夫して代替の行事や新たな取組を行うことができた。特に、防災学習では、秋津川地域の防災マップの作製や避難所運営ゲームの実施を通して、保護者や地域の代表者と共に考えることができた。 ・小中学校の連携については、感染症対策をしながらほぼ例年通り実施できた。	・地域の方々との交流を通して、地域の良さを再確認し、それを大切にする心を育てるなど、本来の目標やビジョンを共有しながら、地域の方々と過ごす時間を効果的に活用できるようにしていきたい。 ・生徒自身が、地域の方々と関わりながら自分自身を見つめ直すことで、学校や家庭、地域での自分の役割について考え、責任感を高めるような指導をしていきたい。
公民館（地域）	・令和２年度は公民館主催の行事など、多くの地域活動が中止となり、地域と子供たちが交流する機会は少なかった。しかし、防災学習などで地域について学び、地域について知ることで、ふるさと秋津川の良さを再確認することができた。 ・様々な活動が制限されていたが、学校の工夫により、地域と学校が継続的に関わることができた。	・地域の活動が再開した際に、地域と子供たちの交流がスムーズに行われるよう、学社融合推進協議会を中心に地域と学校が連携できる体制を持続していく。 ・中学生が地域の一員としての自覚を持ち、社会的な立場における行動力をさらに高められるように働きかけていきたい。 ・地域の高齢化が進む中、既存行事が持続可能な取組となるように努めていきたい。

今年度の取組内容

・6月22日（月）花いっぱい運動として、学校で育てた4種類の花（コスモス、マリーゴールド、ペチュニア、日日草）を地域に配布しました。

・7月22日（水）元伏菟野地区区長の谷口氏に、平成23年9月の台風12号による紀伊半島大水害で大きな被害を被った伏菟野地区の深層崩壊現場を案内していただき、命の尊さや土砂災害の怖さを知るとともに、早めの避難の大切さを学ぶことができました。また、避難所運営に携わる人のご苦労や避難所生活の大変さを知ることができた。このことを基に、１年生では、自分たちの住む地区を調べ、QRコードを付けて状況をビデオで見られる防災マップを作り、文化発表会で発表しました。３年生を中心に避難所運営について、全校生徒と保護者、地域代表の方々と考えました。

・10月21日（水）保育所、小学校、中学校合同避難訓練を行いました。今年は中学生が保育園児を誘導する形で行い、その後、警察官の方からお話を聞きました。また、11月13日（金）には、小中合同の不審者対応避難訓練を実施し、公民館を避難場所として協力頂きました。

・11月6日（金）秋津川春秋会（老人会）との地域清掃作業は、コロナ禍によって中止になりましたが、小学校5・6年生と中学生で、日頃からお世話になっている地域のために清掃活動を行いました。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：上芳養地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立上芳養中学校	公民館名	上芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

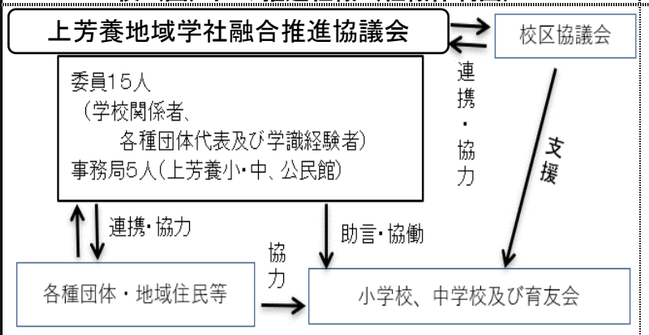
自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に大切に見守られながら学校生活を送っている。
小学校・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得たり、地域にある施設や事業所の方々と交流を図ったりして教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子どもを育てる」という意識が高く、学校の教育活動に非常に協力的である。
公民館は子供対象の行事を実施したり、住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催したりしながら地域の交流を図っている。

目標　**学校・園・地域**

＜ 学校 ＞
○地域の自然や人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。
○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていこうとする児童生徒を育成する。
○地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。

＜ 地域（公民館） ＞
○児童生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちの地域理解を深める。
○学校と地域との連携を密にして子供たちの健全育成を図る。
○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へと繋げる。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

育友会
　上芳養小学校育友会
　上芳養中学校育友会
上芳養公民館
日向保育所
各種団体
　・上芳養町内会
　・交通安全協会上芳養分会
　・上芳養消防団
上芳養校区協議会
学識経験者
地域の事業所・地域の先生

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・農事体験学習により、働くことの大切さや意義を学ばせることができた。地域の産業（梅産業、農産業）を通じて郷土愛を育んだ。 ・地域貢献活動では、教科横断的な取組の中で思考を深めることができた。 ・上芳養アピール大作戦を進める中で、それぞれが目的意識を持ち、主体的・共同的な活動となった。また、地域の方々との関わりの大切さ、地域への愛着をより一層深めることができた。	・取組を学校だけでなく、地域と様々な行事等で関わりを持つことで新たな価値を見い出すなど、地域の方々とより一層連携を深め、地域貢献・地域活性化を共に考えていきたい。 ・総合的な時間を見直し、さらに充実させ継続していきやすい系統立てた取組にする。 ・生徒自身が学びを振り返り、次の学びに繋げていけるような、深い学びとなるよう工夫改善をする。
公民館（地域）	・自分たちの地域についてより深く学んでいくことで、地域社会の一員としての自覚を育むことができた。また、上芳養の良さ・魅力を改めて学ぶことができるきっかけともなっている。 ・上芳養アピール大作戦は、上芳養地域全体を巻き込む取組であり、地域の一体感を実現することができ、やりがいや達成感を感じることもできた。	・これからの取組や活動に参加・協力してもらえる方がさらに増えるよう多世代の交流を活発にし、交流範囲も広げていけるように努める。 ・地域課題を地域全体で共有・解決していくために、互いの連携を深め、協力体制をより一層強化していきたい。

今年度の取組内容

上芳養アピール大作戦!!　R2

【学社融合スローガン】
笑顔　咲き誇れ　梅の里

1年　梅農事体験活動

地域を知る
①「梅博士に！」
　梅の歴史や梅産業など、梅に関する知識や理解を深める。
②6月「体験1日間」
　地元梅農家で、梅とり、選果、箱詰め

2年　職場体験活動

地域に学ぶ
　地域貢献されている「日向屋」の皆様による事前学習。
　地域のために働く意味、働くことの楽しさや大切さを 地元企業で体験する。

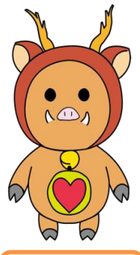
3年　地域貢献活動

第4弾　キャラ制作

園児・小中学生、地域住民による投票

第2弾　和スイーツ　製品に

うめぇや



イノ丸

地域のために＜名産品・キャラクターづくり＞
●第2弾 【 上芳養名産品の考案・製品化 】
　授業内で、地元の特産物を使用した和風スイーツを考案。
　『澤田製菓』様の協力の下、8月完成・製品に！
●第3弾 【 地域の魅力写真展 】
●第4弾 【 上芳養のキャラクター制作 】
　上芳養をアピールするために、3年生がみんなに愛される、地域の魅力にあふれた4キャラクターを考案。
●広報活動
　上芳養のPRのため、考案したキャラクターのデジタル化。
　町内会や公民館などへ配布、地域内外の方に活用依頼。
　地元『日向の杜』様が自社製品へのキャラの添付を計画中。

次年度に向けて
　学社融合スローガンのもと 「地域とともにある学校」として各種体験活動を行い、『上芳養アピール大作戦』 を第4弾まで取り組んだ。
　次年度に向けては、地域との活動内容を精選しつつ、地域の方とともに地域課題について考え、生徒自らが行動できる地域活性化の活動を探っていく。
　地元住民・農家・企業とともに「上芳養の未来」を創造する中学校を目指す。

第3弾　地域写真

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：中芳養地域学社融合推進協議会

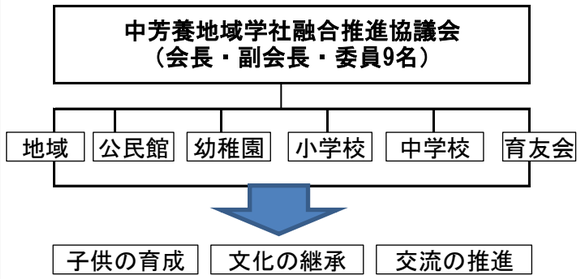
学校・園名	田辺市立中芳養中学校	公民館名	中芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

「地域と共にある学校　学校でつながる地域の”わ”」をテーマに、「子供の育成」「文化の伝承」「交流の推進」を３つの柱として取組を進めてきた。この取組の成果を生かし、地域とのつながりを大切にした取組を公民館と連携して進めている。

目標	学校・園・地域	
		・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・中芳養公民館
・中芳養幼稚園
・中芳養小学校
・ＪＡ紀南芳養谷支所
・中芳養地区老人会「芳寿会」
・中芳養町内会
・中芳養地区消防団

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	本年度は、新型コロナウイルスへの対応のため地域との交流行事がすべて中止となる中、「和の心の授業」だけは実施できた。今まで培ってきた講師先生とのつながりが維持できたことは、本当に良かったと思う。 行事の在り方や実施方法を職員間で共有できた。今後の取組を見直す良い機会になった。 「中芳養地域連絡会」による幼稚園・小学校・中学校・公民館の連携は維持できた。	今後、どのような実施形態で地域との交流行事を実施していくか考えていかなくてはならない。 地域教材を活用し、地域の良さを知ることで郷土愛を育み、地域の将来について考えられるようにしていきたい。 今後も幼稚園・小学校・中学校・公民館の連携を深め、一貫した子供を育てる取組に発展させていきたい。
公民館（地域）	新型コロナウイルスの影響により、各行事の中止又は入場制限のため、公民館行事や中学校行事で連携を図ることが減少してしまい、残念であった。 しかし、各団体との連携、地域間の密接な関わりが大切であるということを、改めて考えることができる時間であったように思う。	今までの行事の在り方を、臨機応変かつ柔軟に変化・対応できるよう工夫を行っていきたい。 これまでの取組を継続、発展していけるよう、講師の方をはじめ地域の方々との関係を大切にし、より深くつないでいけるよう努めていきたい。

今年度の取組内容

和の心の授業（書道・華道・茶道）のねらい
　日本の伝統文化に触れながら自分の心と静かに対峙し、心豊かな人生の素地を作る。周囲の人をもてなす生活態度や習慣を身につけさせる。

８月	講師依頼と日程調整を行い、新型コロナウイルスへの対応を協議しました。１年生は、取り組む百人一首の句を選びました。
書道 （8時間） 10月20日～ 11月17日	前田一彦先生を講師にお招きし書道に取り組みました。数年前から百人一首を題材に選び、上の句と下の句を２人で分担して作品を作りました。約６時間の練習の後、清書を行いました。最後の日には、台紙に貼り合わせ展示用作品に仕上げ、「中芳養祭」で参観者に披露しました。
華道 （6時間） 10月29日～ 11月20日	西野ゆかり先生を講師にお招きし、フラワーアレンジメントに取り組みました。毎回花の種類や生け方を変えて指導して頂き、作品は自宅に持ち帰り家族にも楽しんでもらいました。最後の授業では、「中芳養祭」の展示用作品をつくり、当日参観者に披露しました。
茶道 （4時間） 11月6日～ 11月17日	八木幸子先生を講師にお招きし、茶道の歴史や作法について学ぶ授業を行いました。道具類の名前や歩き方等、細かく指導して頂きました。本年度は、飲食を伴う茶道の実施には慎重な対策を行いました。練習では、お互いにお茶をたてあい、作法を確認しました。「中芳養祭」においてのお茶の接待は中止となり、成果を披露することができませんでした。
中芳養祭 11月22日	本年度は、午後の交流タイムを中止し、半日開催となりました。地域との交流ができなかったのは残念ですが、学習発表と合唱・合奏の発表をすることができました。

１年生の書道の様子

２年生の華道の様子

３年生の茶道の様子

モザイクアート

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：龍神中学校学社融合推進協議会

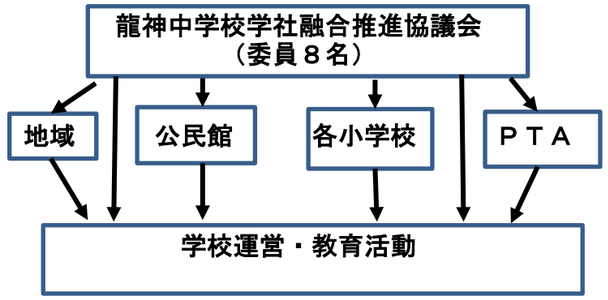
学校・園名	田辺市立龍神中学校	公民館名	龍神公民館

学社融合における学校・地域の様子

校区が旧龍神村全体である本校は、３台のスクールバスを所有し、全校生徒の約６５％がバス通学している。校区は広大であるが、各行事等への保護者の出席率は常に高い。地域も学校の教育活動に対して協力的である。
学校は、地域（旧龍神村内やさらに広域な地域）から外部講師を招聘した授業を積極的に実施したり、生徒が地域（旧龍神村やさらに広域な地域）へ出かけ学習する場を多く設定したりするなどし、外部人材を有効に活用する教育活動に取り組んでいる。

目標	学校・園・地域	
		①学校が教育活動等の情報を積極的に地域に提供し、地域の学校への関心を高め、地域から支援や協力が得られるように努める。 ②ＰＴＡ，公民館等と協力して、学校・家庭・地域のそれぞれが果たす役割について考え、地域全体の教育力を高める活動の推進に努める。 ③地域での体験活動の実施、地域から講師を招聘する授業の実施等、地域の教育力を積極的に活用することにより、生徒の知識や技能を高め、さらに生徒の道徳性や社会性を高めていく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

龍神公民館・各分館
龍神地域各区（２０区）
田辺市社会福祉協議会
龍神行政局
ＮＰＯ「未来龍神」
龍神中学校ＰＴＡ

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・外部講師を授業に招聘することにより、生徒の「学びに向かう力」がより高まった。 ・生徒の学びの場を校区やさらに広域な地域に求めることにより、より教育効果を高める学習を展開することができた。 ・生徒が、清掃活動やリサイクル活動に取り組むことにより、達成感を感じることができ、自己有用感の高揚につながった。 ・地域での教育活動に対し、保護者や地域の方々から多大な協力を得ることができた。	・生徒数の減少、保護者数の減少、地域の世帯数の減少の中であっても継続していける持続可能な取組を工夫しなければならない。 ・各教科の授業に招聘する新たな外部講師の確保に努めていきたい。 ・生徒が、地域の活動や行事により積極的に関わり、多くの人々と交流することにより、生徒の社会性を高めたい。
公民館（地域）	・地域の方々が、ゲストティーチャーとして授業に参加することにより、地域の人々にとって学校の教育活動がより身近なものに感じられるようになった。 ・多くの地域の方々が、学校の取組に協力したり、学校の行事に参加したりすることにより、地域の学校というイメージが高まった。 ・学校が地域に学びの場を求めることにより、地域の教育力の高まりにつながった。	・自分たちが地域の行事を継承していく重要な担い手であるという意識を生徒たちに持たせたい。 ・学社融合の取組をさらに進めていくためには、地域と学校をつなぐ人材の確保が必要である。 ・生徒に地域防災の重要な担い手という意識とそのための知識を身につけさせていく取組を、地域と学校が協力して進めていきたい。

今年度の取組内容

Ⅰ．環境を守るための奉仕活動

（１）地域清掃ボランティア活動（避難所指定の旧校舎の清掃）
◎目的：休校・廃校中の校舎を災害時に避難所として利用できるよう清掃活動を行う。
◎日時及び場所
・７月２８日（火）13:00～15:30
旧大熊小学校（３年生による清掃活動）
・７月２９日（水）13:00～15:30
旧殿原小学校（２年生による清掃活動）
・７月３０日（木）13:00～15:00
旧甲斐ノ川小学校（１年生による清掃活動）

（２）校区全体の古紙・古着回収
◎取組の概要：生徒、教職員、保護者、地域の方々による回収作業
◎回収日：６月７日（日）　１０月２５日（日）　２月２８日（日）
◎回収する地域：回収場所３か所設置し、校区全体から回収
◎回収物：新聞、雑誌、ダンボール等の紙類及び古着

Ⅱ．学びの場を校外に求める活動

（１）１年生紀南体験学習
◎日時：令和２年９月３日～４日
◎場所：那智勝浦町・串本町
◎活動内容
・和歌山県土砂災害啓発センターでの防災学習
・世界遺産熊野古道ウォーク（大門坂～那智ノ滝）
・串本海中公園水族館バックヤードでの学習
・潮岬青少年の家での宿泊体験学習

（２）２年生校外学習
◎日時：１０月１３日（火）
◎場所：広川町・湯浅町
◎活動内容
・「稲むらの火の館」での防災学習
・湯浅町栖原海岸でのシーカヤック体験

（３）３年生、県内を主とする修学旅行
◎日時：１１月１７日～１１月１９日
◎訪問場所：高野町・新宮市・串本町
◎主な活動内容
・高野山「町石道」ウォーク
・高野山の歴史学習、奥の院ナイトツアー
・新宮市内フィールドワーク
・古座川でのカヌー体験

Ⅲ．外部講師を招聘した授業

（１）Ｂ２９墜落についての学習（１年生）
（２）合気道の授業（１，２年生）
（３）情報モラルについての学習（全学年）
（４）福祉学習（全学年）
（５）食育の授業（全学年）

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：中辺路地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立中辺路中学校	公民館名	中辺路公民館

学社融合における学校・地域の様子

保護者・地域の皆様方がともに学社融合の連携全体会議を通して、学校と地域の関わり方に留まらず中辺路町の在り方までに及んで、非常に熱心かつ真剣に議論をされている。本校の生徒数は少人数ながらも、保護者や地域の方々に温かく見守られながら学校生活を過ごしている。学校においては、新型コロナウィルスの影響で、地域の方々との例年ほどの積極的な交流はあまりできなかったが、可能な範囲で地域の皆様に協力していただける行事を行った。

目標	学校・園・地域	
		・家庭、地域の持つ教育力を積極的に取り入れ、地域の施設や環境などを教育活動に生かすことを大切に取組をめざす。 ・自然や地域の人とのふれあいを大切にし、生徒自身に地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ・地域行事やボランティア活動に積極的に関わる生徒を育成する。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

田辺市学社融合推進協議会規則に基づき設置

学校運営協議会　事務局：教頭

学習支援・行事　　環境・安全

支援者及び支援組織

・田辺市中辺路町
　社会福祉協議会

・熊野の森ネットワーク
・いちいがしの会
・JA紀南

・中辺路生活研究グループ
・中辺路町観光協会
・田辺消防署中辺路分署

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・地域の方々に様々な行事や活動の提案をいただき、学校と地域が良好な関係を築けている。取組を通して地域との連携を深め、地域の方々の学校教育や生徒に対する、理解や関心が高まった。 ・地域の方々との関わりによって、学校の中では経験できない社会性が育まれ、コミュニケーション能力の向上に繋がった。 ・地域の伝統をはじめ、様々な技術の共有や交流ができた。	・今年度は、新型コロナウィルスの感染対策と授業時数の確保のための行事精選により、地域の方々を学校に招待できなかったことが残念だった。 ・来年度以降も、授業時数との兼ね合いや社会情勢を見ながら、行事の精選の必要性に迫られるが、少ない機会を生かしてよりよい地域との交流の機会を大切にしていきたい。
公民館（地域）	・例年、中学校の生徒が花いっぱい運動で育てた苗は地域の住民に大変、喜ばれている。また受け取った側の感謝の言葉から、生徒自身が自尊感情を高め、自信になり、中辺路地域の方々と学校側が互いに誇れる活動となっている。こうした地域と中学生の交流が地域の環境美化意識を高めることにも繋がっている。	・公民館として、学校で取り組んでいる学習活動に地域全体がもっと関心を持ったり、積極的に参加してもらえるよう、サポートしていきたい。 ・花いっぱい運動以外にも、地域の各自治会や社会福祉協議会を通じて、地域の老人会などとの積極的な交流を継続していきたい。

今年度の取組内容

年間活動

一学期
・花いっぱい運動
中辺路町公民館と連携
【種まき】
【苗育て】
【地域の皆様方への配布】

二学期
・森林ボランティア学習
熊野の森ネットワークいちいがしの会・JA紀南と連携
【森林学習】紀伊半島の照葉樹林を学ぶ
【校外学習・滝尻王子～高原・どんぐり採集】
【育苗（ボランティア寄贈用）】

・福祉学習／福祉体験
田辺市中辺路町社会福祉協議会・
南紀支援学校と連携
【手話動画の製作を通じて交流】

・ジビエ料理の調理実習
中辺路生活研究グループ
【シカ・イノシシ調理】

・和装体験
中辺路町の皆様方・
中辺路観光協会
【和服ならびに平安衣装】

三学期
田辺消防署中辺路分署
【火災避難訓練】

【活動内容】※ 上記委員全員で全体会を行い、かつ、部会のいずれかに所属し活動をする。
※ 学校職員は、部会のいずれかに属するものとする。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体会議(計画)		全体会議及び部会の開催								全体会議(総括)	
【議案】 (1)会長･副会長選任 ※学校運営方針の説明及び承認 (2)学校、地域の課題の選定 (3)課題を検討する専門委員会の決定		○全体会議（1回程度） 小中学校の授業視察、必要な事項の協議 ○専門部会（2～3回程度） 課題解決に向けた取組を協議･意見交換など ※必要に応じて担当の学校職員も加わる								【議案】 (1)学校運営の基本方針に係る取組報告 （活動状況報告書作成） (2)各専門部からの取組報告 (3)次年度に向けての意見交換 (4)田辺市本部会議からの報告事項の確認	

《学校地域課題の選定》

子供の実態から　地域の声から　学校からの意見

（例）子供たちの学力向上に向けて　町民運動会や文化祭の開催にむけて
携帯電話の取扱いについて　学校行事と地域の行事の連携について
ふるさと学習の進め方について　防災学習などの研修や子供達の地域貢献活動への促進について

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：近野地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立近野中学校	公民館名	中辺路公民館近野分館

学社融合における学校・地域の様子

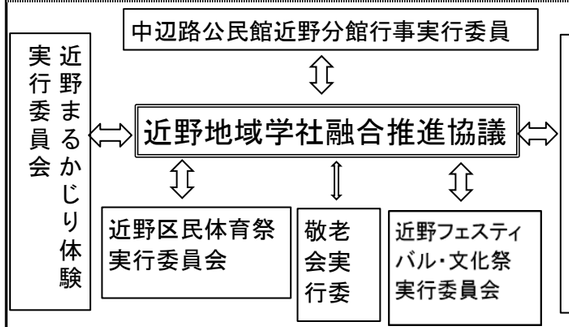
・伝統的に学校と地域の連携が密である。学校と地域が一体となって取り組む行事が多く、中学校も実行委員会に入り一翼を担って、生徒・職員ともに主体的に参加していた。例年は、地域の方々の協力のもと年間を通しての米作りを行い、収穫したうるち米や餅米は、餅つきなど、地域の各イベントの時に活用していた。また、地域にある旅行会社「奥ジャパン」と連携し、アメリカファミリーとの交流を行っている。また、英語語り部も行っていた。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年の取組ができず、新たな取組をした。

目標

学校・園・地域

学校を含めた地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康の増進、高齢者福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取組を行う。
（学校）
・地域での活動を通して地域を知る。
・共同作業を通して、協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学び、地域住民とともに伝統・文化を大切にし、尊敬する気持ちを育てる。
・地域の一員として地域のイベントに参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。
（地域）
・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。
・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・九乗氏・前氏・久保氏
・岡上氏・尾中氏
・多禰氏・三栖氏
・古久保氏
・まるかじり体験実行委員会
・ＪＡ女性会
・近野振興会
・公民館近野分館
・奥ジャパン　　等

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年実施している米作り、餅つき、アメリカファミリーとの交流、熊野古道英語語り部などができなかった。 しかし、「今年度の取組内容」の欄に示したように、新たな取組を通して子供たちはより地域を知り、地域の伝統・文化を大切にし、尊敬する気持ちを育てることができたと思われる。	本年度の取組も大変充実したものであったし、昨年度までの取組も大変良かった。昨年度までの取組と、新たな本年度の取組をうまく融合させ、無理のない良い取組にしていく必要があると思われる。
公民館（地域）	本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学校と地域住民が連携した従来の取組ができなかった。しかし、学校とは常に連絡を取り合った。また、学校だよりの全家庭配布により地域の伝統や文化に関連した新たな学校の取組状況を伝えることができた。	生徒数が少なくなってきている中、学校と地域住民が連携した体験学習を行って、地域全体で子どもを育てる学習を進めていくことが重要となっている。今年度のような状況が続いた場合でも、どのように学校と地域と連携した取組をしていくか考えていきたい。

今年度の取組内容

１、SDGs について学習し、地域の環境について考え、自分たちでできることを考えた。

２、地域の魅力を伝えるキャラクターを作った。
『河童のヨモギー』
毎年地域のイベント「近野丸かじり」で、近野中学生が地域の方にお世話になってお米を栽培し、それを利用してヨモギ餅を販売している。
このヨモギ餅を手に抱え、近露地方の河童伝説をモチーフにしたキャラクター。
『がんちゃん』
熊野古道の伝説に登場する狼。野中獅子舞団のぱっぴを着て、耳は秀衡桜の桜の花びらをイメージしています。
『神水くん』
日本名水百選に選ばれている、野中の清水のイメージ。
おいしい水を汲んでいってねっと語りかけています。
これらのキャラクターには、近野をPRするとともに、近野のすばらしい環境を保持する行動を意識付けるために、SDGｓのマークを付けた。

３、地域を紹介する動画
本年度は、英語語り部をする機会がなかったので、熊野古道を中心に近野エリアを日本語、英語で紹介する動画を作っている。生徒が、現地に撮影に行って動画を編集し、ナレーション原稿を日本語、英語で考えて完成させた。紹介箇所は全部で１１か所ある。

４、近野紹介マップwith 動画が開けるQRコードつき
動画をQRコードにして、近野のマップを生徒が作成し、その地図に貼り付けた。このマップは地域の施設などにおいて頂く。また、毎年交流をしているアメリカの旅行会社にも届け、海外でも近野のPRに協力して頂く。

５、近野地区の環境保持活動
”KYSGs　プロジェクト”と名付けている。（Keep yourself to sustainable goals
~持続可能な目標達成のために、あなたの行動を続けてください~
というスローガンと３キャラクターの頭文字をとって決定）
現在、生徒が主体的に取り組んでいる。本年度は以下のようなプロジェクトを実施した。
☆地域クリーン活動　　☆エコバック作り
☆日置川のきれいな環境を守ろう！！　ポスターを書いて啓発
SDGs１７の目標のうちこの地域で６つの目標を達成に向けて頑張ろうと掲げている。

６、今後の取組
SDGｓの目標、ナンバー１７の「パートナーシップで目標を達成しよう」では、生徒、教職員と地域の方も一緒になって、環境を保持することを目指している。今後も、もっと地域の方に働きかけていく予定。
また、マップのQRコードから動画を見てくれた方、熊野古道を歩きに来てくれた観光客の方々にも、一緒に持続可能な地球を守ろうと呼びかける。
近野地域一丸となって、この近野地域の素晴らしい自然と環境を守り、また、世界中にパートナーを作り、この近野地区のような取組を広げていき、SDGｓの目標を達成していきたいと考える。

近野から世界へ！！　Keep your self to sustainable goals ！

生徒作　環境保護ポスター

熊野古道動画撮影

動画編集作業

近野クリーン活動

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：大塔地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立大塔中学校	公民館名	大塔公民館

学社融合における学校・地域の様子

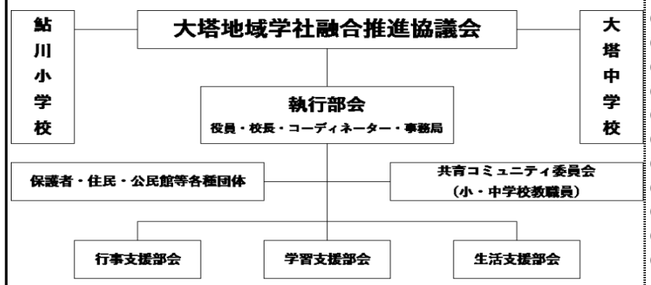
旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景もあり、保護者及び地域住民は学校教育に協力的であり、PTA活動や学校行事への参加は積極的である。しかし、一方では共働きや一人親家庭の増加に伴い、平日行われる参観日等の出席率は低い傾向にある。また、昼間はほとんどの成人が旧田辺市など近郊に働きに出るため、大きな災害が発生した時など地域で活動できる人材が特に不足することも想定できる。

目標

学校・園・地域

○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。
○鮎川小学校と大塔中学校の９年間を見通した学校運営を行う。
○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。
○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

○大塔公民館、各分館
○田辺市自治会連絡協議会大塔支部
○大塔女性会
○大塔老人クラブ
○社会教育委員会
○子どもクラブ
○放課後ふれあいスクール
○民生児童委員
○田辺市保護司会大塔支部
○社会福祉協議会
○田辺市消防署大塔分署
○青少年健全育成市民会議
大塔地区協議会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・消防署と連携した訓練、保育園との合同避難訓練を実施した。災害時の対応について、シェイクアウト訓練を取り入れ、本番さながらの体験を行った。 ・図書ボランティアさんのサポートにより、図書室の整備が進み、本を借りやすい、読みやすい環境が整えられている。 ・大塔CSを中心とした朝のあいさつ運動により、児童生徒の安全が確保されている。	・災害が起こった時に、中学生が中心となるため、動きの確認や役割分担を明確にしておく必要がある。 ・ふるさと大塔を誇りに思っている生徒は多いが、地域の担い手を育てるために、改めてふるさとを見つめ直し、考える「ふるさと学習」等の取組も必要である。
公民館（地域）	○新型コロナウイルスの影響で、核となる学校が休校になるなどして、事業が十分に実施できなかった。 【行事支援部】 ・児童生徒のボランティアを広める→昨年からクラブ活動が休止となる水曜日に、ふれあいスクールや地域の花いっぱい活動に参加をしてきたところであるが、休校や感染拡大防止の観点から参加ができなかった。 ・地域行事への児童・生徒・家庭の参加を進める→生徒たちが毎年参加している地球元気村やリフレッシュ大作戦などの行事が中止となり参加できなかった。地域の方々と触れ合える良い機会であったので残念である。 【学習支援部】 ・学校図書館の運営ボランティア→学校再開に伴い、学校司書と連携を図りながら活動を展開できた。 【生活支援部】 ・学校や施設の環境整備→通学路の危険個所を点検。整備する方向となった。 ・家庭の躾など地域で取り組めるようなことの提案→情報モラル講演会により、SNSの危険性等を生徒たちが学んだ。保護者の参加も見られ、その危険性を生徒たちと共有できた。	※学校の休校が続き、計画していた事業が実施できなくて残念であった。 ・地域の方とボランティア活動等を通じて協働できなかった。生徒が地域へ出向いて、住民の方々と触れ合える場を創出したい。 ・中学3年生の夏季以降の自主学習に向けて人材等確保できないものか？ ・地域の一員として、学校・生徒があるということを学校・地域の両方に理解していただけるような事業の展開が必要。

今年度の取組内容

○あゆかわ保育園と連携した避難訓練

・今年は「シェイクアウト訓練」を取り入れ、より体験的な避難訓練を行いました。避難する際には、中学校３年生があゆかわ保育園の園児の手を引いて避難したり、避難グッズを運ぶ手伝いをしたりしました。中学生が、地域の支援者として活動できる場を設けることができました。

・警察の方から、大地震に備えて準備しておくものや避難の心得を教えていただきました。

○大塔女性会の方とチューリップの球根植え

・大塔女性会のみなさんのご厚意で、チューリップの球根を寄付していただきました。生徒会の環境文化委員と一緒に、プランターに球根を植えました。女性会のみなさんに手ほどきを頂きながら、楽しいひと時を過ごしました。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：本宮地域学社融合推進協議会

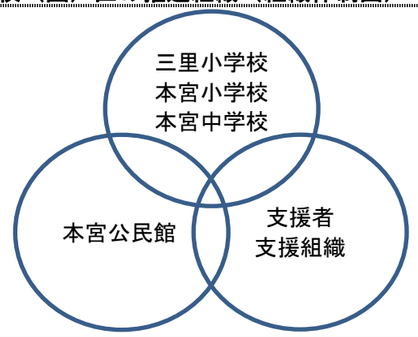
学校・園名	田辺市立本宮中学校	公民館名	本宮公民館

学社融合における学校・地域の様子

共育コニュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着している。
　平成２３年度から、「音無の里共育コニュニティー事業」として小中３校と全地域が一体となった本宮独自の「学社融合」の取組を行っており現在も継続している。

目標	学校・園・地域	平成３０年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足したが、これまで本宮独自で発生した取組である主な３項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として実施していく。 　また、学校支援地域本部事業として取り組んできた、郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの内容を協議会の委員さんをはじめとする支援者・支援組織の皆様からの意見をいただきながら内容を見つめ直していく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

育友会
熊野本宮語り部の会
本宮プロバスクラブ
田辺市女性会連絡協議会本宮支部
本宮町自治会連絡協議会
本宮町林業研究グループ
学校ボランティア
世界遺産熊野本宮館

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・体育科の武道は合気道を行っている。今年度は実技を中心に指導して頂いた。授業の実施に向けての事前の連絡や打合せ等を通して、地域の方とコミュニケーションを図ることができ、信頼関係を深めることができた。生徒は、武道を通じて相手の痛みや苦しみを心と体で感じ取ることができている。 ・プランターの花配布の活動では、地域の方々より好感のもたれた意見が寄せられ、地域に貢献することにより、子供たち自身が地域の方々に元気を与えているということを実感している。	・今後も、共育コミュニティを通じて、また今までのつながりを生かして、色々な方に参加、協力して頂ける体制を継続していきたい。 ・現在行っている活動を継続しながら、地域とのつながりを深め、地域の方に学校教育に関わってもらえるよう積極的な働きかけをしていく。
公民館（地域）	・新型コロナウイルス感染症により、活動自体を制限せざるを得ない状況になったが、規制が段階的緩和されてから支援活動の取組を行うことができた。 ・学校教育に参画することで、サークル活動等で取得した知識や経験を生かせる場ができ、指導する喜びや生きがいを感じられる機会が生まれた。 ・子供たちと接することにより、子供たちから元気をもらい、子供たちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。	・学校教育に参画していただける方の発掘と今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていきたい。 ・学習パートナーの高齢化に伴い、新たな人材を探す必要がある。そのために、地域住民に学校教育に参画していただけるよう啓発活動を工夫していく。

今年度の取組内容

令和２年度取組の内容

❶合気道授業

〇日時：令和２年　９月２０日（火）　合気道　実技
１年生　第１～２限（　８：３５～１０：２５）
２年生　第３～４限（１０：３５～１２：２５）
３年生　第５～６限（１３：２５～１５：２５）
＊本年度はコロナ禍のため内容を縮小して実施しました。

〇活動内容
・ボランティアと教科担当による
　事前の打合わせ

・授業（実技　全学年２時間を１回）
　地元の合気道熊野塾の方から、
　合気道について講義や実技等で
　指導をして頂いた。

❷プランター花植え

日時：令和３年　１月２２日（金）
　　作業　第５限（１・２年生）　第６限（３年生）
（目的）
　生徒とボランティア、地域、保護者の方々が協働し、町に花をとどけ、活気ある地域づくりに貢献する。
（活動内容）
・プランターの土づくり（１２月２３日）
・パンジーの苗植え（１月２２日）

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立新庄幼稚園	公民館名	新庄公民館

学社融合における学校・地域の様子

新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、平成３０年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取組も進めています。

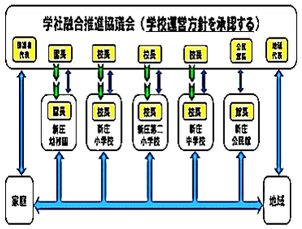
目標　**学校・園・地域**

田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則
第２条（目的）　協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。

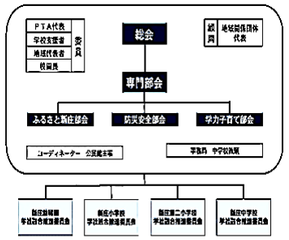
新庄幼稚園
〇地域とのつながりを大切にし、地域に開かれた園運営（保育の公開や参加型の保育）を展開し、地域の方の幼稚園理解を深める。
〇地域の人、自然、文化との出会いやふれあいを大切にし、ふるさと新庄が大好きな子供を育てる。（親世代も巻き込んで）
〇応答性のある関係づくり、互いにメリットのある活動を大切にし、地域の中の幼稚園・子育て支援の核となれるよう努める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

新庄地域のコミュニティスクール（イメージ図）



新庄地域学社融合推進協議会組織図



支援者及び支援組織

学社融合推進協議会
〇　幼稚園・小中学校育友会
〇　学校支援者・地域代表者
〇　地域関係団体
〇　公民館運営委員会
〇　新庄地区校区協議会
〇　新庄共育コミュニティ本部

新庄幼稚園（おまつりごっこ）
・地域や民生委員の方々
・グラウンドゴルフの方々
・保護者
・未就園児と保護者
・つながりのある方々

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	新型コロナウィルスの影響により、園外での活動経験が少なくなった分、園内での活動経験が豊富になった。子供同士の話し合いの中で、伝え合う力や自分の気持ちに折り合いをつけながらみんなで活動する楽しさを感じられる経験が多く得られた。また、年長児が年少児を思いやる気持ちや、年少児が年長児を憧れる気持ちがより強くなり、今後の活動でも活かされる経験を多く積むことができた。	今年度は、新型コロナウィルスの影響により、感染症対策を十分に確保するため、各行事での地域の方々との交流ができなかった。また、普段においても幼稚園を地域に開くことが難しく、園児にとって地域の方々との交流の中で感じる、人と関わる楽しさや地域への親しみも十分ではなかった。今後は、感染症対策を十分にしながらの交流を大切にしていく必要がある。
公民館（地域）	今年は例年どおりの活動はできない中であったものの、感染予防をしつつ園内で取組が行えるような工夫や子供たちが楽しめる内容で行われた。	今年のような状況であっても、園と地域の交流を絶やさないようにどのようなことができるかを考える必要がある。公民館報を使った情報発信やリモートでの交流など、園と地域が互いの状況を知ることができる工夫をしていきたい。

今年度の取組内容

「おまつりごっこ」に向けての取組

「おまつりごっこ」について投げかけ、話し合う

「本物のお祭りみたいにしたい！」「お祭りには、獅子舞と山車がある！」
・年長児がリードし、地域のお祭りを思い出し作りたいものを提案。

ねらい
・「おまつりごっこ」に向けて友達と話し合いながら、遊びを作っていく楽しさを味わう。
・遊びの中で自分の力を発揮し、友達や地域の人とのかかわりを楽しみ、達成感や充実感を味わう。

〇獅子舞グループ・山車グループに分かれて制作

〇お店屋さん
・「りんごあめ」だったら、どんな素材が使えるかな？
・このどんぐり、松ぼっくりで何ができるかな？

素材探し・材料集め

〇獅子舞グループ
・地域の獅子舞を思い出し、いろいろな素材を使って獅子舞を作り上げていく
〇山車グループ
・写真を常に見ながら本物のようにと意識しながら素材を組み合わせ作っていく。

〇年長
・本当のお祭りのようにしたいという思いから地域のお祭りを思い出し、『りんごあめ』『しゃてき』『きんぎょすくい』『わたあめ』のお店開店を目指す。（友達同士での認め合いや伝え合い）
〇年少
・コーナー遊びから、松ぼっくりやどんぐりを使ったお店の開店を目指す（認め合いやできたという満足感）

〇獅子舞グループ
・出来上がりを喜び、実際にお祭りの音楽をかけたりしながら、まわして楽しむ。
〇山車グループ
・実際に山車には、太鼓が乗っていることに気づき、自分たちも作りたい！

〇年長
・品物も地域のお祭りのようにしたいという思いからどの素材を組み合わせるといいかをグループで試行錯誤。
〇年少
・どんぐりの壁飾りや松ぼっくりの人形を自分なりに作って楽しむ。

〇みんなでまわしてみよう！
・獅子舞グループと山車グループが遊戯室に集まり、おまつりごっこに向けて、舞う練習を始める。それぞれが役割となり、太鼓をたたいたり、獅子舞の頭を順番に務めたりして、お祭りの雰囲気を楽しむ。

〇年長
・お店開店に向けて看板が必要なことに気づき、店構えも実際のお祭りのようにしようとグループで考え、伝え合いを重ねる。
・話し合いを重ねることでいろいろな形の看板（幟など）が出来上がり、お祭りの雰囲気が出てくる。
〇年少
・品物ができてきたことを喜び、店構えについて、保育者と共に考え、思いを出し合う。

おまつりごっこ　11/6

〇もっといろいろな人に見てもらいたい！
・「グラウンドゴルフのおじちゃん、おばちゃんに見てもらおう」と子供たちの声から、見ていただける時間を作っていただき、舞を見ていただきました。「かっこよかったよ！」「上手につくったねー」と言っていただけたことで子供たちは、満足感・充実感を存分に味わうことができました。

〇次年度に向けたの取組方法
今年度は、新型コロナウィルスの影響があり、地域の方と交流できる時間が少なかった。そのため、人とかかわる楽しさや地域への親しみが十分ではなかった。次年度は、行事だけでなく、普段から幼稚園を地域に開き、地域への親しみをもてるようにしていきたい。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：三栖地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立三栖幼稚園	公民館名	三栖公民館

学社融合における学校・地域の様子

三栖地域は、梅やみかんなどの栽培が盛んな地域である。しかし、近年は新興住宅やマンション等が増え、農家の数も減少してきている。そうした中、保護者・地域の方々は園の活動に協力的である。本園では、友だちとのつながりを大切にした保育を充実させ、地域の人のやさしさや温かさにふれることで「人が好き」「地域が好き」な子供に育ちつつある。

目標		
	学校・園・地域	・地域の方々と触れ合い、人のやさしさや温かさに触れ、人と関わる喜びや楽しさを味わう。 ・日常的な温かい関係作りができ、地域に支えられ、地域に根づいた園経営を目指していく。 ・幼稚園と連携を取り、地域の方に幼稚園の様子を知ってもらうことで、地域ぐるみで子供を見守っていく意識を高める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

三栖幼稚園・三栖小学校学社融合推進協議会
- 会長（公民館長）
  - 副会長（町内会長）
    - 委員
      - ・地域関係者
      - ・保護者
      - ・校園長
    - 事務局
      - ・公民館主事
      - ・小学校教頭
      - ・小学校学社融合担当職員

支援者及び支援組織

保護者
三栖公民館
三栖小学校
衣笠中学校

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・行事が精選される中、公民館文化委員さんや三栖町内会の皆様にご協力いただき、「衣笠山登山」を実施することができて良かった。 ・中学校との交流も例年より少なくなったが、ドングリ拾いに行かせてもらったりきれいな合唱をきかせてもらったり、普段の生活の中で自然に交流できることが分かった。 ・小学校とのつながりを持つことで、これまで以上に小学校を身近に感じられるようになった。 ・「えんだより」や「公民館報」で保護者・地域へも活動の様子を発信できた。	・衣笠山登山については、できるだけ多くの保護者の皆さんに参加してもらえるような手立てが必要である。 ・どの活動も事前にしっかり計画を立て、内容を充実させていくことが大切である。 ・今後、小学校とのつながりについては幼稚園に気軽によってもらうなど様々な交流の機会を考えていきたい。
公民館（地域）	・今年度は行事が制限される中、子供たちと一緒に衣笠山に登ることで、幼稚園をより身近に感じることができた。 ・運動会や発表会などのイベントを通して、幼稚園の取組や現状を知ることができた。子供たちと交流することで地域ぐるみで子供を見守る意識を高めることができた。	・より多くの方々に、園児たちの育ちに関心を持ってもらえるような機会をつくり、地域が地域でできることを考え、積極的に関わっていける体制を構築していきたい。

今年度の取組内容

〈小学校とのつながり〉
今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のために、たくさんの行事が中止・縮小されることになった。そんな中、昨年度からの課題でもあった幼稚園と小学校とのつながりをもう少し増やしていきたいということから次のような取組を行った。

○　防火パレード
例年、田辺消防署の協力を得て、三栖幼稚園幼年消防クラブとして町内をパレードしている。途中、数カ所で「誓いの言葉」を唱え、地域の方々に防火啓発を行っている。今回、三栖小学校の大休憩の時間にお邪魔させていただいた。子供たちは、運動場やベランダに出てきたたくさんの小学生の前で、大きな声で「誓いの言葉」を唱えることができた。子供たちにとって、小学生や地域の方々に自分たちが見守られているということを実感できる良い経験になった。

○　校内マラソン大会応援
三栖小学校校内マラソン大会のコースが園の前ということで、当日沿道から応援させてもらった。
「ガンバレー、ガンバレー。」
と、大きな声で応援すると、スピードをあげて力いっぱい走り出す小学生が何人もいた。終わってから、
「みんながんばって走っていたなあ。」
「ぼくも走ってみたくなったよ。」
と、子供たちから小学生が一生懸命走る姿に感動した声や来年度自分が走る姿を思い浮かべているような声が聞こえてきた。

○　その他
・年賀状での交流・・・毎月行っている学社融合担当者会議から提案されたものである。幼稚園・小学校・中学校の交流の一つとして年賀状のやりとりにより交流を行う。

・体験入学　・・・・・・・例年、学校見学や授業参観をさせてもらっている。年長児にとっては、疑似体験をすることで、小学校入学への期待感を持ったり、安心感につながったりする大切な体験である。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：上秋津地域学社融合推進協議会

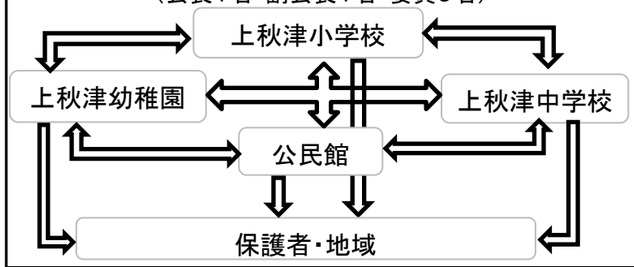
学校・園名	田辺市立上秋津幼稚園	公民館名	上秋津公民館

学社融合における学校・地域の様子

旧田辺市の北東部、標高６０６メートルの高尾山のふもとに位置し、静かな環境の中に所在している。上秋津地区は年間を通して色々な柑橘類の生産が主であったが、近年は専業農家の家庭は減少していて、今年度当園における専業農家は２世帯である。昔から教育熱心な地域であるので、幼稚園教育にも理解があり物心両面に協力的で、温かい支援を頂いている。しかし、今年度はコロナ禍の為に、地域のほとんどの行事が中止になり、各種団体との交流も出来なくなった。休園中の時もあったが、預かり保育は実施されており、９５%の出席率で継続している。

目標	学校・園・地域	・今までの学社融合による地域との交流について、今まで深めてきたつながりを絶やさず、繋いていけるような取組の方法を考える。 ・交流の仕方を工夫することで継続していけるもの、直接の交流が難しくてもメッセージのやりとり等内容を工夫していく等 ・絵本タイム支援（お話の会、絵本タイム支援） ・安心ネットワーク活動 ・老人会交流 ・老人保健施設あきつのとの交流等

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

あきつの運営委員会
上秋津地区民生児童委員
上秋津老人会
社会福祉協議会

	成果	課題
学校・園	・コロナ禍の中で、園外との交流は難しいと決めてしまうのではなく、少し工夫することで継続できる事が実感できた。 ・定期的にメッセージ等をやりとりしたことによって、直接会えなくても幼稚園を身近に感じてもらうことが出来た。 子供たちも、メッセージを作りながらおじいちゃん、おばあちゃんのことを思い出したり、届けたメッセージを喜んでもらえていることに、喜びを感じている。 ・直接交流したことがない園児も年長児がメッセージを書いたりプレゼントを作っている姿を見たりすることで、次年度以降へとつないでいくきっかけとなった。 ・直接会って交流できなくても、心でつながっているということが感じられた。	・職員の異動があっても、このつながりが途絶えないように、また交流の方法なども臨機応変に対応できるようにしてきたい。 ・今年度は公民館を通してのつながりを持つことが出来なかったので、昨年度までの継続が途切れないように次年度は公民館主事さんにも幼稚園との橋渡しなどをしてもらえるように打合わせをしていきたい。
公民館（地域）	・今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、「夏まつり」や「敬老会」などの事業が実施できず、地域と子供たちが交流する機会は、例年よりも少なくなってしまった。しかし、幼稚園職員の工夫により、地域の方と子供たちとの交流を継続的に行うことができた。 ・幼稚園と高齢者の交流により、子供たちは思いやりの心を持ち、また高齢者は子供たちから元気をもらうことができ、相互にとって良い経験になっている。	・地域と幼稚園の課題を共有し、課題解決に向け、お互いに協力する体制を継続していきたい。 ・園児数の減少により幼稚園との関わりが少ない方も多いため、そのような方にも幼稚園の取組を知ってもらうことができるよう、公民館報などでの広報を工夫する。 ・今年度のように、例年通りに事業が実施できない場合もあるため、状況に応じた事業を考えていきたい。

今年度の取組内容

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、今までと同様の交流をすることが難しくなった。そこで、今年度なりの交流の仕方を考え、次年度以降もつながりを続けていけるように取組を進めることにした。

≪工夫することで継続してきた取組≫

・絵本タイム支援

お互いにマスクを着用し、段ボールのシールドを各所に置き、仕切りをすることで密を避けられるようにして実施してきた。絵本が好きな子供たちは温かく接してださる地域の方にすぐに親しみを覚え、毎月楽しみにしている。

・お話の会

お話の会「まめこ」さんから、マスクをつけての読み聞かせが難しいとの相談を受ける。そこで、天井から飛沫防止のビニールを吊るすことで、読み手の方がマスクなしで読み聞かせが出来るように工夫した。ビニールで見えにくいように思ったが、絵本に慣れている子供たちだったので、子供たちも落ち着いてお話の世界を楽しんでいる。お話の会の方も、大型絵本やパネルシアターを使うなどして工夫してくれている。

・安心ネットワーク活動

マスクを着用し、適宜消毒をする等気を付けながら行った。訪問する際は少人数で、一定の距離を保つなどして例年より間隔をあけることを心がけた。コロナ禍の中で、なかなか人と会うことも出来ないので、訪問先の高齢者の方にとても喜んでいただいた。

≪交流の内容を工夫した取組≫

・手洗いポスターの作製

高齢者の健康を心配した子供たちが、「しあわせならてをたたこう」の替え歌で手洗いの歌を作ることを提案した。教師も協力してポスターを作製し、地域の老人施設等に配布した。「これを見ながら丁寧に手洗いしています」と職員の方から報告を聞いた。

・メッセージカードを届ける

例年ならば、七夕には老人会や老人保健施設あきつのの高齢者の方々と七夕製作を楽しむが、高齢者との交流は難しいため、子供たちがメッセージカードを作り、届ける。

また、10月にはハロウィンの飾りを付けたメッセージを届けた。グループホームあきつのでは、子供たちのメッセージを見て、「自分たちもパーティーをしよう」とハロウィンパーティーを開きましたと職員の方からの嬉しい報告もいただいた。

生活発表会でも、今年度は来賓の方に来ていただくことが出来なかったので、子供たちの写真を1枚のお手紙にして地域の方にお届けし、喜んでいただいた。

・子供たちメッセージのお礼にとグループホームの利用者の方たちがみんなで手縫いで仕上げた手作りの「十二支のタペストリー」を頂いた。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：中芳養地域学社融合推進協議会

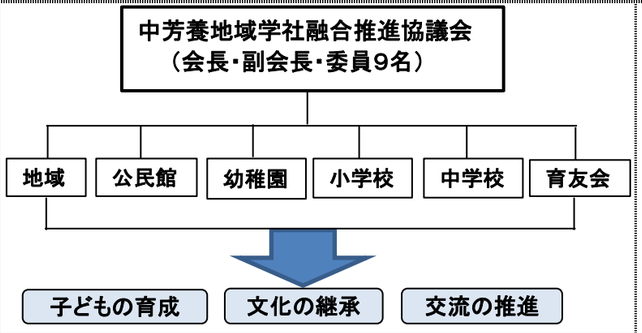
学校・園名	田辺市立中芳養幼稚園	公民館名	中芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

「地域とともにある学校　学校でつながる地域の“わ”」をテーマに、「子供の育成」「文化の伝承」「交流の推進」を３つの柱として取組を進めている。この取組の成果を生かし、地域とのつながりを大切にした取組を深める中で、地域の方と園児が交流する機会や体験的な活動が充実しつつある。菜園活動の指導や園内活動の援助、地域学習の支援、自然体験活動の場の提供などたくさんの支援と協力を頂いているところである。

目標	学校・園・地域	
		・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・未就園児の家庭
・中芳養公民館
・中芳養小学校
・中芳養町内会
・中芳養中学校
・老人会「芳寿会」
・JA紀南芳養谷支所

成果と課題

	成果	課題
学校	○今年度はコロナウィルス感染予防のため、2学期からの取組となった。心待ちにしていた家庭も多く、大変喜んで頂けている。 ○在園児にとっては「小さい友達に優しく接してあげよう」と思いやりの気持ちが育ち、未就園児にとっては「お兄ちゃんお姉ちゃんありがとう」と感謝や憧れの気持ちの育ちに繋がっている。 ○保護者同士の憩いの場となることで、子育て支援となっている。	○登園日（交流会）の回数があまり持てなかったので、在園児、未就園児の深いかかわりができなかった。次年度、子供たちの心が通う内容を考えて、取り組んでいきたい。 ○幼稚園自体の園児数も減少傾向で、遊びに来てくれる未就園児も少ない現状がある。未就園児用の遊具の寄付をしてもらったり、購入を進めたりしているが、予算もあまりないので難しいところではある。 ○次年度は園庭開放の回数を週１程度に増やしていければと思う。 ○より幼稚園の取組の様子を知ってもらう啓発を進めていきたい。
公民館（地域）	・地域の方々や友達と関わる機会を徐々に増やしていくことができた。それにより、子供たちは生き生きと多くのことに親しみを持ちながら過ごすことができた。 ・さまざまな体験を通じて、地域とのつながりが深まっているだけでなく、基本的生活習慣を身に付けることもできている。	・幼稚園の良さや特徴、活動内容等をさらに多くの人に知ってもらうことができるよう、広報活動の充実に努め、ＰＲを行っていきたい。 ・さまざまな体験で得た知識や経験を発揮できるよう、今後の取組内容の充実を図っていきたい。

今年度の取組内容

未就園児支援事業
～中芳養地域の子供たちの健やかな育ちの一助に～

未就園児登園日（交流会）

☆在園児と未就園児の友達と一緒に遊びを楽しもう！

○9月18日
『運動遊びをしよう』
・自己紹介　　・準備体操
・いろいろな運動遊びをしよう
　フラフープ、一本橋、トンネルくぐり、マットなど
・かき氷のおやつ

○11月13日
『マメ子おはなしの会さんからの読み聞かせ』と
『菜園活動』
・年少児、未就園児合同での読み聞かせ会
・菜園で落花生　と　キウイの収穫

園庭開放日

10時～11時半まで園庭と遊戯室を開放。友達、お家の人と一緒に好きな遊具やおもちゃでいっぱい遊ぼう！
（月２回程度）

○9月9日（水）
○9月23日（水）
○10月14日（水）
○10月21日（水）

お芋ほり体験

○11月4日（水）
○11月18日（水）
○12月16日（水）

活動を知ってもらおう！（広報活動）

○登録している家庭と、中芳養小学校の協力を得て1、2年生の児童の家庭に、遊んでいる様子や写真、園の情報などを掲載した『幼稚園ニュース』を配布。
○公民館報、ホームページなどを活用し、遊具の紹介や交流日、開放日の予定を掲載。
○ホームページ「未就園の広場」では、未就園児の家庭に向けて活動の様子や行事のお知らせを配布。